

国立大学法人佐賀大学  
教養教育運営機構

自己点検・評価報告書

平成 20 年 9 月

# 目 次

1	目的及び概要	…… 2 頁
2	教育研究組織	…… 5 頁
3	教員及び教育支援者	……11 頁
4	教育内容及び方法	……21 頁
5	教育の成果	……58 頁
6	学生支援等	……67 頁
7	施設・設備	……74 頁
8	教育の質の向上及び改善のためのシステム	……79 頁
9	管理運営	……91 頁
	資料編：平成 19 年度計画の進捗状況	……106 頁

## 状況と分析

### 1 目的及び概要

#### (1) 観点ごとの分析

**観点 1-1-1：大学の目的（学部、学科又は課程の目的を含む。）が、明確に定められ、その目的が、学校教育法第 83 条に規定された、大学一般に求められる目的から外れるものでないか。**

[トップ](#)

### 教養教育運営機構 1-1-1

#### (1) 機構の基本的な方針及び目標

本学における教養教育は、佐賀大学学則第 2 条「国際的視野を有し、豊かな教養と深い専門知識を生かして社会で自立できる個人を育成するとともに、高度の学術的研究を行い、さらに、地域の知的拠点として、地域及び諸外国との文化、健康、科学技術に関する連携交流を通して学術的、文化的貢献を果たすことにより、地域社会及び国際社会の発展に寄与することを目的とする」の規定に基づき、教養教育運営機構規則第 2 条「教養教育運営機構は、本学の教養教育実施機関として、本学の目的、使命に則り、全学の教員が担う教養教育を円滑に実施する」と定めている。

また、教養教育の科目は、大学入門科目、主題科目及び共通基礎教育科目に区分されている。主題科目は、いずれかの主題についてまとまった知識と課題発見・解決能力の修得を目指す科目群で、分野別主題科目と共通主題科目に区分され、前者は「文化と芸術」「思想と歴史」「現代社会の構造」「人間環境と健康」「数理と自然」「科学技術と生産」の 6 つ、後者は「地域と文明」の 1 つの主題分野から構成されている。共通基礎科目は、外国語、健康・スポーツ、情報処理の各科目に区分されている。

なお、各科目及び分野の教育目標は、以下に示す通りである。

#### 資料・データ番号 2-1-②-1 教養教育科目分野の目標

分野		目標
大学入門科目		新入生に対して少人数で行われるセミナーで、大学で学ぶ学問の意義やその方法、また、教員との人間的なふれあいを通じ、大学生活の諸問題について学ぶ。この科目については、学部・学科等毎に授業が実施されている。
主題科目	文化と芸術	人間の表現能力とかかわる文化的活動の様々な姿を解明することを目的とする。人類の文化的所産を「語る、書く、作る、演ずる、願う、描く」などの表現活動の面からみる。
	思想と歴史	世界各地域の思想と歴史の特質を知り、これら各地域の異文化交渉の歴史を認識することを目的とする。過去の思想と歴史の理解から、未来への展望を開く。

	現代社会の構造	現代社会は、国内外を問わず、民族あるいは経済的利害の対立が強まり、混迷を増すばかりである。これらの原因を政治・経済の側面から考察していく。
	人間環境と健康	ここでは、対象を人そのものに置く。身体や心が変化する過程、教育の過程、これらの過程に及ぼす環境の役割などを論ずる。自己の生活、他人の生活と人格の尊重など、生きていく上で身につけねばならないものを論ずる。
	数理と自然	我々を取り巻く自然の中に生起する様々な現象の背後にある法則性と数理を解明する。自然の変化と歴史、複雑な現象の中にある原因と結果、その数理的構造などがどのように認識されてきたのかを論ずる。
	科学技術と生産	現代のハイテク技術やバイオテクノロジーの発展、科学と技術の関係や発展の歴史、農業生産と環境問題等、これから社会に巣立つ学生にとって重要な情報を講義する。
共通主題科目	地域と文明	佐賀の歴史、文化、教育、地理、自然、科学、産業など地域に関する身近な諸課題について、具体的に学び経験することを通して、問題発見力と問題解決力を養う。
共通基礎科目	外国語科目	外国語として英語、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語及び日本語（留学生向け）が開講されている。読む、書く、聞く、話すの4技能の向上を図りながら、国際社会で生きていく上で、異文化と出会い、異文化に対する偏見のない態度と世界に対する広く複眼的な視野を身につけることを目的としている。
	健康・スポーツ科目	身体運動を通しての教育という独自の立場から、理論と実践の総合的な学習を通して、身体運動による健康への応用と生涯スポーツへの志向を目指している。
	情報処理科目	情報化社会に対応できる能力や各種情報機器を使うための能力を養う科目である。情報に関する概念を学び、情報システムに慣れることを目的としている。

(出典 佐賀大学教養教育運営機構『教養教育科目の授業概要』2-4頁)

このように、教養教育運営機構では、大学設置基準第12条第2項「大学は学部等の専攻に係わる専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮しなければならない」に則った教養教育の目標を定めている。

観点1-2-1： 目的が、大学の構成員（教職員及び学生）に周知されているとともに、社会に広く公表されているか。

## 教養教育運営機構 1-2-1

教養教育運営機構の目標等については、教養教育運営機構ホームページ (<http://www.ofge.saga-u.ac.jp/>) に掲載し、教職員及び学生に周知するとともに、社会に広く公表している。また、学生に対しては『教養教育科目の授業概要』の「教養教育科目の履修手引」（1-5頁）に掲載し、全学生に配布している。

### 資料1-2-①-1 教養教育運営機構の各分野の目標例

#### ◆第1主題分野「地域と文明」

この科目は、地域に関わる身近な諸課題について具体的に学び経験することを通して、問題発見力と問題解決を養うことが目的で、二つの副主題の下に授業が展開される。副主題「地域とくらし」では、「九州北部に位置する佐賀の自然的・社会的環境の中で営まれる人々のくらし」について、副主題「佐賀の文化」では、「佐賀の風土が育んできた文化・芸術・教育・科学・産業等の多様性とその意義」について考察する。

[▲ページのトップへ](#)

#### ◆「外国語科目」

今日の国際化社会を生きていく上で、外国語の修得は必要不可欠である。外国語学習はただ単にコミュニケーション能力を高めるだけに留まらない。どの言語にも背後にその言語を成立させている固有の文化があることを知ることで、異文化に対する広く深い理解が得られ、併せて自国の文化を見直す上で大いに役立つ複眼的見方も身に付くのである。こうした考えのもと、本学では学生の多様なニーズに応えるため、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語の5科目と、外国人留学生のための日本語が開講されている。

[▲ページのトップへ](#)

#### ◆「健康・スポーツ科目」

健康・スポーツ科目は、体育科学・医学・福祉等の研究成果を踏まえた大学教育の一環として、身体の教育、健康の教育あるいは身体運動やスポーツを通しての教育というその独自の立場から、健全なライフスタイルやQOLの向上のために体力や健康の保持・増進あるいは生涯スポーツへの志向を目指している。その教育目的に応じて、健康科学講義、スポーツ科学講義、健康科学演習、スポーツ科学演習及びスポーツ実習等多様なプログラムが準備され、理論と実践の総合的な学習が意図されている。

(出典 教養教育運営機構ホームページ <http://www.ofge.saga-u.ac.jp/>)

## 2 教育研究組織

### (1) 観点ごとの分析

観点2-1-①： 学部及びその学科の構成（学部，学科以外の基本的組織を設置している場合には，その構成）が，学士課程における教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

### 教養教育運営機構

該当なし

観点 2-1-②： 教養教育の体制が適切に整備され、機能しているか。

## 教養教育運営機構

国立大学法人佐賀大学規則に基づき、教養教育運営機構が教養教育実施組織として設置されている。教養教育運営機構には、教養教育を円滑に実施するため、共通基礎教育科目及び主題科目の区分ごとに第1～10部会を置いている。全学の教員は、いずれかの部会に正会員又は準会員として所属し、部会が開設する教養教育科目を担当している。また、大学入門科目、共通基礎教育科目により、教養教育から専門教育への円滑な移行を目指すとともに、7領域から構成される主題科目を1年次から4年次にかけて履修できる体制を整えている。なお、各学部・学科は、32単位から41単位の教養教育科目について、単位を修得するよう学部規則において定めている。

資料2-1-② 教養教育運営機構協議会の構成部会

教養教育科目の区分	担当部会
主題科目	
第1分野（文化と芸術）	第1部会
第2分野（思想と歴史）	第2部会
第3分野（現代社会の構造）	第3部会
第4分野（人間環境と健康）	第4部会
第5分野（数理と自然）	第5部会
第6分野（科学技術と生産）	第6部会
共通主題科目	
第1分野（地域と文明）	第7部会
共通基礎教育科目	
外国語科目	第8部会
健康・スポーツ科目	第9部会
情報処理科目	第10部会

観点2-1-⑤：大学の教育研究に必要な附属施設，センター等が，教育研究の目的を達成する上で適切に機能しているか。

[トップ](#)

## 教養教育運営機構

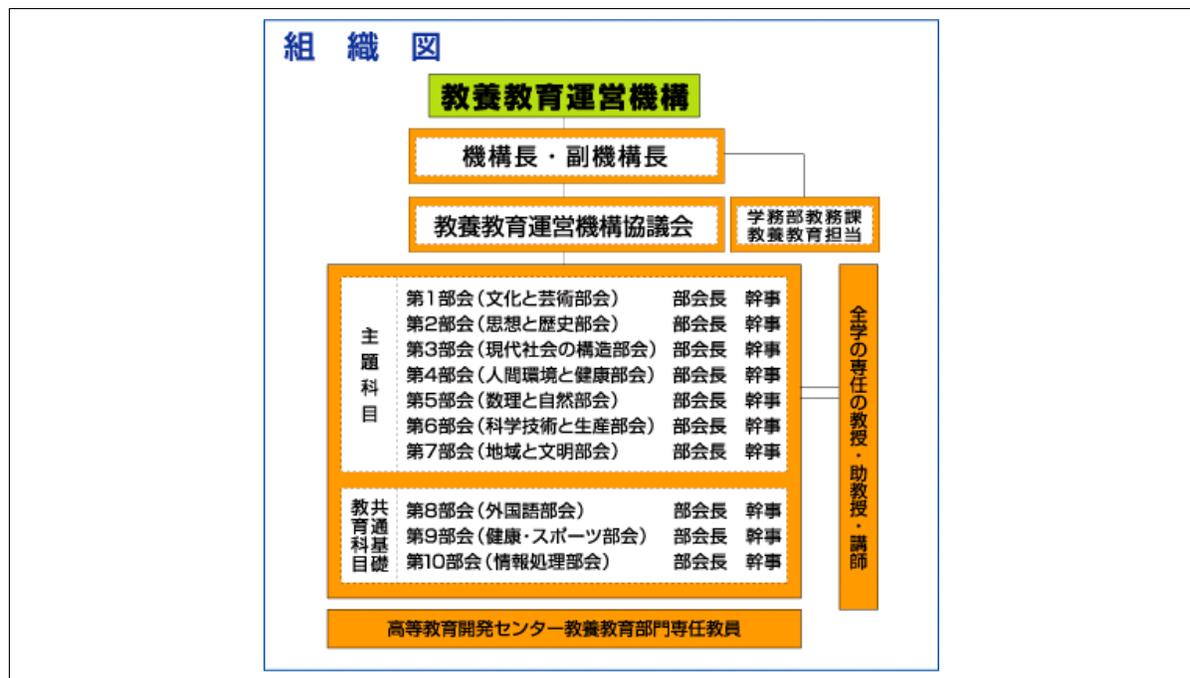
該当なし

観点2-2-①： 教授会等が、教育活動に係る重要事項を審議するための必要な活動を行っているか。

## 教養教育運営機構

佐賀大学教養教育運営機構規則により、教養教育運営機構協議会を設置し、「教養教育科目に係る教育課程の編成及び実施に関すること」「部会の構成及び改編等に関すること」「教養教育科目担当非常勤講師の任用に関すること」「運営機構の予算及び決算に関すること」「運営機構及び協議会に関する大学評価に関すること」等の重要事項を審議している。協議会は、機構長、副機構長、各学部及び高等教育開発センターから選出された委員を構成員とし、原則として月1回開催することになっている。また、協議会を開催しない月については、「文化と芸術」、「思想と歴史」、「現代社会の構造」、「人間環境と健康」、「数理と自然」、「科学技術と生産」、「地域と文明」、「外国語科目」、「健康・スポーツ科目」、「情報処理科目」の部会毎に教員会議を開催し、部会の教育活動に関する事項を協議するとともに、協議会において部会活動報告を行っている。

資料2-2-①-1 教養教育運営機構協議会の組織図



(出典 教養教育運営機構ホームページ <http://www.ofge.saga-u.ac.jp/>)

## 資料2-2-①-2 佐賀大学教養教育運営機構規則

(目的)

第2条 運営機構は、佐賀大学（以下「本学」という。）の教養教育実施機関として、本学の目的、使命にのっとり、全学の教員が担う教養教育を円滑に実施することを目的とする。

(業務)

第3条 運営機構は、前条に掲げる目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

(1) 教養教育科目に係る教育課程の編成及び実施に関すること。

(2) 教養教育に関する大学評価に関すること。

(3) その他教養教育の実施に関すること。

2 前項に定めるもののほか、運営機構は、学部との協議に基づき、全学的に共通する専門教育に係る業務を行うことができるものとする。

観点 2-2-②： 教育課程や教育方法等を検討する教務委員会等の組織が、適切な構成となっているか。また、必要な回数会議を開催し、実質的な検討が行われているか。

### 教養教育運営機構

教養教育のカリキュラム、教育方法等について検討する組織として、教養教育運営機構協議会を佐賀大学教養教育機構規則に基づき、機構の教務に関する重要な事項について審議する「教務委員会」の他、教養教育の理念及び目標並びに教育内容及び方法に関する組織的な研究及び研修の円滑な実施を図ることを目的とした「ファカルティ・ディベロップメント委員会」を設置し、各部会が選出する委員から構成している。教務委員会の場合、原則として月 1 回委員会を開催し、審議事項は議事要旨に記載するとともに、各部会の構成員に周知されている。

#### 資料 2-2-②-1 教養教育運営機構教務委員会の審議事項例

##### < 審議事項 >

##### 1. 教員の所属部会について

資料 1 に基づき、重松先生の所属部会については第 9 部会で承認された。

##### 2. 平成 20 年度主題科目開講予定の変更について

資料 2 に基づき各部会からの追加・変更について確認がなされ、第 2 部会においては人間学 I 及び人間学 III の開講場所が本庄ではなく鍋島であることがあらためて確認された。

##### 3. 平成 20 年度非常勤講師の新規任用について

資料 3 に基づき、日本語の非常勤講師の新規任用は内規により選考委員会の立ち上げの必要はなく異議なく承認された。

##### 4. 大学以外の教育施設等における学修の教養教育科目（外国語科目）単位認定要項について

資料 4 のとおり TOEFL の認定基準に i B I T のスコアを加えること、又、それに伴う要項変更が異議なく承認された。

##### 5. 佐賀大学教養教育運営機構教務委員会内規の一部改正について

資料 5 のとおり異議なく承認された。

##### 6. 朝鮮語の非常勤講師採用にともなう選考委員会の設置について

資料 6 に基づき、第 8 部会の教務委員から提案があり、審議の結果選考委員会の立ち上げが決定された。

##### 7. その他

報告事項として、第 8 部会教務委員より、来年度から英語の補習授業を行う予定との報告があった。

(出典 教養教育運営機構第 10 回教務委員会議事要旨)

### 3 教員及び教育支援者

#### (1) 観点ごとの分析

観点3-1-①： 教員組織編成のための基本的方針を有しており、それに基づいて教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制が確保され、教育研究に係る責任の所在が明確にされた教員組織編成がなされているか。

[トップ](#)

#### 教養教育運営機構 3-1-①

##### 教員組織編成の基本方針

教養教育を実施するための専任教員は配置されていないが、各部局部会または学部から推薦選出された教員の中から機構長を投票で決定し、「文化と芸術」「思想と歴史」「現代社会の構造」「人間環境と健康」「数理と自然」「科学技術と生産」「地域と文明」「外国語」「健康・スポーツ」「情報処理」の各部会から選出された教務委員が、機構長、副機構長、教務委員、ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員、広報委員の中から副機構長を互選により決定している。ただし、副機構長のうち1名（機構長補佐）は機構長が指名する。また、佐賀大学における教養教育の基本的方針として、教養教育運営機構規則第8条により、教授、准教授及び講師は、上述の第1部会～第10部会のいずれかの部会に正会員として所属することになっている。正会員として所属する部会以外の部会にも、準会員として所属することができる。また、各部会に部会長及び3名の幹事（教務、FD、広報を担当）を置き、教養教育の実施組織としての連携体制を確保している。（平成20年度からは、機構長が副機構長を指名することになった。）

務め、この連携の下で（追加）教養教育を実施することになっている。ただし、留学生のための日本語教育については、留学生センターに配置された専任教員が担当配置されている。平成18年度からは、全学の英語教育のために英語を母国語とする専任教員が留学生センターに配置され、平成19年度も引き続き英語教育に当たった。

##### 資料2-2-②-1 教養教育運営機構の職員の配置

<p>第4条 運営機構に、次の職員を置く。</p> <p>(1) 運営機構長</p> <p>(2) 副運営機構長 3人</p> <p>(3) その他必要な職員</p> <p>(運営機構長)</p> <p>第5条 運営機構長は、本学の専任の教授のうちから選考する。</p> <p>2 運営機構長は、運営機構の業務を掌理する。</p> <p>3 運営機構長の任期は2年とし、再任を妨げない。</p> <p>4 運営機構長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。</p> <p>(副運営機構長)</p> <p>第5条の2 副運営機構長は、本学の専任の教授、准教授及び講師のうちから選考する。</p> <p>2 副運営機構長は、運営機構長を助け、運営機構の業務を整理する。</p> <p>3 副運営機構長の任期は、就任の次年度の3月までとし、再任を妨げない。</p> <p>4 副運営機構長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。</p> <p>(運営機構長及び副運営機構長の選考)</p> <p>第6条 運営機構長及び副運営機構長の選考は、第12条に規定する佐賀大学教養教育運営機構協議会の議を経て、学長が行う。</p> <p>2 運営機構長及び副運営機構長の選考に関し、必要な事項は、別に定める。</p>
--

(出典 教養教育運営機構規則)

## 資料2-2-②-2 教養教育運営機構の部会への登録等

(部会への登録等)

第8条 本学の専任の教授、准教授及び講師は、前条第2項に掲げる部会のいずれかに登録し、佐賀大学教養教育運営機構協議会の定めるところにより、教養教育科目を担当するものとする。

(出典 教養教育運営機構規則)

佐賀大学の基本的方針として、教授、准教授及び講師は、第1～10部会のいずれかの部会に正会員として所属することになっている。正会員として所属する部会以外の部会にも、準会員として所属することができる。また、各部会に部会長及び3名の幹事(教務、FD、広報を担当)を置き、教養教育の実施組織としての連携体制を確保している。

観点3-1-2： 学士課程において、教育課程を遂行するために必要な教員が確保されているか。また、教育上主要と認める授業科目には、専任の教授又は准教授を配置しているか。

### 教養教育運営機構 3-1-2

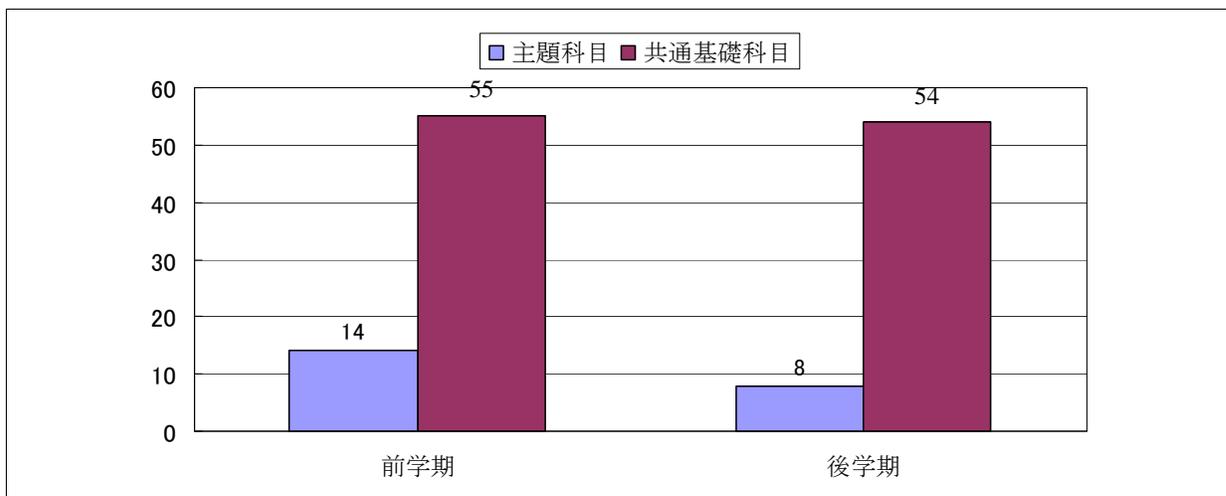
教養教育科目には、佐賀大学教養教育科目履修細則第8条に基づき、分野別主題科目にコア授業を設けている。が、これらは必ずしも専任の教授又は准教授が担当していないが、主要科目ではないため、大学設置基準第10条には適合している必ずしも専任の教授又は准教授が担当していない。またしかし、教養教育運営機構には専任教員を配置していないが、資料3-1-②-1に示すように、各部局に所属する専任教員が教養教育科目を開講する第1～10部会に正会員又は準会員として登録している。は、部会長及び3名の幹事を置き、教育の内容及び方法の水準を維持するよう努めている。なお、平成19年度は外国語科目を中心として、延べ131人の非常勤講師によって授業科目の担当者を補っている。

資料3-1-②-1 教養教育運営機構の分野別登録教員数

	登録部会									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
正会員	30	23	47	121	80	94	16	34	28	46
準会員	12	2	1	2	3	1	10	1	1	12
計	42	25	48	123	83	95	26	35	29	58

(出典 教養教育運営機構「各部会所属人数について」平成20年1月1日現在)

資料3-1-②-2 平成19年度に任用した非常勤講師の数



資料3-1-②-3 主題科目の構成

別表Ⅱ（第8条関係）

主題科目の構成及び単位数

分野別主題科目

分 野	副 主 題	授業の区分	単位数
1 文化と芸術分野	言語とコミュニケーション	コア授業	各2
	文学の世界	コア授業	各2
	芸術と創造	コア授業	各2
		個別授業	各2
		総合型授業	各2
2 思想と歴史分野	人間・社会と思想	コア授業	各2
	歴史と異文化理解	コア授業	各2
		個別授業	各2
		総合型授業	各2
3 現代社会の構造分野	現代の国際社会と環境	コア授業	各2
	現代の政治	コア授業	各2
	現代の経済	コア授業	各2
	現代の日本社会	コア授業	各2
		個別授業	各2
		総合型授業	各2
4 人間環境と健康分野	生活と健康	コア授業	各2
	心とからだ	コア授業	各2
	発達と環境	コア授業	各2
		個別授業	各2
		総合型授業	各2
5 数理と自然分野	数理の世界	コア授業	各2
	物質の科学	コア授業	各2
	身のまわりの科学	コア授業	各2
	自然と生命	コア授業	各2

		総合型授業	各2
--	--	-------	----

分野	副主題	授業の区分	単位数
6 科学技術と生産分野	技術と歴史	コア授業	各2
	資源のエネルギー	コア授業	各2
	ハイテクノロジーと生産	コア授業	各2
	生産と環境	コア授業	各2
		個別授業	各2
		総合型授業	各2

共通主題科目

分野	副主題	授業の区分	単位数
1 地域と文明分野	地域とくらし	コア授業	各2
	佐賀の文化	コア授業	各2
		個別授業	各2
		総合型授業	各2

(出典 佐賀大学教養教育科目履修細則)

[トップ](#)

観点3-1-⑤：大学の目的に応じて、教員組織の活動をより活性化するための適切な措置が講じられているか。

[トップ](#)

## 教養教育運営機構 3-1-5

### 教員組織活性化のための措置

正会員の他準会員の所属を認め、教員が幅広く教養教育に貢献できるように配慮している。

また、教養教育運営機構には、専任教員がいないので、教員構成のバランスへの配慮等のために人事面で措置を講じる立場にはないが、。ただし、各学部においては、教養教育の担当を前提として教員人事が行われることになっている。なおまた、特に必要がある場合は、学部の教員人事に対して機構長が意見を述べることもある。

留学生センターは、全学の英語教育担当教員として、平成17年度に外国人教員3名を採用し、18年度に更に2名増員した。平成19年度は5名の教員が教育に当たった。

さらに、「国立大学法人佐賀大学サバティカル研修実施要項」が制定され、平成20年度から施行することを決定するとともに、留学生センターは、全学の英語教育担当教員として、平成17年度に外国人教員3名を採用し、18年度に更に2名増員した。平成19年度は5名の教員が教育に当たった。

「国立大学法人佐賀大学教育功績等表彰規程」を全学的に制定しされ、平成20年度から優秀教員表彰制度を導入することが決定している。

観点3-2-①： 教員の採用基準や昇格基準等が明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。特に、学士課程においては、教育上の指導能力の評価、また大学院課程においては、教育研究上の指導能力の評価が行われているか。

## 教養教育運営機構 3-2-①

### 教員選考基準の運用状況

非常勤講師の採用に当たっては、佐賀大学教員選考基準に準拠し、関係部会を中心に選考委員会を置き、主な教育実績又は研究実績等の資料に基づき選考する。選考結果は、教養教育運営機構協議会に報告し、審議されている。ただし、以下の条件を満たす場合には、手続きを簡素化している。

- (1) 国公立の4年制大学の教授、准教授及び講師として在職中の者
- (2) 国公立の4年制大学の教授、准教授及び講師として経験を有し、現在も教育研究活動に従事している者
- (3) 本学の授業科目を担当した経験を有し、現在も教育研究活動に従事している者

観点3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされているか。

[トップ](#)

## 教養教育運営機構 3-2-②

### 教員の教育活動の評価体制と活動状況

非常勤講師採用後は、各部会の活動の自己点検・評価の活動の中で、教育活動全般について評価を行っている。学生による授業評価アンケートについては、非常勤講師も含めて、平成18年度後学期より原則として全ての授業科目で実施している。また、授業評価アンケート他に基づいて、次年度への授業改善計画を教務システム Live Campus 上で作成し、学内に公開している。部会によっては、教員会議において授業点検評価報告書を紹介し、記載内容について議論している。

本学の専任教員については、各学部等において個人評価が行われており、教養教育も評価の対象となっている。

観点3-3-①： 教育の目的を達成するための基礎として、教育内容等と関連する研究活動が行われているか。

## 教養教育運営機構

第1～10部会への所属決定にあたり、教員の希望を尊重し、教育内容等と研究活動との関連を担保している。各教員は、それぞれの研究活動を反映させた授業を行っている（5-1-1参照）。また、非常勤講師についても、非常勤講師候補者選考内規に従い、研究実績等を考慮した選考を行っている。

### （第5部会）

主題科目で、それぞれの教員の研究活動の成果を反映した授業の取り組みがなされている。

### 第6部会

主題科目 35科目で、それぞれの教員の研究活動の成果を反映した授業の取り組みがなされている。

### 資料3-3-① 非常勤講師候補者選考内規(抜粋)

4 部会長又は選考委員会委員長は、教養教育運営機構協議会に、候補者の氏名、所属、履歴及び主な教育実績又は研究実績等の資料を提出し、選考結果を報告する。

観点3-4-①： 大学において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。また、TA等の教育補助者の活用が図られているか。

[トップ](#)

## 教養教育運営機構 3-4-①

### (1) 事務体制

主として学務部教務課が担当し、教養教育管理係に2名、教養教育教務係に3名（事務補佐員を含む）が配置されている。

### (2) 技術職員

教養教育のための技術職員は配置されていない。

### (3) TA（ティーチング・アシスタント）

「国立大学法人佐賀大学ティーチング・アシスタント実施要領」及び「佐賀大学ティーチング・アシスタント運用要領」に基づき、前学期は延べ78名、後学期には延べ50名のTAを配置し、教育補助を積極的に行なった。主に化学、生物系の実験関連の科目、数学の演習科目、インターネットを利用したeラーニング科目、情報処理科目において、TAの任用により教育補助に当たらせている。また、第9部会では大学院生の指導を担当している教員のほとんどが大学院生をTAとして採用し、TAの指導も併せて行っている。必要がある場合は、機構の予算でTAの費用を手当している。なお、TAの運用にあたっては、教育活動の質の向上を図るための研修等を実施し、「ティーチング・アシスタント（TA）実施報告書」を提出している。

#### 4 教育内容及び方法

##### (1) 観点ごとの分析

###### < 学士課程 >

観点5-1-1： 教育の目的や授与される学位に照らして、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されており、授業科目の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

[トップ](#)

#### 教養教育運営機構 5-1-①

##### (1) 授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。

教養教育は、観点1-1-①の「民主社会の市民としての幅広く深い教養及び創造的な知性と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するための教育」、「地域社会、国際社会に開かれた大学として、異文化や多様な価値観を理解し、人や自然との共生を推し進めるための教育」、「課題探求能力と情報の分析・発信能力をもった国際的人材を育成するための教育」の3つを目的として、全学年を通じて実施している。授業科目については、大学入門科目、主題科目「文化と芸術」「思想と歴史」「現代社会の構造」「人間環境と健康」「数理と自然」「科学技術と生産」、共通主題科目「地域と文明」、及び外国語、健康・スポーツ、情報処理に区分される共通基礎科目から構成している。なお、主題科目は「分野別主題科目の開講数の基準」に定める最小開講数を満たすよう配置してある。

資料5-1-①-1 教養教育科目の開講数

授業科目	前学期	後学期
大学入門科目	45	7
主題科目		
第1分野（文化と芸術）	17	15
第2分野（思想と歴史）	12	13
第3分野（現代社会の構造）	16	17
第4分野（人間環境と健康）	12	16
第5分野（数理と自然）	31	26
第6分野（科学技術と生産）	29	34
共通主題科目		
第1分野（地域と文明）	5	6
外国語科目	170	166
健康・スポーツ科目	41	13
情報処理科目	29	11
日本事情	1	1
全体	408	325

## (2) コース等の設置

デジタル表現技術教育プログラムによる体系的な教育コースを検討している（ただし、平成20年5月に「佐賀大学における特別の課程の編成等に関する規程」が制定され、平成19年度の文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に採択された「佐賀大学デジタルコンテンツ・クリエイター育成プログラム」のコースを、教養教育運営機構に設置している）。

### 資料5-1-①-2 特別の課程「佐賀大学デジタルコンテンツ・クリエイター育成プログラム」

別記様式第1	
特別の課程編成計画書(案)	
設置学部等	
特別の課程の名称	佐賀大学 デジタルコンテンツ・クリエイター
目的	佐賀大学の『社会人の学び直し(佐賀大学 デジタルコンテンツ・クリエイター育成プログラム)』では、デジタル・コンテンツに関心の高い社会人を対象とし、デジタルコンテンツ・クリエイターを育成します。
内容	<p>コースⅠ デジタルデザインA ベクトルグラフィックス(Illustrator等) デジタルデザインB ラスターグラフィックス(Photoshop等) デジタルデザインC 映像編集(Premiere Pro等) デジタルデザインD モーショングラフィックス(After Effects等) デジタルデザインE シナリオ・ビデオ撮影・作品作成</p> <p>コースⅡ デジタルアートA Webデザイン(Dreamweaver等) デジタルアートB Flash等 デジタルアートC 3DCG・アニメーション(Shade等) デジタルアートD デジタルコンテンツの市場と戦略 デジタルアートE 作品制作</p> <p>コースⅢ ※A又はBどちらか選択 コースⅢ-A ツーリズム・コンテンツA 佐賀学1:佐賀の地域観光資源論 ツーリズム・コンテンツB 観光資源フィールドワーク ツーリズム・コンテンツC 観光協会・ツーリズムエージェンツ ツーリズム・コンテンツD 作品制作・プレゼンテーション</p> <p>コースⅢ-B デジタルアーカイブ・コンテンツA 佐賀学2:佐賀の地域文化・産業資源論 デジタルアーカイブ・コンテンツB 地域文化・産業資源フィールドワーク デジタルアーカイブ・コンテンツC 公立図書館・市町村役場・博物館・美術館等 デジタルアーカイブ・コンテンツD 作品制作 ※科目によっては指定のテキストを購入していただきます。</p>
履修資格	
定員	30名(コースⅠ・コースⅡの演習のある科目は、半分ずつ受講)
講習料	なし
開講期間	6月～3月
修了要件	<p>① 出席時間数が120時間以上である。</p> <p>② 各科目の修了要件を満たしていること</p>

(出典 特別の課程編成計画書案)

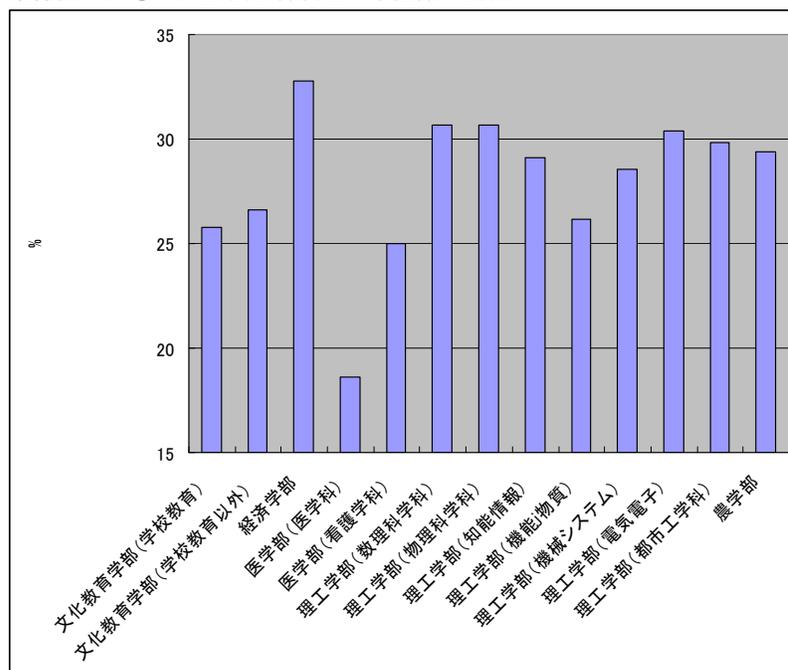
## (3) 教養教育と専門教育のバランス

学部毎の教養教育科目の必要単位数は、各学部の教育目的に沿って定められ、教養教育と専門教育のバランスを図っている。学部学科等毎の教養教育科目の必要単位数の卒業単位数に占める割合を、資料5-1-①-2及び資料5-1-①-3に示す。経済学部における教養教育科目の単位の割合が高く、医学部(医学科)が低いといった、学部や学科による特徴がある。

資料5-1-①-2 各学部が定める教養教育科目の修得単位数

学 部	教養教育 科目	専門教育 科目
文化教育学部（学校教育課程）	33	95
文化教育学部（学校教育課程を除く）	33	91
経済学部	41	84
医学部（医学科）	35	156
医学部（看護学科）	32	96
理工学部（数理科学科）	38	86
理工学部（物理科学科）	38	86
理工学部（知能情報システム学科）	37	90
理工学部（機能物質化学科）	34	96
理工学部（機械システム工学科）	36	90
理工学部（電気電子工学科）	38	87
理工学部（都市工学科）	35	89
農学部	37	89

資料5-1-①-3 教養教育科目の単位数の割合



また、外国語等の必修科目及び選択科目の範囲についても、各学部の教育目的に沿って定められている。ただし、学修領域が無制限に拡散しないよう、（医学部を除き）分野登録制度によって登録した分野で8単位以上の主題科目を履修することを義務づけると同時に、学生の履修に一定の方向性を与えるため、主題科目の中にコア科目を設けるなど、教育課程の体系性を確保している。

#### （４）年次配当（必修と選択の別を含む）

原則として、学士課程4年間にわたって教養教育科目を履修することができる。（医学部は2年次までに履修することになっている。）

#### （５）履修モデル

共通基礎教育科目の修得単位数については学部において定められている。主題科目については、特定の分野に登録し8単位以上を履修しなければならない。主題科目については、上述の観点3-1-②のように、佐賀大学教養教育科目履修細則第8条に基づき、分野別主題科目にコア授業を設け、ある程度体系的に履修できるようにしている。

#### （６）授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿っているか。

教養教育科目は、教養教育の目的に沿って、幅広い教養と総合的な判断力（中期目標の小項目1-(1)-3）、課題探求力と問題解決力（中期目標の小項目1-(1)-4）、地域社会や国際社会における多様な価値観を理解し、人や自然との共生に思いを馳せる豊かな感性（中期目標の小項目1-(1)-5）を養えるよう、分野別主題科目を編成している。また、主題科目では、各部会のコアとなるコア授業の他、個別授業及び総合型授業を行っている。総合型授業には、個別授業にとらわれず、学外者とのジョイント等によるオムニバス形式の授業が含まれる。

「大学入門科目」は、小クラス授業で新入生のために大学案内、文献検索、物の見方等討論を採り入れながら授業を行い、共通基礎教育科目では、小クラス制による講義、実習形式の授業を行っている。さらに、外国語等の異文化との交流に必要な国際的コミュニケーション能力を涵養するため、ネイティブ教員による英語の授業を59クラス開講している。アジア系言語の授業についても、履修機会の拡大を図るため、中国語、朝鮮語の授業について、平成16年度の64クラスから平成19年度の68クラスに増設している（中期目標小項目1-(1)-6）。

#### 資料5-1-①-4 アジア系言語の開講クラス数

授業科目	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
中国語	51 (26+25)	38 (25+13)	49 (25+24)	50 (25+25)
朝鮮語	13 (7+6)	17 (11+6)	18 (9+9)	18 (9+9)

(出典 平成19年度教養教育運営機構教務関係資料集)

なお、担当教員は本学が定める「シラバス作成に関する要項」に従ってオンラインシラバスを作成するとともに、各部会を通じてその内容を点検することによって、授業の内容が各分野の趣旨に沿ったものになるよう配慮している。

観点5-1-②： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、研究成果の反映、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

[トップ](#)

## 教養教育運営機構 5-1-2

### 1) 学生のニーズに対する配慮

他学科、他学部の授業科目の履修状況

学内開放科目として開放されている学部の授業科目の一部を主題科目として認定している。

### 2) 他大学との単位互換

放送大学等と単位互換協定を結んでいる。また、資格試験などの単位認定を行っている。（平成20年度に、放送大学との協議に基づき、放送大学の開設する科目のうち1科目について無料で履修できるようにした。）

### 3) リメディアル教育の実施状況

#### (1) 物理

教養教育運営機構の下に第5部会所属教員及びOBを中心とした「リメディアル物理実施委員会」を設置し、入学式前に10時間(5コマ)力学の講義を全学部対象に行っている(根拠資料:「リメディアル物理教育の実施について(報告)」平成19年度)。第6部会所属の教員がリメディアル力学、基礎物理学および演習の補習授業を行っている。

#### (2) 英語

平成17年度は英語のリメディアル教育が行われたが、18~19年度は実施されなかった。しかし、平成20年度は従来の英語リメディアル教育とは別個に、「BRUSH-UP ENGLISH」という新たな英語補習授業を実施することが決定されている。

### 4) 編入学への配慮

編入学前に修得した単位を既修得単位として認定している。

### 5) 修士課程との連携

修士課程の学生が教職免許を取得するために必要とする場合は、教養教育科目の憲法を科目等履修生として履修することを認めている。その際、授業料等は免除している。

### 6) 研究活動に基づく教育

教員の研究課題と教育目標との整合性

教員は、研究分野に応じてふさわしい部会に所属し、できるだけ研究課題と関連のある教養教育科目を担当するようにしている。研究分野と所属部会との整合性については、教員自身の希望を尊重しながら、教務委員会、運営委員会及び協議会で審議し決定している。

<教員の研究活動が授業科目に反映している例>

平成19年度教員報告様式データを参照すると、1年次対象の授業科目であっても、多数の教員が最新の研究成果を授業中に紹介するなど、教員の研究活動が教養教育においても反映されている。

第1部会

授業科目名	関連	研究活動及び研究業績等
大学入門科目・他		右利き社会とデザイン
English	Improving students communication skills through practice	Communication dyads and triads
English	Improving students communication skills through practice	Using e-mails and journals to give students actual practice in using English for written communication
English	Improving students spoken communication through computer assisted practice	Using computer recording widgets to let students practice speaking and listening
ことばの成り立ちと構造 (統語論入門: 佐賀弁を初期射程にして)	授業でとりあげる3つの章(トピック)のうち、第3章の内容はこの研究をわかりやすくしたものである。	招待講演: 「A Grammar of Tense and Verb Morphemes with the Standard Japanese and the Saga Dialect as its Initial Scope」意味論研究会・慶應義塾大学グローバルCOEプログラム「論理と感性の先端t系教育研究拠点」共催。
ことばの成り立ちと構造 (統語論入門: 佐賀弁を初期射程にして)	授業でとりあげる3つの章(トピック)のうち、第2章の内容はこの研究を基にしている。	論文口頭発表(国際会議) 17th Pacific Asia Conference on Language, Information, and Computation (PACLIC17), A Grammar of Case: To correctly predict case phrases without its head verb, 351-361, September, 2003
ことばの成り立ちと構造 (統語論入門: 佐賀弁を初期射程にして)	第3章の時制の説明にこの論文が関連する。	論文(紀要) Tense absence in clauses of copula lexically incorporating adjective, 2005年3月
交響曲の世界	授業での音楽史・社会史の視点からの楽曲解説及び指揮者の視点からの表現について	2006年度15回、2007年度13回行った指揮活動における演目についての音楽史的・社会史的考察及び指揮による芸術表現の深化
芸術と表現 (音楽入門)	様々な要素において授業内容に直結している	〇2005年ロベルト・シューマン作曲『詩人の恋』のフリッツ・ヴェンダリッヒによる演奏の分析 〇2006年板橋江利也テノールリサイタル 〇2007年板橋江利也テノールリサイタル
日本古典文学と文化	歌ことばについて	今野厚子著『天皇と和歌』新典社平成16年
生活と芸術 (視覚と聴覚の認知科学「見え」と「聞こえ」のメカニズム)	研究成果の概要を講義で解説した。	(研究活動) 超音波医療計測に関する研究 M. Inoue, N. Bu, O. Fukuda, H. Okumura, Automated Discrimination of Tissue Boundaries using Ultrasound Images of "Ubiquitous Echo", Proceedings of the 29th IEEE EMBS Annual International Conference

(出典 平成19年度教員報告様式データ)

第2部会

授業科目名	関連	研究活動及び研究業績等
江戸時代の医学と医療	研究成果を講義で解説した。	(論文・著書等) 1 青木歳幸 2007 「川崎道民『航米実記』とその周辺」「海外交流と小城の洋学」展示図録
風土と歴史環境の地理	研究成果に基づいて講義を実施した。	(研究活動) 農地・農村開発に関する地理学的研究 (論文・著書等) 白石平野の開発過程と複合的生業、日下雅義編『地形環境と歴史景観』古今書院、所収、2004
合宿共同授業講義B	研究成果に基づいて講義を実施した。	(研究活動) 農地・農村開発に関する地理学的研究 (論文・著書等) タイにおける共有地をめぐる研究の動向と課題、佐賀大学地域経済研究センター年報、16、2005
日本近世の社会と経済	藩財政の構造を説明	論文「藩財政再考—萩藩を事例に—」(『ヒストリア』203号)、第65回民衆思想研究会報告「佐賀藩財政に関する一試論」
都市デザイン史	歴史的視点から見た都市の形態について	歴史的環境保存の調査
住まいを考える	わが国の住宅の近代化過程の検証	1) 丹羽和彦, 後藤隆太郎他, [わが国近代の住宅における「子供室」の出現とその推移について], 佐賀大学理工学部集報, 2006, 2) 中村寛子, 丹羽和彦他, 「わが国近代の住宅関連書籍にみられる「内玄関」について」日本建築学会九州支部研究報告, 2007,

(出典 平成19年度教員報告様式データ)

第3部会

授業科目名	関連	研究活動及び研究業績等
経営の理論と歴史	刊行前の原稿を配布して、講義の史資料とした	武藤治太・山本長次「武藤山治の経営と生涯」『佐賀大学経済論集』2008年1月
大学入門科目	新聞記事や雑誌記事を利用して、現代社会の多様な問題について考えた	
アジアの大都市の開発と環境	研究テーマは環境問題の重要な要素である。	アジアの居住環境評価の研究
現代の環境問題		研究センターでの研究課題（半島・島嶼の生物環境問題）を元に講義した。
生活と法	研究成果に関連する事項につき解説した。	中山泰道「成年後見判例4」実践成年後見23号
現代の社会（現代社会と現代人）	現代社会の病理現象としての「いじめ自殺問題」を分析し、データや資料として学生に提供。	「日本における青少年の社会的問題—とくに学校教育のいじめ自殺の問題を中心に—」『東アジアの青少年問題』2007年度東アジア国際フォーラム資料集、1～15頁
現代の社会（現代社会と現代人）	「アジアと九州（SAGA）」というテーマで、国際化や国際交流問題について講義する	「佐賀大学における国際交流の現状と課題—アジアを学ぶ・SAGAで学び合う留学生王国づくりを目指して—」『佐賀大学における国際交流の実績報告書』平成16・17年度合併号、5～25頁
現代の社会（現代社会と現代人）	市民社会の地域主体としてのNPO問題について、コピー配布し解説する。	「地域社会の活性化とNPOの役割・課題—新しい地域主体としての市民セクターの可能性—」『日本都市学会年報』2003Vol.37,56～64頁
現代の法と社会（日本国憲法）	研究成果を講義に盛り込んだ	プライバシー権に関する研究論文名：「街頭監視」はどこまで許されるか——プライバシー権との相剋
現代の法と社会（日本国憲法）	研究成果を講義に盛り込んだ	信教の自由ならびに居住権に関する研究論文名：「カルト集団」の住民登録は拒否してよいのか
現代の法と社会（日本国憲法）	研究成果を講義に盛り込んだ	公共性論および居住権に関する研究論文名：公共空間生成の端緒としての『住まうこと』——千葉・稔台オウム信者転入拒否騒動を素材とした試論的考察

(出典 平成19年度教員報告様式データ)

第4部会

授業科目名	関連	研究活動及び研究業績等
人類学		Hanihara T (2006) Interpretation of craniofacial variation and diversification of East and Southeast Asians. In: Oxenham M and Tayles N (eds.) Bioarchaeology of Southeast Asia. Cambridge: Cambridge University Press, pp. 91-111.
調理の科学	食文化を教えた	年越し・正月の食習慣に関する実態調査
からだのしくみ	研究内容を理解しやすいように直接講義した。	病原細菌の分子遺伝学的研究 業績は大学データベース参照
食生活と健康	食生活から講義で解説した	水沼ら, 朝食の食欲がない幼児の、、、, 栄養学雑誌, 61, 平15年, 9-16.
年齢と健康 (健康とケア)	研究成果の概要を講義で解説した。	(研究活動) 1. スクールカウンセリングに関する実践と研究 2. 産業カウンセリングの実践と研究 (論文、著書等) 1. 気分障害と診断された労働者の休職と復職の過程 (2006: 日本カウンセリング学会第39回大会発表論文集)
心の科学 (基礎心理学)	研究成果の概要を講義で解説した。	(研究活動) 1. スクールカウンセリングに関する実践と研究 2. 産業カウンセリングの実践と研究
心の科学 (心理学トピックス)	研究成果の概要を講義で解説した。	(論文、著書等) 1. 社会人入学生への就職支援 (2005: 日本学生相談学会第23回大会発表論文集) 2. 不登校生徒への援助的介入時における祖父母への対応の困難性 (2005: 日本人間性心理学会第24回大会発表論文集) 3. 気分障害と診断された労働者の休職と復職の過程 (2006: 日本カウ
臨床心理学	研究成果の概要を講義で解説した。	(研究活動) 1. スクールカウンセリングに関する実践と研究 2. 産業カウンセリングの実践と研究 (論文、著書等) 1. 気分障害と診断された労働者の休職と復職の過程 (2006: 日本カウンセリング学会第39回大会発表論文集)
生活の科学 (衣食住の植物)	研究成果の概要を講義で解説した。	アジア遊学「メコン 風土と野生イネ」 勉誠出版 (2003) Origin of weedy rice grown in Bhutan and the force of genetic diversity., Ishikawa, R., N. Toki, K. Imai, Y-I. Sato, H. Yamagishi, Y. Shimamoto, K. Ueno, H. Morishima and T. Sato, Genetic Resources and Crop Evolution, 52, 395-403, 2005
農業の現場を知ろう	研究成果の概要を講義で解説した。	アジア遊学「メコン 風土と野生イネ」 勉誠出版 (2003) K. Ueno: Effects of temperature during drying of immature wheat grain on germination. Seed Science and Technology 31, 587-595 (2003) K. Ueno & K. Miyoshi: Difference of optimum germination temperature of seeds of intact and dehusked japonica rice during seed development Euphytica 143, 271-275 (2005).
自然と人間の共生	研究成果の概要を講義で解説した。	アジア遊学「メコン 風土と野生イネ」 勉誠出版 (2003) 貯蔵温度と発芽温度がイネの籾と玄米の発芽に

		及ぼす影響、上埜喜八・三吉一光、日本作物学会九州支部会報、第 72 号、22-24、2006.
食品の科学（食品栄養学）	研究成果の概要を講義で解説した	（研究活動）機能性脂質に関する研究

第5部会

授業科目名	関連	研究活動及び研究業績等
生体分子化学	研究成果の一部を講義で解説した。	(研究活動) 中間径フィラメントの研究 (論文・著書等) Biochim. Biophys. Acta, 1702, 53-65 (2004)
大学入門科目	研究成果を授業で紹介した。	学習支援システムに関する研究・電子化されたレポートの手書き添削・採点支援システムの開発・ストロークのオンライン情報を用いて文字の評価を行うひらがな学習支援システムの開発・音声対話によるかけ算九九学習支援システムの開発実用化に向けて
原子と分子	研究成果の概要を講義で解説した。	(研究活動) 光受容タンパク質に関する研究 (論文・著書等) I. M. Unno, M. Kumauchi, F. Tokunaga, S. Yamauchi 2007, 「Vibrational Assignment of the 4-Hydroxycinnamyl Chromophore in Photoactive Yellow Protein」、J. Phys. Chem. B 111, 2719-2726
有名人の知恵と生活		研究活動及び研究業績等: 東名遺跡成立時の地質学的背景
宇宙と地球の科学		ガンマー線による活断層分布調査法の開発
生命の科学		タマネギの新品種開発及び種苗登録
生命の科学		かんきつの新品種開発及び商標登録
新しい植物を創る-植物分子生物学入門-	研究成果の概要を講義で解説した。	(研究活動) ダイズ種子脂肪酸組成の改良に関する研究 (論文・著書等) 1. Anai, T., Koga, M., Tanaka, M., Kinoshita, T., Raman, S. M. & Takagi, Y., 2003: Improvement of rice (Oryza sativa L.) seed oil quality through introduction of a microsomal omega-3 fatty acid desaturase gene, Plant Cell Report (21) 988-992. 2. Anai, T., Yamada, T., Kinoshita, T., Rahman, S. M., & Takagi, Y., 2005: Identification of corresponding genes for three low- $\alpha$ -linolenic acid mutants and elucidation of their contribution to fatty acid biosynthesis in soybean seed. Plant Science (106) 1615-1623. 3. 高木 胖 & 穴井 豊昭, 2006: 新規の脂肪酸組成を持つダイズ油の突然変異による改良, オレオサイエンス (6) 195-203.
生活の化学	活性酸素の講義	非対称型四座キレート配位子によるMn(III)錯体の合成と反応性
生活の化学	研究成果の概要を講義で解説した。	(研究活動) 水とアルコールの混合に関する研究 (論文・著書等) 1. Structure of Clusters in Methanol-Water Binary Solutions Studied by Mass Spectrometry and X-ray Diffraction, T. Takamuku, T. Yamaguchi, M. Asato, M. Matsumoto, and N. Nishi, Z. Naturforsch., 55a, 513-525 (2000). 2. X-ray Diffraction Studies on Methanol-Water, Ethanol-Water, and 2-Propanol-Water Mixtures at Low Temperatures, T. Takamuku, K. Saisho, S. Nozawa, and T.

		Yamaguchi, J. Mol. Liquids, 119, 133-146 (2005).
生命と物質	研究成果の概要を講義で解説した。	(研究活動) POI に関する研究 (論文、著書等) 1. Takashi Sato, Chihiro Awada, and Yoshimi Ogata: Novel Potent Peptides That Regulate Phenoloxidase Activity. Peptide Revolution, 357-359 (2004) 2. Chihiro Awada, Yoshimi Ogata, and Takashi Sato: Novel Insect Peptides and Proteins that Regulate Phenoloxidase Activity during Metamorphosis of Housefly <i>Musca Domestica</i> . Peptides 2004, 443-444 (2005)
やさしい実験化学 I	研究成果の概要を講義で解説した。	(研究活動) 金属錯体の合成と性質に関する研究 (論文、著書等) 1. Syntheses, Magnetic Properties, and Reactivity of Dinuclear Oxovanadium(IV) and Copper(II) Complexes with (m-Diphenylphosphinato)-bridges, K. Koga, M. Ueno, M. Koikawa, and T. Tokii, Inorg. Chem. Commun., 6, 374-376 (2003).
微分と積分の概説	研究成果の概要を講義で解説した。	(研究活動) 偏微分方程式に関する研究 (論文、著書等) T. Kobayashi, T. Suzuki and K. Watanabe. Interface regularity for Maxwell and Stokes systems Osaka J. Math. 40-4 (2003) 925-944
入門科目 2	リニアコライダーで何を調べたいのかを説明	リニアコライダー計画の準備研究 (講演) 1 A. Sugiyama 2006, Summary of Vertex/Tracking session 第 9 回 ACFA ILC physics and Detector workshop, IHEP Beijing China
宇宙と地球の科学 (石のはなし)	県下に産する岩石の紹介	川野良信・柚原雅樹, 2005, 福岡県五ヶ山周辺に分布する花崗岩類. 佐賀大学文化教育学部研究論文集, 10(1), 143-149.
宇宙と地球の科学 (石のはなし)	県下に産する岩石の紹介	柚原雅樹・宇藤千恵・小路泰之・川野良信, 2006, 那珂川上流, 五ヶ山地域の白亜紀花崗岩類に発達する断層系. 福岡大学理学部集報, 36, 55-67.
生命と環境	資源のリサイクルと分離に関して	分離工学に関する論文や研究発表
生きものから有明海を探る	研究成果を講義時に解説している	シチメンソウの耐塩性維持機構に関する研究
生命の科学	研究成果を講義時に解説している	アサガオの花成制御機構に関する研究
図形の幾何	佐賀城 320 畳の大広間で受講生に 2 項漸化式の理論を実感させる	線形代数入門 (TeX 原稿学内版)
分子と原子	研究成果の概要を講義で解説した。	H. Fukuma, K. Nakashima, Y. Ozaki, and I. Noda, "Two-Dimensional Fluorescence Correlation Spectroscopy. IV: Resolution of Fluorescence of Tryptophan Residues in Alcohol Dehydrogenase and Lysozyme," Spectrochimica Acta, Part A, Vol. 65, pp. 517-522, 2006.
佐賀の干潟	講義資料とした	有明海総合研究プロジェクトで成果発表

生命と物質	講義資料とした	錯体化学討論会で成果発表
宇宙と地球の科学	研究成果の概要を授業で解説した。	研究活動) 佐賀平野の水環境の研究 (論文、著書等) 古代の海岸線推定の試み、鳥栖市誌-原始・古代編、鳥栖市誌編纂委員会、2005.
分子生物学	エピジェネティクス	Soejima H, Nakagawachi T, Zhao W, Higashimoto K, Urano T, Matsukura S, Kitajima Y, Takeuchi M, Nakayama M, Oshimura M, Miyazaki K, Joh K, Mukai T. Silencing of imprinted CDKN1C gene expression is associated with loss of CpG and histone H3 lysine 9 methylation at DMR-LIT1 in esophageal cancer. <i>Oncogene</i> , 23(25): 4380-4388, 2004 Sato Y, Nakadate H, Nakagawachi T, Higashimoto K, Joh K, Masaki Z, Uozumi J, Kaneko Y, Mukai T, Soejima H. Genetic and epigenetic alterations on the short arm of chromosome 11 are involved in a majority of sporadic Wilms' tumors. <i>Brit J Cancer</i> , 95(4): 541-547, 2006 Sasaki K, Soejima H, Higashimoto K, Yatsuki H, Ohashi H, Yakabe S, Joh K, Niikawa N, Mukai T. Japanese and North American/European patients with Beckwith-Wiedemann syndrome have different frequencies of some epigenetic and genetic alterations. <i>Eur J Hum Genet</i> , 15(12):1205-10, 2007
生活の化学		ヨウ素を用いる合成反応の開発に関する研究
実験生物学	研究成果の概要を講義で解説するとともに、実際に同じ材料を用いて実験を行った。	(研究活動) 昆虫と淡水魚の子育て行動に関する研究 (論文、著書等) 1. Nomakuchi, S., Filippi, L., Iwakuma, S., Hironaka, M. 2005. Variation in the start of nest abandonment in a subsocial shield bug, <i>Parastrachia japonensis</i> (Hemiptera: Cydnidae). <i>Annals of the Entomological Society of America</i> 98, 143-149. 2. Fujii, S., Hironaka, M., Nomakuchi, S. 2005. Brooding success under natural conditions and male body size in the fresh water Japanese goby, <i>Rhinogobius</i> sp. OR (Orange type). <i>Journal of Ethology</i> 23: 127-132.
生物の生態と社会 (動物生態学)	研究成果の概要を講義で解説した。	(研究活動) 昆虫と淡水魚の子育て行動に関する研究 (論文、著書等) 1. Nomakuchi, S., Filippi, L., Iwakuma, S., Hironaka, M. 2005. Variation in the start of nest abandonment in a subsocial shield bug, <i>Parastrachia japonensis</i> (Hemiptera: Cydnidae). <i>Annals of the Entomological Society of America</i> 98, 143-149. 2. Fujii, S., Hironaka, M., Nomakuchi, S. 2005. Brooding success under natural conditions and male body size in the fresh water Japanese

		goby, <i>Rhinogobius</i> sp. OR (Orange type). <i>Journal of Ethology</i> 23: 127-132.
主題科目 ミクロの世界 (素粒子・原子核の世界)	最近の加速器を用いた実験の紹介	(研究活動) B メソン崩壊における CP 非保存に関する研究、重フレーバーにおける新現象探索の研究

(出典 平成 19 年度教員報告様式データ)

第6部会

授業科目名	関連	研究活動及び研究業績等
チャレンジ・ベンチャービジネスⅠ及びⅡ	2006年度産学連携学会	学生ベンチャー教育・チャレンジ・ベンチャービジネスー及び第1回佐賀学生ビジネスプランコンテストと題して2件発表
チャレンジ・ベンチャービジネスⅠ及びⅡ	KIZAI 2006-4	学生が活躍、提案型のインターンシップ
チャレンジ・ベンチャービジネスⅠ及びⅡ	産学連携学 Vol. 2(1), 2005, pp. 43-46	学生向け授業を活用した地域との産学連携の試み
高等植物の光合成	光合成の制御に関する説明に使用	Theng V., S. Agarie, A. Nose, 2007. Plant Production Science. 10 : 171-181.
環境保全の技術の歴史	講義内容の現地調査	古代ローマの水道・下水道システムの調査
技術と人間	「技術と人間」の講義においてダム問題、環境アセスメント等を取り扱った	城原川流域委員会委員長を務めるために河川法、河川行政、ダム行政、環境アセスメント等に関する調査研究を行った
技術と人間	「技術と人間」の講義において有明海問題を取り扱った	有明海総合研究プロジェクト長として佐賀大学有明海研究の中核を担った
栽培植物の世界	サツマイモをはじめとして主要な食用作物の生産生態について講述する際の資料とした。	「サツマイモの塊根片付き苗の育苗と栽培に関する二、三の知見」日本作物学会九州支部会報72巻
やさしい精密加工学	超精密加工	セラミック球の超精密加工
電子デバイスのはなし	研究成果の概要を講義で解説した。	新規半導体の作製と評価に関する研究 (論文、著書等) 1. Qixin GUO, Tooru TANAKA, Mitsuhiro NISHIO, Hiroshi OGAWA Structural and optical properties of ZnMgO films grown by metal organic decomposition Japanese Journal of Applied Physics, 46, 560-562 (2007).
建設技術の歴史	古代の建設技術に関する講義	地盤遺構の保存技術に関する調査研究
わかりやすい機構学	eラーニングシステムの利用	eラーニングコンテンツの制作と多分野での利用について
野菜の起源と分化	研究成果の概要を講義で解説した。	(研究活動) ナスの育種に関する研究 (論文、著書等) 1. Effect of cytoplasm of Solanum violaceum Ort. on fertility of eggplant (S. melongena L.). Scientia Hortic., 93, 9-18, 2002. 2. Characteristics of the cytoplasmic male sterility in the eggplant (Solanum melongena L.) carrying the cytoplasm of S. violaceum Ort. Bull. Fac. Agr., Saga Univ., 87, 87-93, 2002.
ネットワーク社会と技術	開発した Moodle 版大福帳を活用して学生とのコミュニケーションを促進した。	Moodle 版大福帳に関する研究・開発
マリンバイオ	第6分野	Lysis of methicillin-resistant Staphylococcus aureus by 2,4-diacetylphloroglucinol produced by Pseudomonas sp. AMSN isolated from a marine alga. Y. Kamei., A. Isnansetyo. : Int. J. Antimicrob. Agents, 21, 71-74, 2003.
マリンバイオ	第6分野	macrocarpum, promotes neurite

		outgrowth and survival via distinct signaling pathways in PC12D cells. C. K. Tsang, A. Ina, T. Goto, Y. Kamei: Neuroscience, 132/3, 633-643, 2005.
マリンバイオ 関連： 研究活動及び研究業績等：	第6分野	A chlorophyll c2 analogue from the marine brown alga Eisenia bicyclis inactivates the infectious hematopoietic necrosis virus, a fish rhabdovirus. Y. Kamei, M. Aoki: Arch. Virol., 152, 861-869, 2007.
ワインは微生物の贈り物	講義の中で成果を紹介した	リンゴ酸高生産清酒酵母のエチルアルコール生成能の改善
環境保全の技術の歴史	研究成果の概要を講義で解説した。	：水環境保全に関する研究 1. Water quality analysis in the Ariake Sea (環境システム研究2002) 2. 水環境ハンドブック ( (社) 日本水環境学会) (河川環境の管理と整備・朝倉書店・1章5節・2006年)
暮らしの中の酵素	研究成果の概要を講義で解説した。	糖質分解酵素を用いた機能性オリゴ糖合成に関する研究 (論文、著書等) Fukamizo T., A. Fleury, N. Cote, M. Mitsutomi, and R. Brezinski. Exo- $\beta$ -glucosaminidase from Amycolatopsis orientalis: catalytic residues, sugar recognition specificity, kinetics, and synergism. Glycobiology (2006)
病原体のはなし	研究成果の概要を講義で解説した。	イネいもち病菌の非病原性遺伝子に関する研究 (論文、著書等) 1. Luo, C.X., L. F. Yin, S. Koyanagi, M. L. Farman, M. Kusaba and H. Yaegashi. Genetic mapping and chromosomal assignment of Magnaporthe oryzae avirulence genes AvrPik, AvrPiz and AvrPiz-t, controlling cultivar specificity on rice. Phytopathology, 95, 2005, 640-647.
食べる技術のはなし	研究成果に基づいて講義内でサンプリング調査を実施し、結果を受講生へフィードバックした。	し尿液肥循環に基づく循環授業プログラムの実施および効果、秋永優子, 中村修, 田中宗浩, 甲斐純子, 小林法子, 古賀夏奈. 福岡教育大学紀要
ダイヤモンドの人工合成	研究成果の概要を講義で解説した。	1. "Synthesis and characterization of oriented graphite like B-C-N hybrid", J. Appl. Phys., 99, 84902-1-5 (2006)
高等植物の光合成	研究成果の概要を講義で解説した。	マングローブの炭酸ガス固定能力に関する研究 (論文、著書等) 1. Ikeda, K., A. Nose, y. Okimto, M. Kinoshita, and S. Agarie (2007) Growth response of a mangrove species, Ksandelia candel in the northern coast of Ariake sea in ed. Y. Tateda, Green gas carbon balances in mangrove coastal ecosystem, Gendaitosho, Kanagawa, 119-126.
ネット授業：暮らしの中の生命科学	研究成果の概要の一部を講義で解説した。	植物ウイルスの分子進化に関する研究

		(研究業績) 1. Inter- and intralineage recombinants are common in natural populations of Turnip mosaic virus
病原体のはなし	研究成果の概要の一部を講義で解説した。	硝酸低減化野菜生産に関する研究 1. 満塩博起・中原光久・染谷 孝・井上興一 (2005) 窒素源の種類および濃度がコマツナの生育および硝酸態窒素含量に及ぼす影響。佐賀大学農学部彙報第90号:23-30
植物と環境	研究成果の概要を講義で解説した。	硝酸低減化野菜生産に関する研究 1. 満塩博起・中原光久・染谷 孝・井上興一 (2005) 窒素源の種類および濃度がコマツナの生育および硝酸態窒素含量に及ぼす影響。佐賀大学農学部彙報第90号:23-30
ヒトと環境の生物学	研究成果の概要を講義で解説した	化学物質による環境汚染に関する研究 (論文) Ueno et al. (2006) Distribution and transportability of hexabromocyclododecane (HBCD) in the Asia-Pacific region using skipjack tuna as a bioindicator. Environmental Pollution, 144(1) November, 138-247. Ueno et al. (2008) Hydroxylated Polybrominated Diphenyl Ethers (OH-PBDEs) in the Abiotic Environment: Surface Water and Precipitation from Ontario, Canada. Environmental Science and Technology, 42(5), 1657-1664. (著書) 田辺信介, 上野大介 (2004) カツオ-2, 水産学シリーズ140, 微量人工化学物質の生物モニタリング, 竹内一郎, 田辺信介, 日野明德 編, 恒星社厚生閣, 東京, 129-136.
生活の科学 (衣食住の植物)	研究成果の概要を講義で解説した。	アジア遊学「メコン 風土と野生イネ」 勉誠出版 (2003) Origin of weedy rice grown in Bhutan and the force of genetic diversity., Ishikawa, R., N. Toki, K. Imai, Y-I. Sato, H. Yamagishi, Y. Shimamoto, K. Ueno, H. Morishima and T. Sato, Genetic Resources and Crop Evolution, 52, 395-403, 2005
農業の現場を知ろう	研究成果の概要を講義で解説した。	アジア遊学「メコン 風土と野生イネ」 勉誠出版 (2003) K. Ueno: Effects of temperature during drying of immature wheat grain on germination. Seed Science and Technology 31, 587-595 (2003) K. Ueno & K. Miyoshi: Difference of optimum germination temperature of seeds of intact and dehusked japonica rice during seed development Euphytica 143, 271-275 (2005).
自然と人間の共生	研究成果の概要を講義で解説した。	アジア遊学「メコン 風土と野生イネ」 勉誠出版 (2003) 貯蔵温度と発芽温度がイネの籾と玄米の発芽に及ぼす影響, 上埜喜八・三吉一光, 日本作物学会九州支部会報, 第72号, 22-24, 2006.
身近な電子セラミックス	研究成果の基礎と概要および最新の研究開発動向を講義した。	セラミックスナノ粒子に関する研究 T. Watari, S. Taniguchi, T. Torikai,

		<p>M. Yada, S. Furuta: Porous <math>TiO_2</math> Photocatalyst Films Prepared from Peroxotitanic Acid Solution Dispersing Nano-Sized Silicate Layer Key Eng. Mater., 247, 419-422 (2003)</p> <p>M. Yada, S. Sakai, T. Torikai, T. Watari, S. Furuta, and H. Katsuki: Cerium Compound Nanowires and Nanorings Templated by Mixed Organic Molecules Advanced Materials, 16(14), 1222-1226 (2004).</p>
環境科学	環境	環境浄化技術
環境をはかる	環境	山西博幸・荒木宏之・古賀康之・日村健一・大石京子：自動昇降型水質測定装置を用いた有明海湾奥部の干潟における懸濁物質輸送と水質変動に関する現地調査，環境工学研究論文集，Vol. 42, pp. 297-304, 2005.
農業の現場を知ろう・自然と人間の共生	研究成果の概要を講義で解説した。	<p>農業副産物の利活用に関する研究（論文・著書等）</p> <p>1. 尾野喜孝他 2007, 「給与クズ米の形状の違いが肥育豚の発育および枝肉特性に及ぼす影響」, 佐賀大学農学部彙報</p> <p>2. 尾野喜孝他 2007, 「茶ガラの給与が肥育豚の発育およびロース肉の性状変化に及ぼす影響」, 佐賀大学農学部彙報</p> <p>3. 尾野喜孝他 2007, 「バレイショ混合サイレージが肥育豚の発育および肉質に及ぼす影響」, 日本畜産学会報</p> <p>4. 尾野喜孝他 2006, 「肥育豚の発育および枝肉成績に及ぼすクズ米添加飼料の影響」, 佐賀大学農学部彙報</p>
くらしの中の生命科学	参考書	著書「応用動物遺伝学」

(出典 平成 19 年度教員報告様式データ)

第7部会

授業科目名	関連	研究活動及び研究業績等
日本近世の地域社会	地域社会と経済の関係を説明	論文「産業と地域社会・地域経済―萩藩防長塩田を事例に―」（藪田 貫・奥村 弘編『地域史の視点 近世地域史フォーラム2』、吉川弘文館）
地域と風土	研究成果に基づいて講義を実施した。	（研究活動）農地・農村開発に関する地理学的研究（論文・著書等）白石平野における灌漑システムの変容と水資源管理、低平地研究 15、2006*
地域と蘭学	研究成果を講義で解説、蘭学展示を紹介し、解説した。	（論文・著書等）1 青木歳幸 2007 「佐賀藩蘭学再考―医学史の視点から―」地域学歴史文化研究センター研究紀要1号、2 青木歳幸編 2007 「海外交流と小城の洋学」展示図録

(出典 平成19年度教員報告様式データ)

第8部会

授業科目名	関連	研究活動及び研究業績等
人間社会とコミュニケーション (19年度前・後期、早瀬担当)		異文化間コミュニケーションの研究 反映例 : 異文化間コミュニケーションの研究論文「Cultural Identity in Teaching English」の研究成果を、主題科目「人間社会とコミュニケーション」の中で、学生に解説している。
English	The tasks that were recorded for analysis were based on questions directly related to the units covered in the textbook.	Analyzing planned and unplanned speech acts recorded on Yackpack as out of class speaking tasks for homework.
English	Students were given the opportunity to research areas directly related to field of study.	Analysis of rhetorical devices, organizational and delivery skills in classroom presentations.
English	Students spoke into the Yackpack, and wrote in their blogs under the same conditions and time constraints as the actual test. Students wrote or spoke feedback to their classmates based on actual rubrics.	Peer to peer collaboration and corrective feedback using Yackpack and blogs to create community, and interaction for developing test taking skills.
English	Improving students communication skills through practice	Communication dyads and triads
English	Improving students communication skills through practice	Using e-mails and journals to give students actual practice in using English for written communication
English	Improving students spoken communication through computer assisted practice	Using computer recording widgets to let students practice speaking and listening
英語	5	大学における英語教育の改善 (大学学報)
英語	3	ディベート教育法 (文化教育学部実践センター紀要)
英語	5	ブレンディッド方 e-learning の取り組み (リメディアル教育学会紀要)
English	Improve students speaking fluency to develop their communication skills	Speaking fluency improvement
English	Improving students' English writing	Blogs - measure the difference in writing fluency over the course of a term through use of blogs. Measurements entail examination of word counts and lexical frequency.
English	Developing writing strategies in a process based approach	Dealing with student plagiarism by increasing awareness, developing writing skills and developing writing strategies
日本語 1b	ビジターセッション活動等に関する共同研究	学外共同研究 (山形大学, 山梨大学), 論文発表「異文化理解力とコミュニケーション能力の養成にむけて-山梨大学・山形大学・佐賀大学の授業実践を事例として-」(山形大学紀要(教育科学)第14巻第3号, 2008年2月)
日本語 2b	ビジターセッション活動等に関する共同研究	学外共同研究 (山形大学, 山梨大学), 論文発表「異文化理解力とコミュニケーション能力の養成にむけて-山梨大学・山形大学・佐賀大学の授

		業実践を事例として-」(山形大学紀要(教育科学)第14巻第3号, 2008年2月)
日本語 I	授業内容を考える際に研究成果が参考になる。教材開発については、市販教材に不足した点を補い担当講義に適した教材を作成し、既に一部を授業で使用している。	(研究活動) 日本語教育に関する研究 (研究業績) 1 論文「単語クイズの実施方法と語句の定着との関わり」『佐賀大学留学生センター紀要』第5号 1-14 頁 (2006.2) 2 口頭発表「単語クイズの実施方法と語句の定着」日本語教育学会 2004 年度第6 回研究集会 (2004.9) 3 論文「日本語科目のクラス・サイズに関する一考察—受講者数に起因する問題とそれに対する意識—」『九州国際大学教養研究』第10 巻第2号 133-154 頁 (2003.12) (その他) 中上級・上級日本語読解教材の開発 (大分大学教員との共同開発) ”
日本語	授業内容を考える際に研究成果が参考になる。	(研究活動) 日本語教育に関する研究 (研究業績) 「単語クイズの実施方法と語句の定着との関わり」『佐賀大学留学生センター紀要』第5号 1-14 頁 (2006.2) 2 口頭発表「単語クイズの実施方法と語句の定着」日本語教育学会 2004 年度第6 回研究集会 (2004.9) 3 論文「日本語科目のクラス・サイズに関する一考察—受講者数に起因する問題とそれに対する意識—」『九州国際大学教養研究』第10 巻第2号 133-154 頁 (2003.12)

(出典 平成 19 年度教員報告様式データ)

第9 部会

授業科目名	関連	研究活動及び研究業績等
スポーツ科学講義	運動と健康	高齢女性の歩行能力と体力要因との関連
バスケット	体力に応じたゲーム時間の設定	バスケットボール授業のゲーム環境ーゲーム時間についてー
スポーツ実習	研究成果の概要を 講義で解説した。	(教育活動) 運動と習慣に関する研究 (研究実績) スポーツ実習受講者に対する授業関連アンケート実施・分析・授業への還元”
性差の科学	研究成果の概要を 講義で解説した。	(研究活動) 基調講演「スポーツ医・科学とドーピング」、2004 第 67 回九州山口薬学大会講演要旨集、第 67 回大会実行委員会・(社)佐賀県薬剤師会 85～89 頁
スポーツ実習		科学研究費 基盤研究 B 大学生の心身の健康問題に対処しうる独創的体育プログラム開発
健康科学講義	生活環境、人間関係の健康化	北川慶子編著、少子高齢社会の生活環境 pp1-16、人間関係の健康 pp111-136、「健康と福祉」、理想書林、平成 16 年
健康科学講義		著書：共著 健康と福祉 理想書林 2004
健康科学講義		著書：共著 ライフサイクルと生活福祉 建帛社 2004
健康科学講義		著者：編著 障害のある子どもの福祉と療育 建帛社 2005
境界を生きる文化	テキストとして利用	第 7 章：東西の身体諸技法の展開 田村栄子編著他『ヨーロッパ文化とく日本>ーモデルネの国際文化学』昭和堂”

(出典 平成 19 年度教員報告様式データ)

## 観点5-1-3： 単位の実質化への配慮がなされているか。

[トップ](#)

### 教養教育運営機構 5-1-3

#### 単位の实質化への配慮

(1) 自己学習を促すための方策（授業時間外の課題等）

「シラバス作成に関する要項」が制定され、これに基づき、シラバスを用いて自己学習の内容を指示するよう教員に促している。また、教員は以下に示すように、単位の实質化を図るために様々な工夫をこらしている。

#### 第1部会

レッスンテストを3回行い、授業の理解がなければ、単位が取れないようにした。  
1単位が15コマとなるように改善した。  
芸術と個人の関わりについて考察させレポートとした。  
可能な限り懇切丁寧かつ本格的な個別指導を実施した。  
英単語テストなどを行った。  
授業ごとに毎回レポートを提出させ、各回の採点の平均を主な採点法とすることで、毎回の授業の浸透度を把握した。

#### 第2部会

幾つかの授業に関して、以下の報告があった。  
・計5回小テストを実施した。論文コピーを配布し、授業内容理解の一助とした。  
・毎回プリントを配布し、パワーポイントでの映像解説をしつつ、板書を行い、かつ小テストで理解の定着をはかり、成果があった。  
・毎回、授業内容に関するコメントレポートを提出させ、添削指導を実施した。

#### 第3部会

課題レポートを課して、発表させた。  
毎回、簡単な問題を解く演習を課した。  
単元ごとに小テストを実施し、さらに課題を与えた。

#### 第4部会

ほぼ毎回、前回の復習から始めた。  
欠席過多管理を厳重に行なった。  
講義時のキーワードの確認を確実にした。  
基本的術語の確認を徹底した。  
課題を提示しレポートを提出させた。

#### 第5部会

それぞれの教員によって、多種多様な取り組みがなされている。それらを大別すると、  
授業内容のまとめ・プリント、参考資料の配布  
演習、小テストの実施  
レポート課題を与える  
学生にディベートさせる  
ホームページの活用（講義ノート、資料公開）  
などによって、自己学習を喚起している。  
以下、各教員からの報告を列挙する  
小テストを実施し、基本的な知識の習得を確認している。  
線形代数と力学の基本的な問題を毎週出題した。  
実験の最後に、パワーポイントを用いた成果発表会を実施し、発表内容、表現方法等について詳しくコメント、評価する。

講義で扱った例題をフォローしておくように指示した。  
 レポート課題を課し、家庭学習の指導をおこなった。  
 毎回、実験を行い、データを求めさせた。  
 毎回の講義内容についてのレポートを課した。  
 教養科目は講義時間内で理解してもらえるように、努力している。  
 授業時間を十分に確保し、平常の受講態度を把握するとともに、宿題・読書レポート・定期試験に基づく成績評価を行った。  
 レポート作成とプレゼンテーションを通して、受講生間の相互理解を深めるとともに、成績の厳格評価の基礎資料とした。  
 シラバスに自習課題を記載している。  
 毎回、テーマとなるプログラムを学生に動作させることを求めた。  
 毎週、数学または力学の演習問題を出題し、翌週に発表させた。  
 定期試験により成績評価を行い、単位の実質化に努めた。  
 毎回、授業に関連する課題レポートを出した。  
 毎回、講義中に課題を課し、レポートとして提出させた。  
 学部1年生にゼミ形式で学習させ、毎週一人ずつ発表させることにより、物理の内容の理解を深めるとともに、プレゼンの練習も兼ねた。  
 ほぼ毎回宿題を出し、返却した。  
 毎回課した小試験を採点し、その総点で成績評価を行った。  
 毎回、演習問題を出題し、翌週に解説を行った。  
 単位認定には出席がウエイトを占めるので、出席カード方式をとり、遅刻を戒めて確認を厳密にした。  
 毎回、講義中に課題を課し、レポートとして提出させた。

## 第6部会

それぞれの教員によって、多種多様な取り組みがなされている。それらを列記すると、

- ・チャレンジ・ベンチャービジネスⅠ

工場見学をして企業家の話しを聞くほか、見学先企業から課題を戴き、持ち帰って学生らのグループ（4～5名）学習とした。講義の終盤の3回分を費やしてプレゼンテーションを行い、企業関係者にもご出席戴きご意見を戴いた。

- ・チャレンジ・ベンチャービジネスⅡ

協賛企業から戴いた課題を基に、学生同士（4～5名のグループ）でブレインストーミング及びKJ法による整理を行い、課題に対する解決策をビジネスプランとして発表する第3回佐賀学生ビジネスプランコンテストを開催した。

- ・インキュベート研究

ビジネスプランコンテストに応募させ自主学習を促した。

- ・海洋エネルギー学

専用HPを開設して、そのファイルをに復習用に掲示。

- ・栽培植物の世界

講義で紹介した以外の農作物に関するレポート提出を義務化して、自主学習を促した。

- ・ネットワーク社会と技術

講義HPで各種の講義コンテンツ等を公開し、学生が授業に欠席せざるを得なかった場合でも、自学自習できるようにした。

- ・高等植物の光合成

一般書から専門書までの関連する参考図書を示し、自主学習を行う取っ掛かりを提供した。  
 生活の科学（衣食住の植物）、農業の現場を知ろう、自然と人間の共生、  
 課題を提示しレポートを提出させた

- ・身近な電子セラミックス

理解を高めるためのプリントを配布している。

- ・環境をはかる

講義毎のクイズの実施により、学生自らの復習を行えるよう配慮した。

学力不足の学生への配慮については、

- ・栽培植物の世界

数回の小テストをしたが、それでも学力不足の者は不合格にした。

- ・マリンバイオ

専門用語、特に英語の専門用語は極力用いずに授業を進めている。

- ・ダイヤモンドの人工合成

e-learning を利用して、中学卒業程度の学力があれば理解できるように学習内容を説明した。

- ・高等植物の光合成

各授業で分り難かった点についてアンケートをとり、次回の講義の始めに特に理解が不十分な点について再度解説を試みた。また、パワーポイントの要点を研究室の前に掲示し、授業の要点が周知できるように配慮した。

- ・病原体のはなし

レジメやスライドを利用し学生の視覚から理解を深めた。

## 第7部会

有明人の知恵と生活では、講義と現地見学を行い、実体験を重視して行った。参考書は無償配布し、随所に現われる有明人の技術を中心に解説した。自己学習を進めるため、縄文時代の想像画をレポートとして提出させ、次回の抗議で発表させながら討論もした。現地調査は大学のマイクロバスで嘉瀬川に沿って有明海まで見学した。

博物館展示見学を行い、蘭学の実物に触れ、興味関心が湧き、すぐれたレポートにつながった。

毎回プリント配布し、パワーポイントでの映像解説をしつつ、板書を行い、かつ小テストで理解の定着をはかり成果があった。講義ごとにレポート課題を課し、翌週までに提出させた。

地域創成型学生教育プログラムを活用して、フィールドワーク型の授業を土日祝日を活用して実施した。

毎回、授業内容に関するコメントレポートを提出させ、添削指導を実施した。

計5回小テストを実施した。論文コピーを配布し、授業内容理解の一助とした。

計3回小テストを課した。歴史関係施設の訪問・見学をすすめた。

授業時間を十分に確保し、平常の受講態度を把握するとともに、宿題・読書レポート・定期試験に基づく成績評価を行った。

レポート作成とプレゼンテーションを通して、受講生間の相互理解を深めるとともに、成績の厳格評価の基礎資料とした。

最終的に報告会で発表してもらうこととし、報告に必要なデータ収集、分析作業を授業時間外で行うよう指導した。

## 第8部会

毎時のショートテストの評価比率を上げる。

期末テストのみならず、平常の出席状況や講義の受講態度を点数化して成績判定を行った。

シラバスとは別に詳細な授業計画を学生に配布し、授業の概要並びに評価方法・基準を十全に説明する。評価基準については、基準細目表を作成し、厳格な評価を行っている。

英単語テストなどを行った。

## 第9部会

単元ごとのまとめテストの実施

”生涯スポーツの素地をつくる意図から、主体性・自主性・協力を養成するためのチーム毎の行動を基盤とした活動を推進した。

## 第10部会

1) 新井の10点方式：講義の際、質問等発言した受講者に10点を与え、発言を促すことによって受講者の理解の程度を把握する。

2) 新井のリテール対応方式：各受講者の苦手とする講義細目のミニテストによる把握と当該苦手細目克服のためのレポート課題提示、並びに、そのフォローアップ。

3) 新井のA4用紙1枚方式：定期試験にA4用紙1枚を持ち込み可として当該用紙作成による試験勉強を促し、提出させて学習習熟度を評価する。暗記力を試験するのではなく、重要と思われる事項は当該用紙に記入させ、それら知識を使って課題を解く能力を試している。

中間と最終レポートを手渡しで提出させ、提出時に質問により理解度を確認する。

課題の提出及び実技テストを行った。

講義で扱った例題をフォローしておくように指示した。

レポート課題を多く課した。

演習を実施し、毎週の課題を次回講義までにEメールで提出させた。

課題作文を与えることによって、自宅学習の促進を図った。

毎回、講義中に課題を課し、レポートとして提出させた。  
ほぼ毎回、授業内容の理解を深めるための課題を出して提出させた。  
授業開始時に、「予習カード」と称して予習内容と所要時間を自己申告させた。また、適宜、レポート課題を出題し、提出を義務付けた。  
毎回、課題を出し、復習をかねた事後学習を課した。  
正規の授業時間を確保すると共に適宜予習や復習のための課題を与えることにより定められた学習保証時間を実現した上で、レポートや試験に基づき厳格に評価した。

(出典 平成 19 年度教員報告様式データ)

## (2) 履修登録制限の実施状況

教養教育科目単独での履修制限は行っていない。ただし、主題科目については、週 3 コマ程度しか履修できないので、時間割の制約上、履修登録できる科目数に限界がある。

外国語科目などの必修科目は、クラスが学部学科等毎に指定されているので、必要以上に履修することはできない。

## (3) GPAに基づく学修指導の状況

GPA は導入しているが、それに基づく学修指導については検討中である。

観点5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

[トップ](#)

## 教養教育運営機構 5-2-①

教育課程にふさわしい授業形態、学修指導方法

### (1) 講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切か。

教養教育科目は、講義、演習、実験、実習等から構成し、1年次学生には大学入門科目を課している。1クラス当たりの平均履修者数は、前学期・後学期ともに60名前後であり、2割から5割程度の授業が、野外実習型、学生参画型等の講義以外の形態で行われている。(最小は農学部の24%、最大は文化教育学部52%) ※教員報告様式データは欠損値が多く、正確さに問題あり。

また、第5分野「数理と自然」では、主題科目の科目群を「数学・情報系」、「物理系」、「化学系」、「生物・地学系」の4科目群に分け、それぞれがほぼ均等に開講できるように取り決め、実施することにより、基礎科目内でのバランスを確保している。

資料5-2-①-1 1クラス当たりの受講生数の平均

授業科目	前学期	後学期
大学入門科目	32 (1451/45)	7 (48/7)
主題科目		
第1分野 (文化と芸術)	87 (1480/17)	74 (1107/15)
第2分野 (思想と歴史)	103 (1243/12)	90 (1172/13)
第3分野 (現代社会の構造)	145 (2326/16)	92 (1562/17)
第4分野 (人間環境と健康)	133 (1590/12)	91 (1455/16)
第5分野 (数理と自然)	82 (2535/31)	82 (2121/26)
第6分野 (科学技術と生産)	89 (2592/29)	76 (2592/34)
共通主題科目		
第1分野 (地域と文明)	30 (152/5)	21 (127/6)
外国語科目	32 (5479/170)	32 (5254/166)
健康・スポーツ科目	49 (2005/41)	143 (1864/13)
情報処理科目	73 (2105/29)	73 (807/11)
日本事情	28 (28/1)	40 (40/1)
全体	56 (22891/408)	56 (18149/325)

### (2) 学修指導方法の工夫

主題科目の主な授業の形態は講義であり、少人数授業として開設されている主題科目はほとんどない。しかしながら、共通主題

科目では少人数クラスが編成され、野外実習等の学生参画型の授業を行っている。英語についても、ネイティブスピーカーによる実践的な英語教育を少人数クラスで実施している。

特にユニークな実践としては、他の国立大学と共同で実施している九州国立大学間合宿共同授業、「佐賀環境フォーラム」「身近な環境」等、平成15年度特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）に採択された「市民参画（佐賀環境フォーラム）プロジェクト」による市民開放型の主題科目、総合型授業を開設している。また、地域性のある授業科目から構成される「地域創成型学生参画教育モデル開発事業」（平成17年度教育改革経費）についても、共通主題分野「地域と文明」の授業科目をはじめ、主題科目と連携した取り組みを行っている。

さらに、主題科目の一部には、ネット授業として開講されているものがある。これらは平成16年度現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム（現代GP）「ネット授業の展開」に採択され、蓄積してきた成果を反映した、先端的な取り組みである。（資料「ネット授業実施委員会活動実績報告書」平成18年7月）さらに、平成20年度から「エコアクション21」の一環としてネット授業「地域の環境—森・川・海を繋ぐ環境と暮らし—」の開講が決定している。

その他、受講生の授業への理解が深まるよう、TAの積極的な活用を図っている。

各部会からは、以下の様な事例が報告されている。

#### 第1部会

出席チェックカードに毎回のキーワードを記載させるとともに、質問等も記述させることで授業の内容の充実へつなげた。

少人数制クラスがバランスよく機能するため、複数の教授者との連携をとり学生がよりよい英語教育を受けられるよう努力した。

授業で配布するレジメから音楽史のみならず社会史的側面からの理解を促した。

可能な限り懇切丁寧かつ本格的な個別指導を実施した。

オーラル・コミュニケーション能力の基礎をなすリスニング力を養成するため、学生の要望に応じ、英語会話のディクテーションを毎時間実施している。

学習用のハンドブックを作成した

E-ラーニングにより、空いた時間に理解できるまで何度でも自宅で学習が出来る。

#### 第2部会

すべての講義毎に教授内容に関する質問や疑問を記入してもらい、次講義時に回答している。

画像・映像などを利用し、学生の理解を深める一助とした。

#### 第4部会

AV資料の出典を入手しやすいように提示した。

AV資料を用い、理解の定着を図った。

自己の問題と関連づくような話題を取り上げた。

術語の平易な解説を心がけた。

授業ではパワーポイントを併用して視覚的に分かりやすいように講義した。

講義に加えフィールドで見学会を開いた。

#### 第5部会

\*少人数授業： 教養教育の場合、大人数を相手にする講義もあり、全てに少人数教育が徹底できる状況ではない。

\*対話・討論授業： 討論、ディベートを取り入れている授業もある。（8-2）参照。

\*フィールド型授業： 地学関連授業など。

\*多様なメディアを利用した授業、情報機器の活用： 多くの授業でパワーポイントが使われている。また、講義ノートの公開、参考資料の提示、自己学習の支援などで、ホームページの有効な活用が見られる。

\*TAの活用： 数学の演習、化学の実験で活用されている。

具体的な例としては次のようなものがある。

「宿題」を課し、受講生の知的関心の向上を図った。

グループで実験テーマ、実験計画を自ら決定させている。

スライドや写真を多用し視覚的に理解しやすいように心がけた。

パワーポイントによる講義を行い、文章や数式では理解しがたい概念を視覚的に説明している。

出席カードに、毎回質問、疑問点を書かせ、次回からの説明の改善の参考にした。

受講生が外国人留学生であることと、所属学部が多様性であることに留意した講義を実施した。

受講生と教員間のフィードバックに留意した講義を実施した。  
 受講生のレディネス、履修目的、講義への期待などを第1回講義日に実施し、受講生の期待に応える授業を展開した。  
 受講生のレディネスと関心の有様を把握した上で、配布資料や視聴覚機器を利用した講義を実施した。  
 可能な限り具体例を使って説明するようにした。  
 学生から要望の高かった「岩石・鉱物の実物をみたい」という意見を取り入れ、毎時間講義で取り上げる岩石・鉱物について可能な限り標本を回覧するようにした。  
 専門用語について、その語源を説明したり、かみ砕いて使用した。  
 教科書及び補足配布資料を活用して、生物学に関する専門基礎科目を分かり易く講義した。  
 毎回、授業に関連する課題レポートを出した。  
 毎回、演習問題を出題し、翌週に解説を行った。  
 毎回の授業についての受講生のコメントを求め、コメントのまとめを配布することにより、受講生と教員間のフィードバックを確保した。  
 毎回の講義の後に、講義に関するコメントの提出を受講生に求め、相互理解を深めた。  
 毎回紙を配って質問を回収し、翌週その回答をプリントして配った。  
 生物から見た日本事情を理解できるように、身近な資料、話題を多数提供した。  
 英語で書かれた講義資料を理解しやすいよう、「カオス入門英単語ガイド」を作成・配布した。  
 視聴覚機器と配布資料を用いて、分かり易く講義を展開した。  
 読書レポートを課し、批判的な姿勢で本を読む態度を涵養した。  
 講義では、明瞭で簡潔な日本語を使うように努めた。  
 講義の分担者4名で、講義の実施方法や成績判定法について、事前に検討した。  
 講義中にTAを配置し、実験指導をおこなった。  
 身近な出来事、最新の情報を講義で紹介し、受講生の関心を引き出した。  
 1校時であったため遅刻が多かったため、最初の20分程度は前回講義の質問事項の解説を行うことにした。結果、2回に分けて聞くことで理解度の向上が得られたと思われる。

## 第6部会

- ・チャレンジ・ベンチャービジネスⅠ  
 昨年度までの授業状況が分かるようにテキストを製作した。学生には大変だったと思うが、自転車等を使って企業訪問をした。企業のトップの方とお会いしてお話を聞くなど、企業体験も含めた。
- ・チャレンジ・ベンチャービジネスⅡ  
 協賛企業の担当者に課題説明に来ていただいたほか、直接指導など何度か講義に参加いただいた。
- ・インキュベート研究  
 インターンシップ先の企業は平成20年1月18日に実施したビジネスプランコンテストの協賛企業とし、学生の実習テーマと企業の要求等を何度も企業を訪問し調整した。
- ・海洋エネルギー学  
 板書の代わりにパワーポイントによる説明。専用HPを開設して、そのファイルをに復習用に掲示
- ・栽培植物の世界  
 農作物の現物や農業現場の実際を認識してもらうために、写真やビデオを用いて説明するようにした。
- ・やさしい材料力学  
 毎回演習を行った。
- ・ネットワーク社会と技術  
 講義HPを通じた講義コンテンツの提供、レポートの回収、採点結果およびコメントのフィードバック、大福帳を用いた学生の意見・コメントの収集および回答など、様々な工夫や努力を行った。
- ・環境保全の技術の歴史  
 毎週、質問表に記入させ、翌週に回答した
- ・高等植物の光合成  
 各授業で感想とともに興味深かった点と分り難かった点についてアンケートをとり、次回の講義の始めに特に理解が不十分な点について再度解説を試みた。また、パワーポイントの要点を研究室の前に掲示し、授業の要点が周知できるように配慮した。
- ・病原体のはなし  
 レジメやスライドを利用し学生の視覚から理解を深めた。
- ・生活の科学(衣食住の植物)、農業の現場を知ろ、自然と人間の共生

講義に加えフィールドで見学会を開いた

- ・身近な電子セラミックス

なるべく多くのセラミックスの実物を準備して興味を高めるよう努力した。

- ・総合演習

学生が討論・発表しやすい環境を作り、また、プレゼンテーションの方法について指導した。

- ・環境をはかる

講義毎に前回講義に関するクイズを実施すると共に解答解説を加え、講義の復習と理解度のチェックを行った。これにより、学生自身による現状を把握をさせ、講義理解の向上に寄与した。

- ・農業の現場を知ろ、自然と人間の共生

講義の中でフィールドセンターと棚田での終日実習を3回行うことによって、農学部以外の学生の理解を深める工夫をしていた。

## 第7部会

第7分野では少人数授業を基本とし、教室外での実地見学等を重視し、土曜等の休日にバスを借り上げてフィールド教育を行っている。

具体的な例としては次のようなものがある。

受講生が外国人留学生であることと、所属学部が多様性であることに留意した講義を実施した。

受講生のレディネス、履修目的、講義への期待などを第1回講義日に実施し、受講生の期待に応える授業を展開した。

講義の分担者4名で、講義の実施方法や成績判定法について、事前に検討した。

「宿題」を課し、受講生の知的関心の向上を図った。

受講生と教員間のフィードバックに留意した講義を実施した。”

受講生のレディネスと関心の有様を把握した上で、配布資料や視聴覚機器を利用した講義を実施した。

受講生各自が（授業の目標から逸脱しない限りで）テーマを設定し、講師が提示するデータ一覧からテーマの説明に資するものを選択・分析するとともに、データを補完するためのインタビュー、質問紙調査を実施してもらい、問題発見能力、自立性の涵養を図った。

教科書及び補足配布資料を活用して、生物学に関する専門基礎科目を分かり易く講義した。

毎回の授業についての受講生のコメントを求め、コメントのまとめを配布することにより、受講生と教員間のフィードバックを確保した。

毎回の講義の後に、講義に関するコメントの提出を受講生に求め、相互理解を深めた。”

毎講義ごとに準備した講義資料を配布し、復習のための資料に位置付けた。

生物から見た日本事情を理解できるように、身近な資料。話題を多数提供した。

画像・映像などを利用し、学生の理解を深める一助とした

画像・映像などを利用し、学生の理解を深める一助とした。県内の歴史関係施設を紹介し、見学をすすめた。

視聴覚機器と配布資料を用いて、分かり易く講義を展開した。

読書レポートを課し、批判的な姿勢で本を読む態度を涵養した。”

講義では、明瞭で簡潔な日本語を使うように努めた。

身近な出来事、最新の情報を講義で紹介し、受講生の関心を引き出した。

## 第8部会

### 少人数授業

18年度から英語教育においてネイティブスピーカー教員による少人数クラス授業が導入され、19年度は前期に23コマ、後に23コマ開かれた。全体として昨年度よりも15コマ増加し、ネイティブスピーカー教員による英語の少人数教育の充実が更に進んだ。また、ドイツ語、フランス語については、ネイティブスピーカー教員もしくはネイティブスピーカー非常勤講師による少人数クラスが従来から開講されている。

### 多様なメディアを利用した授業

19年度現在、本庄キャンパスには語学教育用にLM教室1、LM教室2、LM自習室の計3室が設置され、インターネットを利用したマルチメディア語学教育がなされている。また、鍋島キャンパスにはLL教室が設置されている。

### 情報機器の活用

語学教育に関しては、LM運営委員会、CALLシステム運営委員会の管理・運営の下で、LM教室、LM自習室が設置され、E-learningなどのネット授業が可能なコンピューター機器を整備、活用している。

### TAの活用

19年度、当部会では英語のネット授業用にTAを活用した。なお、教養教育における中国語、朝鮮語のクラスの70%～80%は、すでにネイティブスピーカーの非常勤講師が担当している。

TA

佐賀大学ティーチング・アシスタント実施要領を改正し、後学期から新様式によるTAの実施報告書の提出を求めた。新様式のTAの実施報告書の提出状況は、以下の通りである（なお、後学期に採用したTAは52人となっている）。

TAの実施報告書の提出率 22 科目中 22 科目（後学期より実施）

具体的な例としては次のようなものがある。

I was able to incorporate more methodologies and theory from my MA programme, particularly the use of Web 2.0 tools

I was able to incorporate specific medical professional needs into the curriculum to a greater degree than previous years; including patient/doctor consultations, filling out of forms, applications, professional writing formats for medical employees

Fairer and more representative assessment methods were employed

スピーキングの発表の機会を増やす

全体のスケジュールをもう少しゆるやかなものにした。

受講生の能力、反応に応じて、クラスワークや個人タスクの難易度と内容を調整したり、教員がデモンストレーションをして見本を示すなど、分かりやすさを追求した。また、個人のタスクに対しては、各人の日本語能力に応じて適切なレベルの助言、指導を心がけ、それぞれが現状よりもレベルアップできるように努めた。

少人数クラスである利点を活かして、積極的な発言を求めたり、語学のみならず映像資料を活用した文化関係の説明も随時に実施した。

少人数制クラスがバランスよく機能するため、複数の教授者との連携をとり学生がよりよい英語教育を受けられるよう努力した。

書技能の指導は、各人の書いたものについて具体的に助言を行うことが肝要であるため、学生全員に対する説明のあとに個別指導を入れたり、個人面談の日を設けるなど、効果的に個人指導ができるように授業計画を練った。

留学生によるプレゼンテーションの際に日本人学生をビジターとして参加させ、学生相互の評価活動を実施し、学生参加型の多文化クラスを実現している。

留学生によるプレゼンテーション及びディベートの際に日本人学生をビジターとして参加させ、学生相互の評価活動を実施し、学生参加型の多文化クラスを実現している。

リスニング能力向上のみに特化した授業にした。

学習用のハンドブックを作成した

## 第9部会

メモ用紙による学生の疑問点、質問の収集

全講義の要点をプリント化し（A4で計70枚）、配布して授業を行うようにした。

## 第10部会

TAによるきめ細やかな指導を行った。出席を厳格にとった。

グループウェアソフトを用い情報通信技術を用いながらの演習とした。

プレゼンテーションを重視し、2回の発表を課す。課題の合格基準は低いが、それよりも水準の高いものを提出しなければならないよう、自分で調べて工夫するように誘導した。

可能な限り具体例を使って説明するようにした。

学習履歴ファイルの作成指導を行なった。

担当した自由研究に関して、前年度の内容と方法の問題点等について見直しを図った上で、取り組みやすいように工夫した資料を作成し、配布した。

担当部分に関して、前年度の内容と方法の問題点等について見直しを図った上で、演習に取り組みやすいように工夫した授業プリントや教材を作成し、配布した。

演習中、室内をくまなく見回り、理解不足学生への指導を行なった。

(出典 平成19年度教員報告様式データ)

観点5-2-2： 教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され、活用されているか。

## 教養教育運営機構 5-2-2

授業がシラバスに沿って行われているか。

授業担当者は、「シラバス作成に関する要項」に従って、所属部会が有する教育の目的に即したオンラインシラバスの作成及び見直しを行い、授業に活用している。学生対象アンケート報告書によれば、「主題科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか？」に対する5段階の評価は、平成19年度は平成18年度と同様、平均3.3程度であった。（根拠資料：平成19年度第4回大学教育委員会附議事項）

### 資料5-2-② オンラインシラバスの見直し例

平成19年度 前学期・後学期 主題科目シラバス入力状況一覧(案)								
平成 年 月 日								
下表のとおり提出します。								
第7部会長								
岩尾 雄四郎								
番号	学期	担当教員	授業科目	講義概要	授業計画	成績評価の方法と基準	教科書 参考図書	講義毎の課題 オフィスアワー
1	前学期			○	○	△	○	×
2	前学期			○	○	○	○	×
3	前学期			○	△	△	○	×
4	前学期			○	○	○	○	×
5	後学期			○	○	△	○	×
6	後学期			○	○	○	○	×
7	後学期			○	○	△	○	×
8	後学期			○	○	○	○	×
9	後学期			○	○	△	○	×
10	後学期			○	○	△	○	×
11	後学期			○	△	△	○	×

観点5-2-3： 自主学习への配慮，基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

## 教養教育運営機構 5-2-3

### (1) 自主学习への配慮

「シラバス作成に関する要項」の第1条第3号に「学生に授業計画を周知し、学習計画を立てさせる」とし、以下に示すような自主学习への配慮に取り組んでいる。多くの授業科目において、担当教員がレポート、小テストを課したり、自主学习を喚起するためにプリントを配布したりしている。また、ICTを活用した自主学习の仕組みを取り入れている実践例も散見している。

#### 第1部会

- ・永年蓄積してきた映像プログラムのライブラリー化。
- ・様々な学習方法、視聴覚教材の貸し出しなど自己学習に対する助言を多くした。
- ・個別指導に際し、次回の指導に向けての課題を与えるようにしている。
- ・e-ラーニングにより、空いた時間に理解できるまで何度でも自宅で学習が出来る。

#### 第2部会

- ・（自主学习への配慮）論文のコピーを配布し、事前に読ませた。
- ・（学力不足の学生への配慮）年5回小テストを実施し、理解度をはかりながら授業をすすめた。

#### 第3部会

- ・レポート提出や定期試験の準備に際して、各自に関心に応じて、企業研究をおこなう機会を設けた。
- ・データを読みとり、発表させることで、授業時間以外に情報検索とプレゼンテーションの準備を行う。
- ・時間を確保した。読書案内を行った。
- ・講義に関するプリント資料を予め配布して予習および復習ができるようにした。

#### 第4部会

- ・希望に応じ適切な文献や関連サイト等を紹介した。
- ・講義2回につき1回の割合で小レポートを課し、予習・復習ができるようにした。
- ・課題を提示しレポートを提出させた。

#### 第5部会

- ・毎回、パワーポイントの配付資料を提供し、復習のための教材としている。
- ・オンラインシラバスに関連するホームページをリンクし、講義内容をよりビジュアルに理解できるようにした。
- ・講義プリントをwebで公開し、予習復習ができるようにした。
- ・毎回の講義内容についてのレポートを毎週課した
- ・宿題や読書レポートを課し、自主的な学習への動機付けを行った。
- ・自習課題をシラバスに記載している。
- ・毎回、授業に関連する課題レポートを出した。
- ・本科目において微積分や線形代数の基本的なレクチャーを行い、自主学习ができる段階までの学力育成を図った。
- ・講義のスライドを個人のホームページに掲載し、復習の便に供した。
- ・使用するプログラミング環境を、個人でも準備できるものとした。
- ・講義ノートをWebで公開し、復習予習に利用できるようにした。

#### 第6部会

- ・チャレンジ・ベンチャービジネスⅠ、チャレンジ・ベンチャービジネス：4～5名のグループを作って、グループ学習をさせた。
- ・インキュベート研究：ビジネスプランコンテストに応募させ自主学习を促した。
- ・海洋エネルギー学：専用HPを開設して、そのファイルをに復習用に掲示。

- ・栽培植物の世界：講義で紹介した以外の農作物に関するレポート提出を義務化して、自主学習を促した。
- ・ネットワーク社会と技術：講義 HP で各種の講義コンテンツ等を公開し、学生が授業に欠席せざるを得なかった場合でも、自学自習できるようにした。
- ・ダイヤモンドの人工合成：e-learning を利用して、学習資料を提供し、自主学習できるように配慮した。
- ・高等植物の光合成：一般書から専門書までの関連する参考図書を示し、自主学習を行う取っ掛かりを提供した。
- ・生活の科学（衣食住の植物）、農業の現場を知ろう、自然と人間の共生：課題を提示しレポートを提出させた
- ・身近な電子セラミックス：理解を高めるためのプリントを配布している。
- ・環境をはかる：講義毎のクイズの実施により、学生自らの復習を行えるよう配慮した。
- ・農業の現場を知ろう、自然と人間の共生：数回のレポートの提出を課している。

#### 第7部会

- ・毎講義ごとに課したレポートを試験時の持込資料に位置付け、この充実を図らせた。
- ・論文のコピーを配布し、事前に読ませた。
- ・宿題や読書レポートを課し、自主的な学習への動機付けを行った。
- ・次回の授業までに進めるべき作業を授業中に提示し、不明な点、困った点等をメールや面談で随時受け付け、その都度問題解決を図った。

#### 第8部会

- ・ I was able to incorporate web2.0 tools to improve spoken component; particularly audacity package
- ・ I was able to develop better student rapport techniques to improve motivation and commitment by students
- ・音声入力による課題を課す。
- ・様々な学習方法、視聴覚教材の貸し出しなど自己学習に対する助言を多くした。
- ・宿題を課す。
- ・自主的に学習を行う学生からの要求に応じて、添削などの個人指導を行った。

#### 第9部会

- ・単元ごとのまとめテストの実施した。

#### 第10部会

- ・講義ノートを web で公開し、予習復習ができるようにした。
- ・ほぼ、毎週、プログラミングの課題を出題し、Email で提出させる。
- ・テキストを課題中心とした。
- ・授業毎にレポート課題を課して、授業時間以外の学習時間を確保するようにした。
- ・ほぼ毎時間適切な量の課題を与えた
- ・同級生の課題提出物を積極的に公開することにより、課題の合格水準よりも高い内容の提出物を出すように誘導している。
- ・担当した自由研究に関して、取り組みやすいように工夫した資料を作成し、配布した。
- ・担当部分に関して、演習に取り組みやすいように工夫した授業プリントや教材を作成し、配布した。

(出典 平成 19 年度教員報告様式データ)

### (2) 基礎学力不足の学生への配慮

5-1-②「リメディアル教育の実施状況」で述べたように、第5部会に所属する教員及びOBを中心とした「リメディアル物理実施委員会」を設置し、入学式前に力学の講義(10時間)を全学部対象に実施するなど、基礎学力不足の学生に組織的な配慮を行っている。また、第6部会に所属する教員がリメディアル力学、基礎物理学および演習の補習授業に取り組んでいる。

その他、基礎学力不足の学生への配慮としては、以下のような実践例がある。

### 第1部会

- ・授業中理解度を確認しに質問を促した。また、授業外の指導も行った。
- ・レッシンテストでは、グループ作業によって、お互いに教えあえるようにした。
- ・5回あるレッシンテストで、点数が低く、習熟が進まない学生は、個別に呼んで、学習の仕方を検査し、改善に向け、アドバイスをしている。
- ・補講の時間をもうけ、より力をつけるための機会を与えた。
- ・基礎力をつけさせるための指導を行い、かつ補助的な課題を与えるようにした。
- ・個人面談による学修状況把握とケアを行った。
- ・e-ラーニングにより、空いた時間に理解できるまで何度でも自宅で学習が出来る。

### 第2部会

- ・成績が思わしくない学生に対しては、特に追加のレポート提出を求めることで、学習の徹底を図った。

### 第4部会

- ・平易で安価な入門的参考書を紹介した。

### 第5部会

- ・専門用語について、その語源を説明したり、かみ砕いて使用した。
- ・毎回、質問票を回収し、次の回に回答を配布している。

### 第6部会

- ・e-learning を利用して、中学卒業程度の学力があれば理解できるように学習内容を説明した。
- ・レジメやスライドを利用し学生の視覚から理解を深めた。
- ・各授業で分り難かった点についてアンケートをとり、次回の講義の始めに特に理解が不十分な点について再度解説を試みた。また、パワーポイントの要点を研究室の前に掲示し、授業の要点が周知できるように配慮した。
- ・大福帳システムを活用して個別学生の状況把握に努め、学力不足の学生を早期に発見し、対応できるように努めた。
- ・専門用語、特に英語の専門用語は極力用いずに授業を進めている。
- ・数回の小テストをしたが、それでも学力不足の者は不合格にした。

### 第7部会

- ・小テストや小レポートを実施し、理解度をはかりながら授業をすすめた。

### 第8部会

- ・授業中理解度を確認しに質問を促した。また、授業外の指導も行った。
- ・I was able to initiate effective 1-to-1 counselling to improve student performance and technique
- ・フォローアップするような課題を課す。
- ・補講の時間をもうけ、より力をつけるための機会を与えた。
- ・当該学生の欠席により授業時に行うことのできなかつたプレゼンテーション準備のための指導を時間外に行った。
- ・個人面談による学修状況把握とケアを行った。

### 第9部会

- ・メモ形式による疑問点、質問を収集し、解説する。

### 第10部会

- ・タイピングの試験を合格するまで何度も行った
- ・課題の提出期限の余裕を持たせ、時間的な制約をなくして取り組めるようにした。

(出典 平成19年度教員報告様式データ)

観点5-3-①： 教育の目的に応じた成績評価基準や卒業認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、これらの基準に従って、成績評価、単位認定、卒業認定が適切に実施されているか。

[トップ](#)

## 教養教育運営機構 5-3-①

### 成績評価と卒業判定の基準の周知方法

学則等を学生便覧に掲載するとともに、「シラバス作成に関する要項」に従って授業科目毎の成績評価の基準をシラバスに記載し、成績評価を実施している。また、「成績評価基準等の周知に関する要項」を制定し、「GPA制度について」（学生用説明文）と合わせて、成績評価の基準を学生に周知している。

「学生による授業評価」の結果によれば、教養教育科目の成績評価基準については、約60%が「完全に把握している」又は「少しは把握している」と回答している（根拠資料：教養教育運営機構FD委員会『平成19年度教養教育運営機構組織別授業評価報告書』5頁）。

観点5-3-②： 成績評価等の正確さを担保するための措置が講じられているか。

## 教養教育運営機構 5-3-2

### 成績評価に対する異議申し立ての状況、対応結果

成績評価の正確さを担保するため、「佐賀大学における成績評価平均値に関する規程」を制定するとともに、「成績評価の異議申し立てに関する要項」を制定し、試験問題や答案を成績発表後3ヶ月は授業担当者が保存するよう指示している。

平成19年度は、「成績評価の異議申し立てに関する要項」により、学生が成績評価への質問又は異議を担当教員に申し出ているが、いずれのケースについても、学生と担当教員との協議によって成績評価に対する疑義が解決され、学生が教養教育運営機構長に異議を申し立てていないことから、適切に対処されていると判断される。

例示すれば、第6部会では、以下の科目について学生が担当教員に異議を申し立てているが、担当教員が適切に対処に対し、学生から納得を得ている。

#### 第2部会

・成績評価に関する質問が2件あった。答案とともに細かい点数の判断を説明し、納得を得た。

#### 第4部会

・2件有。1名は修正し、1名は評価根拠を示し修正なし。

#### 第5部会

・卒業がかかっているので成績評価を見直してほしいとの要請があったが、修正することはなかった。

#### 第6部会

・ダイヤモンドの人工合成  
e-learningのテスト成績に関する異議申し立てには、採点修正あるいは再受験できるように配慮した。  
・高等植物の光合成  
解答のポイントとなる点を示し、答案の不備な点を説明し、納得を得た。

(出典 平成19年度教員報告様式データ)

## 5 教育の成果

### (1) 観点ごとの分析

観点6-1-①： 学生が身に付ける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等に照らして、その達成状況を検証・評価するための適切な取組が行われているか。

## 教養教育運営機構 6-1-①

### (1) 教育目標の明示の方法

入学時に各学部のガイダンスで、教養教育についても説明している。また、教養教育運営機構のホームページによって、大学入門科目、主題科目、共通基礎教育科目毎に教養教育の目的等を学生向けに周知するとともに、オンラインシラバスにより、授業科目毎の開講意図や到達目標を明示している。

#### 資料6-1-①-1

佐賀大学の教育課程は、教養教育科目と専門教育科目の2つの大きな教育科目によって編成されています。専門教育は各学部で行われますが、教養教育科目は、佐賀大学の全ての教員が所属している「教養教育運営機構」が実施します。

教養教育科目は、「大学入門科目」「共通基礎教育科目」「主題科目」で編成されています。大学入門科目は、新入生のための転換教育科目です。共通基礎教育科目は、「外国語」「健康・スポーツ」「情報処理」の3科目で構成され、主題科目は、幅広い視野を養うための「分野別主題科目」と新たな問題の発見・解決を目指す「共通主題科目」で構成されています。

佐賀大学のすべての教員は、専門教育科目とともに、教養教育科目を担当しています。ですから、本学の学生は、所属学部以外の教員が担当する多様な授業も履修できます。これは、教養教育の大きな魅力です。

今、教養が、非常に重要になっています。ダイナミックに変化を続ける社会で活躍できる、科学技術に強い文系の学生、社会や経済に明るい理系の学生が求められています。大学受験のための文系・理系という枠を越えて学び、大きく、自分を成長させてください。

国際化や情報化に対応するためには、外国語や情報処理の基礎を築くことが大切です。日々の生活と健康を自分で管理し、スポーツを楽しみ、体を鍛えてください。生きる力になります。

教養教育科目は、生涯学習の基礎です。知的興味と関心をもって、自主的・積極的に取り組んでください。

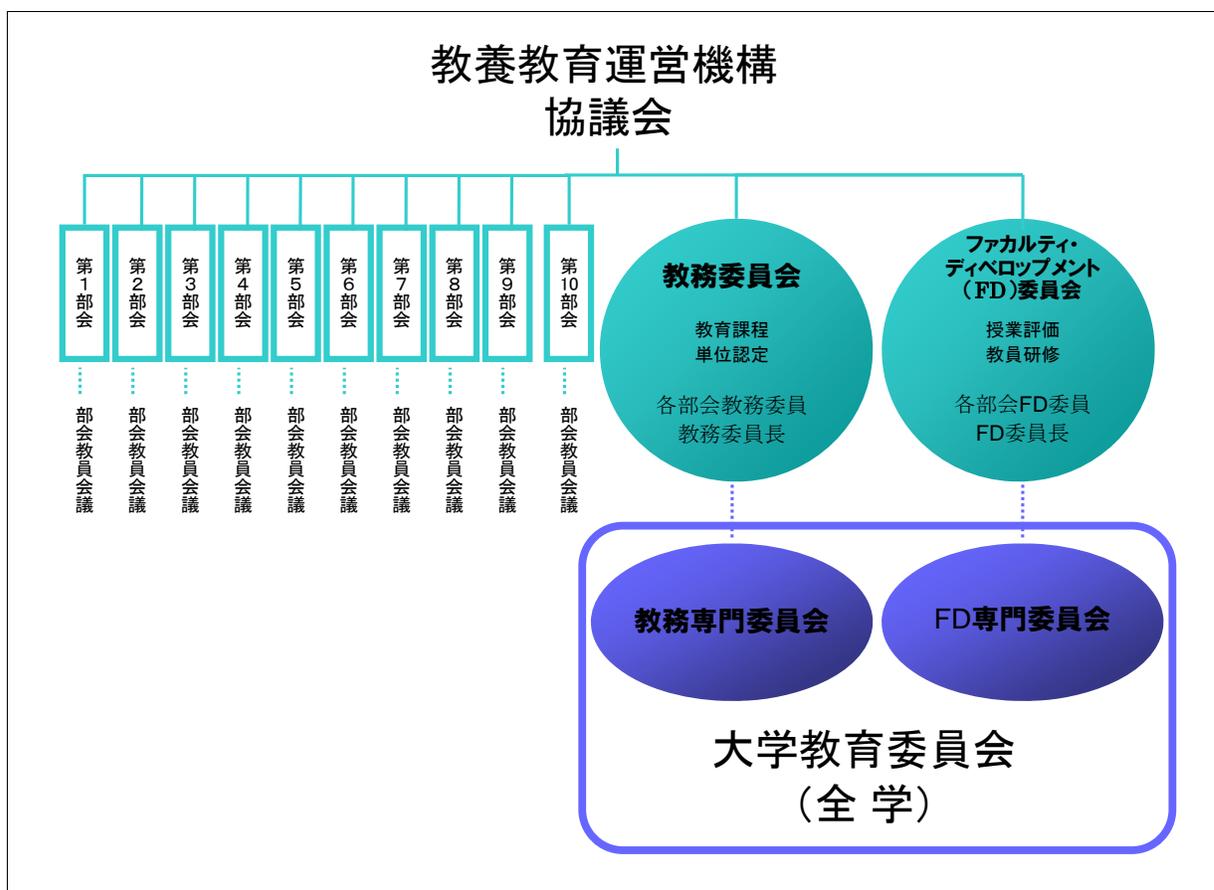
教養教育運営機構は、学生と教職員が交流しながら、共に成長する場です。

(出典 佐賀大学教養教育運営機構ホームページ <http://www.ofge.saga-u.ac.jp/>)

## (2) 教育を点検する取り組み

機構長を委員長とするFD委員会（平成20年度からはFD担当の副機構長を委員長に任命）を設置し、第1部会から第10部会にFD委員を置くとともに、各部会が開催する部会教員会議等において、教育の方法や内容等について協議している。また、「授業評価結果を用いた授業改善実施要領」に基づき、授業科目の担当教員は「授業点検・評価報告書」を作成するとともにWeb上で公開し、FD委員会では「教養教育運営機構組織別授業評価報告書」を作成し、大学教育委員会に提出している。

資料6-1-①-2 教養教育運営機構 FD 実施組織図



### 資料6-1-①-3 部会教員会議の開催例

#### 第3回教養教育運営機構第7部会 地域と文明 教員会議

##### 議事要旨

日時 平成20年1月23日(火) 9:00~10:00  
場所 教養教育運営機構会議室  
出席者 岩尾(部会長)、青木、伊藤、後藤、澤島、高崎、辻、宮島、村山(教務委員)  
<敬称略>

##### 議 題

###### 1. 年度計画の具体化について

- ・資料1に基づき、年度計画004-01「学生参加型授業など、課題探求力と問題解決力を養う授業形態を工夫するとともに、実施する科目数を確保する。」への対応について、これまで議論してきた医文理融合の相互乗り入れによる学生参加型の新規開講科目を「『佐賀』入門一本当の『佐賀』を探る一」として、平成20年度から開講できることになったとの報告がなされた。
- ・年度計画003-02「2キャンパス化にかかる問題、課題を継続して検討し、教養教育実施体制の整備を図る。」について、鍋島キャンパスで開講する主題科目を新規に5科目開設することで対処することになった経緯について説明がなされた。また、鍋島キャンパスでの新規開講に伴い、医学部の高崎洋三教授に当部会の準会員として加入していただくことになったとの報告があった。

###### 2. 次期機構長・部会長・幹事等について

- ・資料2に基づき、次期機構長については推薦なしとする案が示された。次期部会長には地域学歴史文化研究センターの青木歳幸会員、教務委員には低平地研究センターの日野剛徳会員、広報委員には医学部の瀧健治会員、FD委員には文化教育学部の高崎智明会員を推薦する案について説明がなされ、承認された。

###### 3. 授業点検・評価の登録について

- ・資料3に基づき、授業評価結果を用いた授業改善実施要領の制定に伴う授業点検・評価報告書のサンプルについて紹介があった。また、Web上で入力するシステムが利用可能になったこと、学生対象アンケート結果から当部会に対する評価がやや改善される傾向にあること等の状況について報告がなされた。
- ・部会長から、暫定評価及び認証評価に向けて、Live Campus上の授業点検・評価報告書に速やかに入力していただきたいとの要請があった。

以上

観点6-1-②：各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位取得、進級、卒業（修了）の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業（学位）論文等の内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

[トップ](#)

## 教養教育運営機構 6-1-②

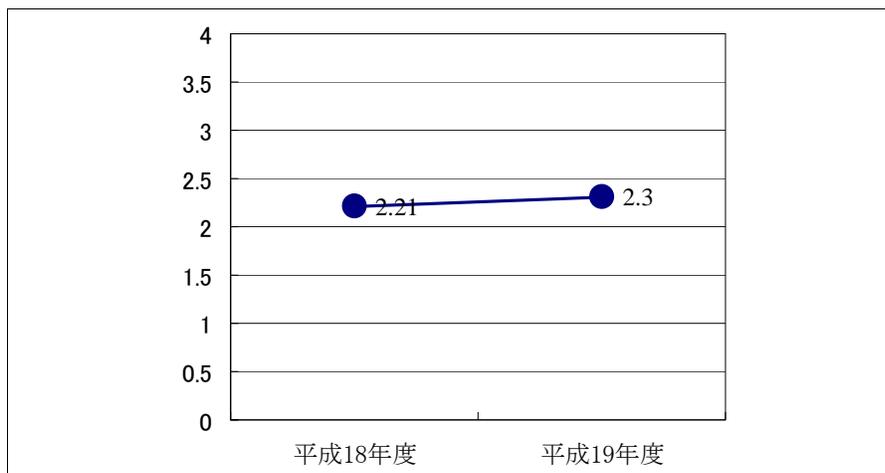
### 教育の成果や効果

情報政策委員会による教員報告様式データによれば、授業を履修した学生中、合格した者のパーセント値は69.7%、平均点（履修放棄は除く）は78.4点となっている。教養教育科目の区分毎の合格率及び平均点は以下の通りである。なお、成績評価の分布状況や履修放棄率をみると、平成18年度と平成19年度の間に殆ど差はなく、安定的に推移している。

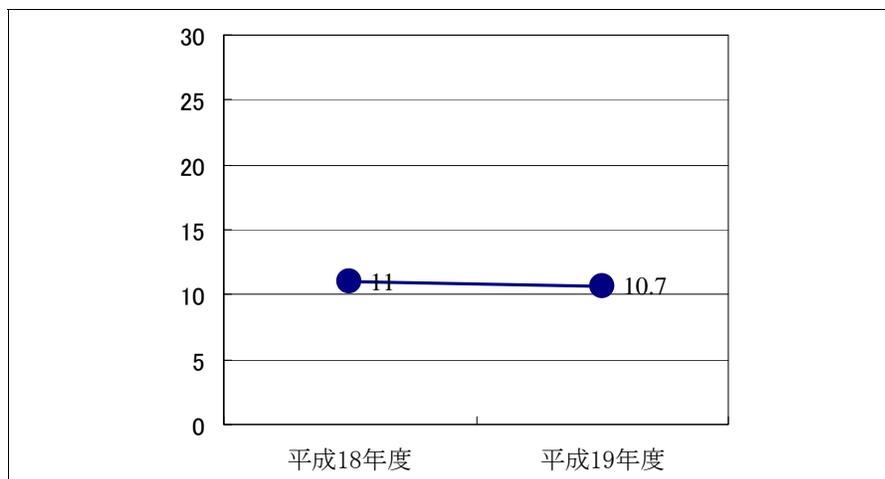
**資料6-1-②-1 教養教育科目の合格率及び平均点**

授業科目	合格率	平均点 (放棄は除く)
大学入門科目	98.9	85.9
主題科目		
第1分野（文化と芸術）	59.3	79.2
第2分野（思想と歴史）	72.3	77.8
第3分野（現代社会の構造）	61.3	76.4
第4分野（人間環境と健康）	67.3	78.0
第5分野（数理と自然）	69.9	77.3
第6分野（科学技術と生産）	66.9	76.6
共通主題科目		
第1分野（地域と文明）	90.7	83.1
外国語科目	58.0	76.0
健康・スポーツ科目	57.3	81.0
情報処理科目	85.9	76.8
日本事情	78.0	74.8
九州地区国立大学間合宿共同授業	100.0	88.6

資料6-1-②-2 教養教育科目の成績評価(GPA)の分布状況



資料6-1-②-2 教養教育科目の履修放棄率(%)の推移



観点6-1-③： 授業評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

[トップ](#)

## 教養教育運営機構 6-1-③

### (1) 学生による授業評価の実施状況

平成19年度の「学生による授業評価」の実施状況は、734科目中、共通アンケート用紙を利用した科目数は686科目、独自のアンケートを実施した科目数は4科目であった（実施率94%）であった。

### (2) 授業評価アンケート以外の学生の意見聴取

#### 学生対象アンケート

平成19年度に、学生（3年次）を対象としたアンケートを実施し、教養教育科目に対する満足度について5段階による評価を得ている（3以上がほぼ良好な状態にあると考えられる）。その結果、大学入門科目、主題科目等に対する学生（3年次）の平均的な評価は、概ね3.0以上であり、ほぼ良好な状態となっている（資料6-1-③-1）。また、平成19年度教養教育運営機構組織別授業評価報告書によれば、教養教育科目区分毎の満足度平均は、「健康・スポーツ科目」「地域と文明」「人間環境と健康」の順に高くなっている（資料6-1-③-2）。その他、「どがんね、こがんよ、学生懇談会」に機構長が出席して、学生の意見を聴取し、鍋島キャンパスでの教養教育科目の増設などに取組んでいる（資料6-1-③-3）。

#### 資料6-1-③-1 学生対象アンケートの満足度

授業科目	平成18年度	平成19年度
大学入門科目	3.29	3.37
主題科目		
第1分野（文化と芸術）	3.25	3.20
第2分野（思想と歴史）	3.14	3.09
第3分野（現代社会の構造）	3.10	3.17
第4分野（人間環境と健康）	3.28	3.28
第5分野（数理と自然）	3.15	3.18
第6分野（科学技術と生産）	3.18	3.28
共通主題科目		
第1分野（地域と文明）	3.04	3.12
外国語科目（英語）	2.97	2.92
外国語科目（初修）	3.18	3.31
健康・スポーツ科目	3.44	3.61
情報処理科目	3.14	3.23
外国人留学生のための授業科目	2.98	3.11

（出典 平成19年度学生対象アンケート報告書）

**資料6-1-③-2 学生による授業評価の満足度**

授業科目	平成 19 年度
大学入門科目	3.51
主題科目	
第1分野（文化と芸術）	3.73
第2分野（思想と歴史）	3.54
第3分野（現代社会の構造）	3.53
第4分野（人間環境と健康）	3.82
第5分野（数理と自然）	3.55
第6分野（科学技術と生産）	3.48
共通主題科目	
第1分野（地域と文明）	3.83
外国語科目（英語）	3.50
外国語科目（初修）	3.64
健康・スポーツ科目	3.99
情報処理科目	3.19

（出典 平成 19 年度教養教育運営機構組織別授業評価報告書）

**資料6-1-③-3 教養教育に対する学生の意見**

<p>S 社会の現状として障害者に対して理解がない，教養教育に障害者に対する教育を取り入れてほしい。</p> <p>A 入学式のオリエンテーションにおいて自身が障害を持っている教員が人権について強く熱弁をふるわれた。もっと教育において取り組んでいくように努力したい。</p> <p>*****</p> <p>S 教養教育の主題科目は，抽選制度などのため受たい科目が受講できない場合があるのに希望どおり受講できても，抽選をクリアしてまで取らなければならなかった授業だったのか疑問に思うことがある。e ランニングなどインターネット授業を充実して，希望すれば受講できる授業を増やしてほしい。学生が取りたい授業が取れるようにしてほしい。</p> <p>A そのような学生の皆さんの要望がよく分かっているので，より良くしようと今回の中長期ビジョンに盛り込んで取り組むことにしている。ただ，5～6年経たないと実施できないというわけではない，不断に取り組んで行く。現在も教養教育について，医学部学生の履修方法や抽選制度など検討を行っている。</p>
---

（出典 第8回「どがんね、こがんよ、学生懇談会」議事録）

観点6-1-④： 教育の目的で意図している養成しようとする人材像等について，就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果について定量的な面も含めて判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

観点6-1-⑤：卒業（修了）生や、就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

[トップ](#)

## 教養教育運営機構 6-1-⑤

### 教育成果に関する卒業生アンケート

平成18年度に引き続き、平成19年度の卒業予定者を対象として、共通アンケートを実施した。教養教育科目に対する満足感は、大学入門科目、主題科目、共通基礎教育科目のいずれも3.0以上となっており、3年生を対象として実施した学生対象アンケート結果より、おしなべて高く評価される傾向にある。また、昨年度にくらべ、若干ではあるが、主題科目の第1分野、第3分野、第4分野、第5分野、第6分野、共通主題科目の第1分野の満足感に改善がみられる。

#### 資料6-1-⑤ 卒業生アンケートにみる満足感

授業科目	平成18年度	平成19年度
大学入門科目	3.45	3.52
主題科目		
第1分野（文化と芸術）	3.55	3.76
第2分野（思想と歴史）	3.42	3.45
第3分野（現代社会の構造）	3.37	3.50
第4分野（人間環境と健康）	3.64	3.81
第5分野（数理と自然）	3.47	3.64
第6分野（科学技術と生産）	3.51	3.72
共通主題科目		
第1分野（地域と文明）	3.19	3.56
外国語科目（英語）	3.14	3.24
外国語科目（英語以外の外国語科目）	3.40	3.50
健康・スポーツ科目	3.94	3.95
情報処理科目	3.45	3.41
外国人留学生のための授業科目	3.65	3.69

（出典 平成19年度国立大学法人佐賀大学共通アンケート（学部卒業予定者対象）報告書）

## 6 学生支援等

### (1) 観点ごとの分析

**観点 7-1-1： 授業科目や専門、専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されているか。**

## 教養教育運営機構 7-1-1

### 学部新入生に対するガイダンス

機構としては、学生センターに教養教育教務窓口を設置し、主題科目の履修等に関する相談を受け付けている。また、大学入門科目で、学習相談やキャリア教育など進路に関する教育なども行われることがある（資料7-1-②-1）。

初修外国語については、受験合格者は入学前に選択しなければならないので、合格通知書類とともに、各外国語の特質等を説明した書類を送り、初修外国語選択の参考としている。また、「シラバス作成に関する要項」に定められた第3条第3項「担当教員は、第1回目の授業において、該当科目のシラバスについて説明する」に基づき、外国語によっては、講義初日にその言語の特性や学習目的などについて解説し（朝鮮語の場合）、あるいは事前に公開しているシラバスよりも詳細な授業内容をプリントにして配布し口頭で説明を加える（日本語の場合）など、より詳しいガイダンスを実施している。

#### 資料7-1-②-1 資格取得のためのガイダンス等の開催例(理工学部機能物質化学科)

2007年4月13日5校時目 大学入門科目	
	<b>本日の内容</b> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 資格取得の利点</li><li>2. 在学中に取得できる資格</li><li>3. 卒業後に取得できる資格</li><li>4. 教員免許状について</li><li>5. 外国語検定等</li><li>6. その他</li></ol>

(出典 大学入門科目 (理工学部機能物質化学科) の配布資料)

#### 第5部会

- ・大学入門科目に関する説明を学部の学科等が開催するガイダンスにおいて行っているケースがある。

#### 第6部会

- ・大学入門科目に関する説明を学部の学科等が開催するガイダンスにおいて行っているケースがある。

観点7-1-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており，学習相談，助言，支援が適切に行われているか。

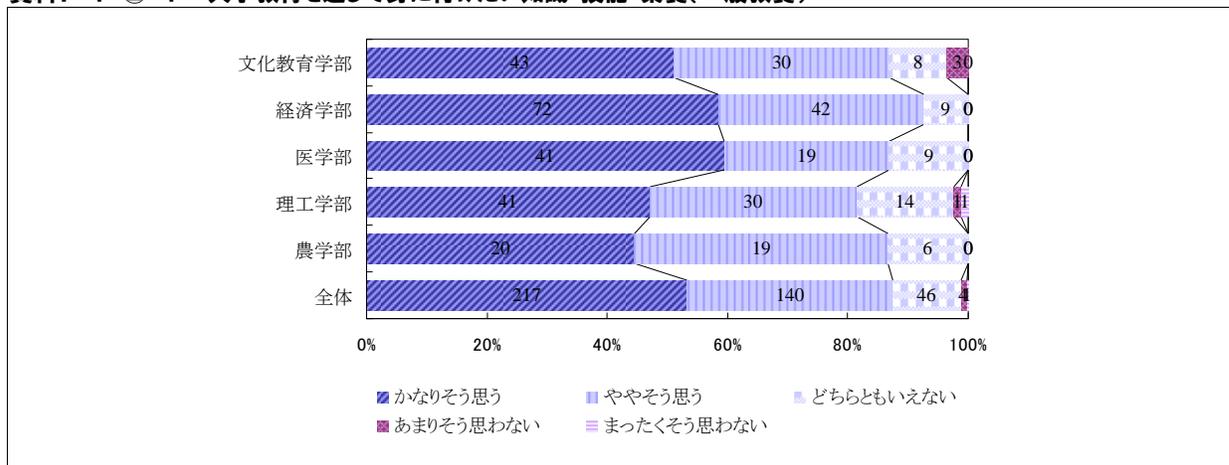
[トップ](#)

## 教養教育運営機構 7-1-2

### 学生のニーズの把握

学生支援室が行う「佐賀大学入学者の進路選択に関するアンケート」、大学教育委員会・高等教育開発センターによる「学生対象アンケート」及び「国立大学法人佐賀大学共通アンケート（学部卒業予定者対象）」を活用し、教養教育や学習支援に関する学生のニーズを把握している。また、授業科目毎に、学生による授業評価を実施するとともに、「教養教育運営機構組織別授業評価報告書」を作成し、授業科目や第1から第10部会の授業科目に対する学生の満足感から、学生のニーズを分析している。

資料7-1-②-1 大学教育を通して身に付けたい知識・技能・素養(一般教養)



(出典 佐賀大学学生支援室『平成19年度佐賀大学入学者の進路選択に関するアンケート調査報告書』18頁)

資料7-1-②-2 第5部会における教員個別事例

- ・毎回、授業でカードを配布し、学生に質問や意見を自由に記入してもらい、回答やコメントを書いたプリントを印刷して次の回に配布している。
- ・個人のホームページに掲示板を設置し、質問等を受け付けている。ただし、あまり利用されていない。
- ・毎回、出席代わりに紙に意見・感想・質問などを書かせた。

観点7-1-④： 特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

[トップ](#)

## 教養教育運営機構 7-1-4

### 特別な支援が必要な者への学修支援

#### 1) 留学生に対する支援

留学生については、日本語科目を開設し、日本語科目を履修することで外国語の単位とするなどの配慮をしている。（教養教育科目履修細則別表1備考1（2））また、留学生のために日本語事情を開設している。（教養教育科目履修細則第9条）

留学生センター所属の日本語担当教員が、オフィスアワー等を利用して、留学生の修学上の問題や日常生活の相談にあたり、支援を行っている。

情報政策委員会による教員報告様式データの記述例を、以下に列挙する。

#### 資料7-1-④-1 各部会における留学生への支援

部会	支援の内容
第3部会	*留学生を対象にした授業であったので、英文と日本語のテキストを併用して、英語と日本語による授業を行った。 *日本語が不十分な留学生には、あらかじめ講義資料を配布して便宜を図った。
第4部会	*留学生の研究課題に沿って外来診療に陪席させた。 *TA, RAに積極的に採用し、それでも生活困難者には研究費から研究補助や事務補助として採用し少額ではあるが支援している。
第7部会	*受講を希望した留学生（韓国）が1名いたので受講を許可し、韓国の事例を交えるなどの工夫をした。
第8部会	*英語による説明を追加して授業を行った。

（出典 平成19年度教員報告様式データ）

#### 2) 社会人に対する支援

科目等履修生の受け入れを行っている。その際、続けて履修する場合は、入学料を免除している。平成19年度は、1名の科目等履修生を受け入れている。

#### 3) 障がい（害）者に対する支援

障がい者が入学した場合、受講する科目の担当教員に知らせ、配慮を求めている。その他、情報政策委員会による教員報告様式データの記述例を、以下に列挙する。

#### 資料7-1-④-2 各部会における障がい（害）者への支援

部会	支援の内容
第1部会	*聴覚障害者への情報保証の手段について検討・実践 *聴覚に障害がある学生のために、時間割係とともに、担当教員に支援を要請した。 また、教務委員会に提案し、大学としての支援の必要性を訴えた。
第9部会	*ただ見学させるだけでなく、障害の程度に応じて課題を与え、本人の健康の保持増進に努めている。

（出典 平成19年度教員報告様式データ）

観点 7-2-①： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

[トップ](#)

## 教養教育運営機構 7-2-①

### (1) 自習室の設置状況

学生は、教養教育運営機構の空いている教室で自習することができる。また、学生がマイペースで語学力アップをはかれるよう、平成 16 年度から LM 自習室を開設するとともに、LM 準備室に事務補佐員 1 名を配置している。インターネットに接続するコンピューターを 8 台設置（2 台増加）し、英語をはじめ諸外国語の学習ソフト、検定試験用参考資料を備えて学生に提供している。

学生のスポーツ活動のニーズは高い。多様な用具を準備し貸し出しを行っている。ただし、体育館使用に関してはほとんどの時間帯で授業が行われており、学生のニーズに応えられない状況である（第 9 部会）。

### (2) 自主学習環境についての満足度

教養教育運営機構単独では自習室を設置していない。大学全体でも不足しており、自習スペース（学部・学科）に対する満足度が 5 段階による評価の 2.57（平成 18 年度は 2.37）、自習スペース（図書館）に対する満足度が 2.80（平成 18 年度は 2.72）となっている。

（根拠資料：平成 19 年度学生対象アンケート報告書）

### (3) 自主的学修環境（情報機器を含む）の整備状況と満足度

LL 教室及び CALL システムを整備している。また、学生（3 年次）対象アンケートの結果を参照すると、教養教育の設備・機器等への満足度は平成 18 年度が約 3.3、平成 19 年度が約 3.4 となっている。外国語教育の設備・機器等への満足度については、平成 18 年度が約 3.4、平成 19 年度が約 3.5 である。（根拠資料：平成 19 年度学生対象アンケート報告書）

第 8 部会に關係する自主的学習環境は、平成 16 年度に設置された LM 自習室である。語学力アップをめざす学生に平日の 9 時から 17 時まで開放され、インターネットに接続できるコンピューターを 8 台設置し、英語（<e-sia>、TOEFL、TOEIC）の他諸外国語の学習ソフト、検定試験用参考資料を備えた学習環境を提供している。

観点7-2-②： 学生のサークル活動や自治活動等の課外活動が円滑に行われるよう支援が適切に行われているか。

[トップ](#)

## 教養教育運営機構

教養教育運営機構では、授業に支障が生じない限り、サークル活動等に教室の使用を許可している。

### 資料7-2-② 第9部会における課外活動への支援例

・学生数に対しての体育館やグラウンド等の施設は十分ではないが、主将会議等で民主的に使用部を決定し活動している。（第9部会）

観点7-3-①：生活支援等※)に関する学生のニーズが適切に把握されており、健康、生活、進路、各種ハラスメント等に関する相談・助言体制が整備され、適切に行われているか。

[トップ](#)

## 教養教育運営機構 7-3-①

### 相談体制の整備状況

教養教育運営機構独自の制度は持たないが、学生センターに「学生なんでも相談窓口」を設置し、健康、生活、進路、各種ハラスメント等に関する相談に対し、非常勤の学外カウンセラーによる助言を行なっている。

**観点7-3-2： 特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。**

特別な支援が必要な学生への生活支援等については、留学生センターや学生生活課が全学的な窓口となっているが、教養教育運営機構の各部会においても、留学生、社会人、障がい（害）のある学生等に対し、個別に支援が行われている。部会毎に支援事例を示すと、以下のようになる。

**第1部会**

・聴覚障害者への情報保証の手段について検討・実践

**第3部会**

・留学生に対しては、特にレポート提出や授業の理解等に関して、コミュニケーションを密にとった

**第5部会**

・定期試験において、慣れない日本語での答案作成に際し、ためらわずに安心して記述するように声をかけた（インドの方）。

**第7部会**

・受講を希望した留学生（韓国）が1名いたので受講を許可し、韓国の事例を交えるなどの工夫をした。

**第8部会**

・聴覚に障害がある学生のために、時間割係とともに、担当教員に支援を要請した。また、教務委員会に提案し、大学としての支援の必要性を訴えた。  
・留学生からの日本語学習および受講に関する相談に応じた。

[トップ](#)

## 7 施設・設備

### (1) 観点ごとの分析

観点8-1-①： 大学において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

[トップ](#)

## 教養教育運営機構 8-1-①

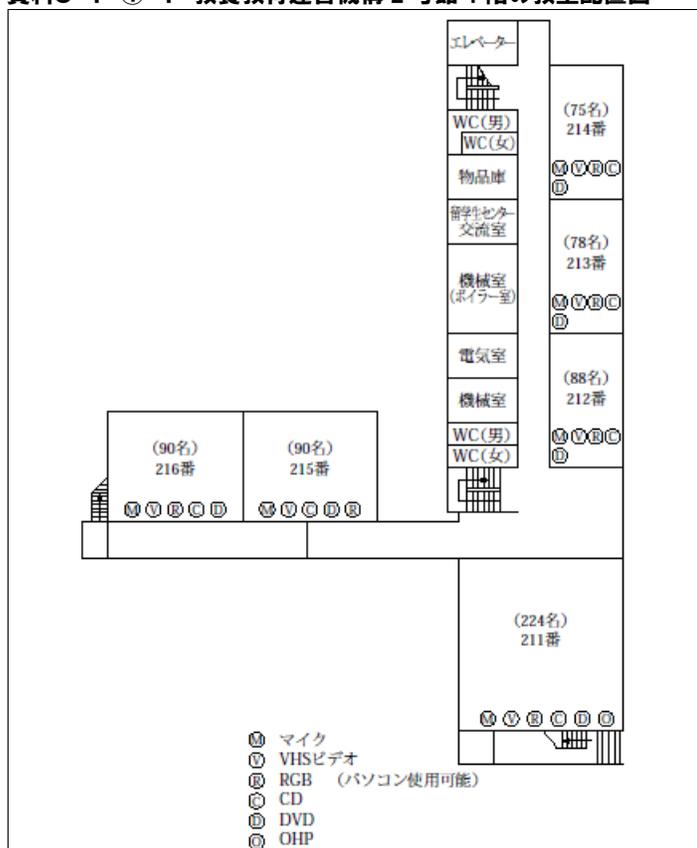
### 施設・設備の整備状況

#### (1) 講義室等

講義は、主として教養教育1号館、2号館及び大講義室で行われている。教養教育1号館の講義室は総計19室、講義室建物面積は1717㎡、総収容人員数は1587人である。2号館の講義室は総計12室、講義室建物面積は1289㎡、総収容人員数は1298人である。大講義室は1室、建物面積は336㎡、収容人員は341人である。講義室の平均使用率は40%である。5～6室を除きすべて空調設備が整えられている。ほとんどの講義室にVHSビデオ、DVD、プロジェクタ等が整備されている。

また、教養教育運営機構2号館には、障がい(害)のある学生が教養教育運営機構2号館を昇降するのを介助するため、棟内にエレベーターを設置し、車椅子用のスロープを設けている。

資料8-1-①-1 教養教育運営機構2号館1階の教室配置図



## (2) 実験・実習室

実験室は化学・生物実験室1室と物理・地学実験室1室がある。化学・生物実験室の建物面積は231㎡で、使用率は学部の使用も含めて56%である。物理・地学実験室の建物面積は231㎡で、使用率は学部の使用も含めて40%である。

体育・スポーツ関係の施設としては、体育館、スポーツセンター、陸上競技場、野球場、テニスコートなどがある。健康スポーツ科目の授業及び課外活動における使用率は高い。しかし、学生のニーズに応えるには不十分である。

## (3) 自学室など

資料8-1-①-2に示すように、LM教室1・2及びLM自習室を設置し、学内LANに接続されたPCを利用できるようにしている。また、学生便覧に利用の方法など記載することにより、学生に周知している。これらの設備は、教養教育運営機構の補助組織であるLM運営委員会とCALLシステム運営委員会によって管理・運営されている。LM教室1は1室、建物面積は135㎡、収容人員は48人、パソコンは48台であり、同使用率は66%（16%増）である。LM教室2は1室、建物面積は161㎡、収容人員は64人、パソコンは64台であり、19年度の使用率は80%（22%増）である。

資料8-1-①-2 LM教室等の設備

	面積 (㎡)	机・テーブル (数)	椅子 (数)	PC (数)	利用規程等
LM教室1	135	24	48	48	有
LM教室2	161	32	64	64	有
LM自習室	22	8	8	8	有

## (4) 学生アンケートの結果

平成19年度に実施した学生アンケートによれば、本運営機構の施設・設備に関する満足度は3.35であり、学部の3.42と比べて大差はない。外国語については、3.49とやや高いが、これはLL教室などの設備の継続的な整備が評価されたものと思われる。それに対してスポーツ関係は2.82と低く、整備が遅れていることがわかる。実験室については、3.10とやや低い。教員の負担の問題で実験関係の授業科目が十分に開設されていないが、講義科目であっても実験室を整備し活用することが必要である。

なお、必ずしも設備等の充実度が高いほど満足度も高いとは言えない。例えば、スポーツは、設備は不十分だが、授業満足度は比較的高い。これは、不十分な設備を工夫して利用し良い授業を行おうとする教員の熱意によるところが大きいと考えられる。

(根拠資料：「学生対象アンケート報告書」平成19年9月)

## 施設・設備の利用状況

19年度のLM教室1は前期16コマで後期は17コマ、LM教室2は前期20コマで後期は20コマであった。数値だけから見れば前者の年間の稼働率は66%で後者は80%であるが、この2教室に配置されている担当係は1名のみなので実質はフル稼働に近い。また、学生はLM自習室だけでなく、空き時間帯にはLM教室も自習用に利用できるため、LM自習室それ自体の利用状況は週10人程度である。

教養教育運営機構2号館に設置されたエレベーターや車椅子用のスロープについては、障がい(害)のある学生が建物内を昇降するのに利用されている。

## (5) 教養教育運営機構1号館の改修

教養教育運営機構1号館を改修する計画策定を進め、平成20年度に改修することが決定された。その際、学生ホールの設置、実験室等の整備、ネットワーク環境の整備を検討した。

観点8-1-②： 大学において編成された教育課程の遂行に必要なICT※)環境が整備され、有効に活用されているか。

[トップ](#)

## 教養教育運営機構 8-1-②

### ネットワークの整備状況

観点8-1-①で述べたように、学内LANを利用できるPCを、LM教室1に48台、LM教室2に64台、LM自習室に8台設置し、学生がインターネットを利用できる環境を整えている。これらの設備は、教養教育運営機構の補助組織であるLM運営委員会とCALLシステム運営委員会によって管理・運営され、利用の方法については学生便覧に記載して学生に周知している。旧LM教室は設備が古くなっていたため、上記両委員会が整備計画を検討し、その結果LM教室1については平成18年4月に機種をWindowsに変更しインターネット授業が可能な最新設備に更新した。また、LM教室2についても同年10月にマルチメディア化した。平成19年度におけるLM教室1の使用率は66%（16%増）、LM教室2の使用率は80%（22%増）となっている。

また、活用状況の具体的な調査はなされていないが、教養教育運営機構の各教室にも学内LANのネットワークが配線されており、授業において活用されている。

さらに、文部科学省の平成16年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）に採択された「ネット授業の展開」によりICTを活用した教養教育科目が開講され、eラーニングスタジオが資料8-1-②-2に示すネット授業などのコンテンツ制作に取組み、ICT環境を整備している。

なお、平成20年度以降に行われる改修によって、ネットワーク環境の整備も併せて行うことになっている。

### 資料8-1-②-1

**ネット授業** 佐賀大学 e-Learning System since 2002

What's new ↓↓

- [2008/03/13]【お知らせ】平成20年度前期は、ネット授業のクラスが、「クラス1」と「クラス2」の2つのクラスに分かれる予定です。ガイダンスや掲示は、すべて「クラス1」で開講されますが、一部の科目が「クラス2」で開講されます。「クラス2」で履修される方はご面倒をおかけしますが、より質の良い授業への過渡期としてご理解ください。
- [2007/04/11] 新1年生は、「情報」の授業が始まる前パスワードの変更をしないでください。
- [2004/10/27] ☆ 佐賀大学ネット授業は文部科学省のGP(Good Practice)を獲得しました。

クラス1  
サンプル  
クラス2

ガイダンス

■ 教養教育運営機構 0952-28-8817  
■ 先端研究教育施設内 eラーニングスタジオ 0952-20-4731  
■ eラーニングスタジオ システム管理者へ <問合せ>

Copyright © 2006 Saga University All Rights Reserved.

(出典 佐賀大学 e-Learningスタジオ <http://net.pd.saga-u.ac.jp/e-learning/>)

資料8-1-②-2 eラーニング利用授業科目一覧(平成19年度現在)

(1) ネット授業					
授業科目名	学部	担当教員	e-Learningの形態	受講者数	単位取得者
21世紀のエネルギーと環境問題	主題	池上 康之	フルeラーニング	63	54
人間社会とコミュニケーション	主題	早瀬 博範	フルeラーニング	153	129
わかりやすい機構学	主題	穂屋下 茂	フルeラーニング	85	72
セラミックスの不思議	主題	渡 孝則	フルeラーニング	100	94
英語で学ぶ佐賀学	主題	Z・ミッチェル	フルeラーニング	70	59
芸術と表現(映画製作)	主題	西村雄一郎	ブレンディッド型	25	24
英語	共通基礎教育	早瀬 博範	ブレンディッド型	26	25
簿記・会計	経済学部	木戸田 力	変則ブレンド	81	67
動物遺伝育種学特論	農学系研究科	和田 康彦	フルeラーニング	1	1
前期合計				604	525
人間社会とコミュニケーション	主題	早瀬 博範	フルeラーニング	122	82
くらしの中の生命科学	主題	和田 康彦	フルeラーニング	30	19
わかりやすい機構学	主題	穂屋下 茂	フルeラーニング	66	46
セラミックスの不思議	主題	渡 孝則	フルeラーニング	102	75
チャレンジ佐賀学	主題	生馬 寛信	フルeラーニング	128	112
英語で学ぶ佐賀学	主題	Z・ミッチェル	フルeラーニング	88	73
知的財産学	主題	寺本 顕武	フルeラーニング	17	3
芸術と表現(有田焼入門)	主題	田中 右紀	フルeラーニング	50	50
佐賀環境フォーラム	主題	宮島 徹	ブレンディッド型	7	7
芸術と表現(デジタル表現技法)	主題	西村雄一郎	ブレンディッド型	25	15
英語	共通基礎教育	早瀬 博範	ブレンディッド型	50	44
シンクロトン光応用工学特論	工学系研究科	鎌田 雅夫	フルeラーニング	28	28
超短波長光利用科学技術工学特論	工学系研究科	高橋 和敏	フルeラーニング	1	1
後期合計				714	555
平成19年度合計				1318	1080

出典) 平成19年度eラーニングスタジオ実施報告書3頁

観点 8-1-3： 施設・設備の運用に関する方針が明確に規定され、大学の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

[トップ](#)

## 教養教育運営機構 8-1-3

### (1) 運用に関する方針

教養教育運営機構が保有する施設・設備の保守や更新については、LM 運営委員会と CALL システム運営委員会が管理運営に当たっている。観点 8-1-①で示した LM 自習室は、学生が自主学習に利用することを目的として設置されている。また、LM 教室 1 及び LM 教室 2 についても、授業に使用している校時を除き、学生が自主学習に利用できることとしている。

上記以外に、教養教育運営機構の各教室は、サークル活動などに利用することを認めている。

### (2) 周知の方法

教養教育運営機構では教室等施設・設備の利用についての手続き方法あるいは語学の自学自習のための CALL 教室の利用等については、学生便覧に記述して周知している（平成 20 年度からは教養教育運営機構ホームページの「学生向け情報」に学生便覧の該当頁を掲載している）。

教養教育関係の設備等に関して、学生に対する周知の程度については調べていないが、全学的な平均値は 2.91 で、平成 18 年度よりも 0.2 ポイント上昇したが、依然として低い値にとどまっている。（根拠資料：「学生対象アンケート報告書」平成 19 年 9 月）

### 資料 8-1-③ 教養教育運営機構 LM 教室等の利用方法

#### ● 教養教育運営機構マルチメディア語学演習室（LM 教室）について

(場所) 教養教育運営機構 2 号館の北側に張り出した部分

LM 教室 1 (マルチメディア対応) 2 号館 3 階

LM 教室 2 (マルチメディア対応) 2 号館 2 階

LM 自習室……2 号館の 3 階、階段を上がって左側

LM 準備室……LM 教室 1 に附設されています。ここに事務補佐員がいます。

(目的)

さまざまなメディアを用いて多形態の語学授業を展開するとともに、学生の皆さんの自主的な語学自習のサポートを目指しています。

なお、鍋島キャンパスにも独自に CALL 教室があり、英語の授業などで使われています。

(授業での利用)

LM 教室 1……通常の LL 装置による授業や視覚教材の利用、コンピュータを媒介とする双方向的な授業やマ

LM 教室 2 ルチメディア教材の提示、さらに「英語学習支援システム (e-sia)」を使ったりすることが可能です。

☆ e-sia とは……インターネット配信される e-ラーニングツールのこと。特に、TOEIC の得点力のアップをサポートしてくれるもので、佐賀大学関係者なら誰でも大学の内外からアクセスして利用できます。佐賀大学 HP の [CALL システム] のところから入って、ID を取得した上で随時に利用、学習ができます。

(出典 平成 19 年度『学生便覧』36, 37 頁)

## 8 教育の質の向上及び改善のためのシステム

### (1) 観点ごとの分析

**観点9-1-1： 教育の状況について、活動の実態を示すデータや資料を適切に収集し、蓄積しているか。**

### 教養教育運営機構 9-1-1

教養教育運営機構に、機構長を委員長とする評価委員会を設置し、自己点検・評価を行うための教育活動の実態を示すデータや資料を収集している。また副機構長のうち1名が評価担当となっている。

自己点検・評価に必要なデータや資料として、授業科目の開設状況や履修状況について、毎学期毎に調査するとともに、学期毎に「教養教育運営機構教務関係資料集」にまとめ、第1部会から第10部回までの教務委員等に配布している。学生の成績分布については、高等教育開発センターによる「成績分布調査報告書」を収集し、利活用している。また、教員個人からは、情報政策委員会が制定した教育活動を含む教員報告様式によって教育活動の実態を示すデータを集め、各部会からは、部会教員会議等の組織的な活動についての情報を収集し、教育活動等実績報告書としてまとめている。さらに、学生からは、「学生による授業評価」によるデータ、学生対象アンケートや卒業予定者対象アンケートの結果をまとめた報告書などによって、活動の実態を示すデータや資料を収集・蓄積している。

#### 資料9-1-① 教養教育運営機構評価委員会内規

佐賀大学教養教育運営機構評価委員会内規

(平成18年3月22日制定)

(設置)

第1条 佐賀大学教養教育運営機構（以下「機構」という。）に、佐賀大学教養教育運営機構運営規程（平成18年3月22日制定）第3条の規定に基づき、評価委員会を置く。

(審議事項)

第2条 評価委員会は、機構の評価に関する重要事項及び評価に基づく機構の活動の改善に関する重要事項について審議する。

(組織)

第3条 評価委員会（以下「委員会」という。）は、次の各号の委員をもって組織する。

- (1) 機構長
  - (2) 副機構長
  - (3) 部会長
- (委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、機構長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員会に副委員長を置き、機構長補佐をもって充てる。

(議事)

第5条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開き、議決をすることはできない。

- 2 議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(代理人の出席)

第6条 委員会は、委員が委員会に出席できない事情が生じた場合には、当該委員が所属する部会等からの代理人の出席を認めることができる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者の出席者を求め、その意見を聴くことができる。

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

観点9-1-②：大学の構成員（教職員及び学生）の意見の聴取が行われており、教育の質の向上、改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

[トップ](#)

## 教養教育運営機構 9-1-②

### 教職員及び学生からの意見の聴取

在校生や卒業予定者を対象とした「学生による授業評価」、「学生対象アンケート」、「共通アンケート」を実施するとともに、教員を対象とした「教養教育に関するアンケート」を実施し、教職員及び学生の意見を聴取している。

#### （1）授業科目毎の授業点検・評価報告書の提出

「授業評価結果を用いた授業改善実施要領」に基づき、授業科目の担当者は次年度の授業改善目標を立て、教務システム Live Campus 上で「授業点検・評価報告書」として公開することになっている。平成19年度は、459科目のうち417科目（90.8%）について、「授業点検・評価報告書」のWeb上での提出があった。

#### （2）組織別授業評価の実施

部会毎に教員会議を開催し、授業評価や改善について検討することになっている。検討した結果は、観点6-1-①で述べたように、「教養教育運営機構組織別授業評価報告書」にまとめ、大学教育委員会に提出している。

観点9-1-③： 学外関係者の意見が、教育の質の向上、改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

[トップ](#)

## 教養教育運営機構 9-1-③

### 学外関係者の意見に基づく自己点検・評価の取組

「国立大学法人佐賀大学大学評価の実施に関する規則」の第6条「部局等評価に関しては、必要に応じ、在学生、卒業生、学外者等の意見を聴取するものとする」に基づき、平成18年度の自己点検・評価報告書について、学外者による検証を受けた。また、「19年度教養教育運営機構の自己点検・評価に対する意見ならびに要望事項」に従い、観点9-1-④に示す「学生による授業評価」の結果に基づく「授業点検・評価報告書」の作成及び公表、部会教員会議における全学教育体制のあり方をめぐる協議などに取組んでいる。

### 資料9-1-③ 教養教育運営機構の自己点検・評価に対する意見ならびに要望事項

平成20年1月20日

国立大学法人佐賀大学  
教養教育運営機構長殿

19年度検証者  
佐古 宣道 

19年度教養教育運営機構長の自己点検・評価に対する意見ならびに要望事項

1. 本報告書の各項目の「改善を要する点」には具体的かつもう少し詳しく記載されるよう要望します。例えば、学外者検証の際の質疑応答に係るメモの質問2, 3, 4に対する回答については、それぞれ関係する項の中に簡潔で良いから記載しておいてください。自己点検・評価の目的は、改善すべき点を自らの見出し、その改善を行うことにありますから。
2. 上記の内容と重なりますが、p. 18の記述は今後の教養教育のあり方に大きな意欲を持っています。全学的な議論をどのようにして深めるのか、また、実施体制の課題を具体的に挙げて、それぞれ対応策を示すよう要望します。
3. p. 42の学生の授業評価の生データを利用することについては、教員のなかに抵抗があるとのことですが、教員自身が授業評価の結果を取りまとめ、その改善策を示して学生などが自由に閲覧できるように配慮すべきでしょう。
4. 共通教育あるいはニューリベラルアーツと呼称し、もっと中身の充実した教養教育を構築すべきとの意見があります。そのような観点から、教員アンケート結果で記述された意見なども踏まえて、教養教育のあり方論議を深めるよう要望します。なお、受験した学生からも貴重な意見が出ると想定されますけれど、学生アンケート結果には、記述された意見が記載されていないのはなぜですか。
5. その他、学外者検証の際の質疑応答メモを参照ください。

(出典 「教養教育運営機構の自己点検評価に関する学外者検証報告書」平成19年12月)

観点9-1-④： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。

[トップ](#)

## 教養教育運営機構 9-1-4

### 個々の教員の授業改善の取り組み

殆どの授業科目において「学生による授業評価」が実施されている。また、授業評価結果を用いた授業改善実施要領により、「学生による授業評価」の結果に基づき、各教員が「授業点検・評価報告書」を作成し、学生に対してWeb上で公開している。

平成19年度教員報告様式に現れた各教員による授業改善の取り組みを、以下に記述する。

#### 第1部会

- ・学生のニーズに合わせて実用的な教材を選び、進度に注意して、分かりやすい授業を心がけた。
- ・講義ノートを修正した。
- ・シラバスのより効果的な周知徹底
- ・オーラル・コミュニケーション能力の基礎になるリスニング力を養成するために、学生の要望に応じて、英語会話のディクテーションを毎時間実施している。
- ・英単語語彙養成のための単語テストなど
- ・採点方法の割合をはっきりと公表した。ネット上の書き込みによる質問に対応した。

#### 第2部会

- ・興味と理解をより深めるように、内容項目を縮小、厳選した。

#### 第3部会

- ・授業後の章レポートによる学生のコメント（評価）を次の講義にとりいれた。
- ・ビジュアルな教材を取り入れ分りやすくした。
- ・受講生が学部横断的であることを生かし、学部選択の動機づけや目的意識などの相違点について自由討論した。
- ・「Q&A」の時間を設け、質問用紙に自由記入させ、クラス全体の共通課題として集団討論に活用した。

#### 第4部会

- ・講義内容を絞って、わかりやすく説明した。
- ・パワーポイントを利用して 視覚的によく理解できるように工夫し、満足が高まるようにした。
- ・講義プリントを毎回準備し、講義の要点を絞り込んで伝えるよう工夫した。
- ・スライドをわかりやすいように作成しなおした。
- ・発達と臨床に重点を置き、心理学の基礎を講じた。特に要望の強かった視聴覚教材の紹介につとめた。
- ・受講希望者の増加が見込まれたので、最大限受講許可を出すこととした。また、要望のあった自己理解に関する項目に力点を置いた。
- ・要望が多かったメンタルヘルスとその実際及びうつに関して講じた。
- ・要望に応じ学内公開科目扱いを継続した。また、術語の平易な解説を心がけた。
- ・前回の授業評価でシラバスに適合していないという指摘があったので、シラバスを改正した。
- ・講義では毎回配布資料を準備し、できる限りノートを取る負担を少なくして、講義内容の理解に努めてもらう様に配慮した。

## 第5部会

- ・配布資料の改良。
- ・学生の授業評価の指摘により、説明を明確にすることにより、実験内容の誤理解が減少した。
- ・前回のアンケート結果で学生から要望の高かった「岩石・鉱物の実物をみたい」という意見を取り入れ、毎時間講義で取り上げる岩石・鉱物について可能な限り標本を回覧するようにした。今回のアンケート結果では高い評価を得ている。
- ・WEBでのレポートを導入して、学生の習熟度の把握と質問に対する早い対応を行えるようになった。
- ・毎回の授業の後に実施する「講義に関するコメント」に示される事項を、授業改善に活用した。
- ・受講生（外国人留学生）とのコミュニケーションを重視し、受講生からの要望・意見を授業に取り入れた。
- ・レポート記載内容がどのように評価・採点されているかが不透明であったため、全員のレポートを添削・返却するように改善した。
- ・授業アンケートで評価の低かった項目について改善を試みた。
- ・マスコ授業で学生からのフィードバックの困難さを感じていたが、出席カードにその時間の要約と質問、要望などを授業ごとに書かせ、提出させた。すべてに対処は出来なかったが、最低限学生の傾向をより知ることが出来た。
- ・前回の評価結果に基づき、専門性をできるだけ排した入門レベルの資料を提供し実験内容の説明を行った。その結果、良好な満足度が得られた。

## 第6部会

- ・受講者の理解を深めるために、講義には農作物の実物を持参することになっている。
- ・授業を面白く、分かりやすくするように心掛けています。
- ・材料力学が世の中でどのように役に立っているのかの概念をつかみやすくするために、有限要素法解析事例を授業中に示した。
- ・これまでの学生評価をもとにスライドに使用した写真の更新とTV等のビデオの有効利用を行った。
- ・環境問題に関する最新的话题を活用した。
- ・シラバス(B-05)については、授業の始めに説明を行ったが、十分に理解されていないようである。次年度にはシラバスの内容も含め、改善したい。復習(A-03)については、参考図書等を利用した復習を促進するように、次年度には小テストを含めた改善を検討したい。
- ・授業評価結果から授業における自分の長所と短所を洗い出し、レジメやスライドを利用し学生の理解を深めた。
- ・評価にもとづき写真を多用した資料を作成し、好評を得た。
- ・よりセラミックスに興味を持ってもらうよう、実物を準備して興味を高めた。

## 第7部会

- ・平成17年度の授業評価では、学生から欄外の記述箇所でも教員の説明がくどすぎるとの指摘があったので、平成19年度はこの点に注意して講義に臨んだ。平成19年度の授業評価ではそのような指摘を得ることもなく、満足度4.2の結果を得ることができたので、うまく改善できたと判断される。
- ・講義中心からフィールドワーク中心の授業形態へ転換した結果、学生の学習モチベーションの向上に効果が得られた。前回の評価結果に基づき、専門性をできるだけ排した入門レベルの資料、身近な題材を提供し、メール等での相談に随時応じた。その結果、良好な満足度が得られた。

## 第8部会

「話が速すぎて聞き取れないとの意見があったので、ゆっくり話すように努めている」、「学生が授業に集中できるよう配布資料を増やし、板書を減らした」、「英語の筆記体が読めない学生が増えたので、板書を活字体に改めた」、「パワーポイントなどを使って視覚的に把握しやすい講義資料を作成した」など、さまざまな工夫・改善に取り組んでいる。

- ・学生のニーズに合わせて実用的な教材を選び、進度に注意して、分かりやすい授業を心がけた。
- ・授業評価に基づき、講義のスピードを学生に確かめながら加減した。
- ・プレゼンテーションにおける日本人学生も交えた学生相互評価を継続している。
- ・英単語語彙養成のための単語テストなど

#### 第9部会

- ・配布資料の改善、板書の改善、会話スピードの改善。
- ・”時代の流れに沿った多様な運動プログラム”に対する学生の要望にこたえるべく、TAの動員や器具の購入等による授業運営条件の刷新を図った。
- ・全講義の要点をプリント化し（A4で計70枚）、配布して授業を行うようにした。
- ・ストレッチング等全動作についてチェックリストを配布し記入しながらスポーツ実習（トータルフィットネス）を行った。

#### 第10部会

- ・授業評価アンケートの結果を受けて、授業の進度を少し遅くすることとした。
- ・最近の情報機器の機能を中心に、実例を多く取り入れるようにしている。
- ・一般論だけではなく、数値データとその算出の仕方を加え、具体的なイメージがわくようにしている。
- ・集計処理の手順がわかりにくいとのことで、追加の資料を準備して、教科書の不足部分を補った。
- ・前年度の授業評価結果をふまえ、教育内容と方法を見直した結果、満足度が良好となった部分も少なくなかった。

観点9-2-1： ファカルティ・ディベロップメントが、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

[トップ](#)

## 教養教育運営機構 9-2-1

### (1) FDに学生や教職員の意見が反映されているか

各部会のFD委員から教職員の意見を聞き、FD委員会で検討している。また、学生による各種アンケートを通して学生の意見がFD活動に反映されるようにしている。

### (2) 本学部が主催したFD講演会等

教養教育運営機構では、以下のようなFD・SD活動を行った。

- ①各部会の授業点検評価、TA支援活動の実施状況調査
- ②学生による授業評価実施基準の作成
- ③ティーチング・アシスタント活動報告のまとめ
- ④FD講演会の開催

開催日：平成19年11月28日（水） 演題：「プレースメントテストからみた大学生の基礎学力の現状と経年変化」 講師：小野 博氏（メディア教育開発センター 教授）
--

### (3) 機構の部会等が行ったFD活動

#### 第7部会

教員会議（平成19年5月29日、9月4日、平成20年1月23日） 学生による授業評価における部会の授業科目に対する満足感、医文理融合の相互乗り入れによる学生参加型の授業科目の新規開講、授業改善計画の作成について等、部会の授業改善を図るための意見交換を行った。また、オンラインシラバスの入力内容を点検し、その結果を各委員に送付し、オンラインシラバスの充実を図った。
--

### (4) FD活動により授業が改善された例

授業改善については、現在のところ、教員個人が作成した授業改善計画によって行うことになっている。

FD講演会の際に出た意見、たとえばホワイトボードの設置、プロジェクタ設置教室の照明スイッチの配置等についての提案を直ちに実行し、改善した事例がある。

#### 第1部会

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・学生の基礎学力を增强するため、細かい説明を心がけた。</li><li>・映像を多く使い学生に多く考えさせるようにした。</li></ul> |
|--|

### 第3部会

- ・1年生にたいする導入教育の方法として、情報検索や論文・レポートの書き方などをアドバイスすることによって、大学での勉強方法を理解させた。
- ・できるだけ教科書を読ませるため、レポート提出を多くし（3回）、グループ発表と集団討論方式を導入した。
- ・毎回、出席を取るとともに、コメントや満足度・理解度などを確認し、随時、意見聴取と改善につとめた
- ・HPの動画の映写、および写真等のパワーポイントでの授業を4回取り入れた

### 第4部会

- ・サイコ・リトリートの実践を紹介した
- ・メンタルヘルスの保持増進に加え、近年話題の Metabolic Syndrome についても取り上げた。
- ・パワーポイントで動画を取り入れるなど、医学的内容を非専門分野の学生にもわかりやすく、かつ興味を持って聴講してもらえるようこころがけた。
- ・関連学会の最近の話題等も紹介した。
- ・労働者のメンタルヘルスなど最近の話題も紹介した。
- ・入門的参考文献などを紹介した。

### 第5部会

- ・講義方法の改良（ダイアログ形式）
- ・この数年、出席カードにコメント欄を設け、毎回の講義の感想や質問を集めた。次回の講義でこれらを説明した。
- ・講義初回に独自アンケートで、学生の知識範囲や本講義に望むこと等を調査し、それらの意見を参考にしながら、既に用意しておいた講義内容の中に盛り込む形で反映させていった。
- ・最近の生命科学の進展などの導入。
- ・平成18年度後期数理科学科の Best Prof に選ばれた。
- ・熱学の一部を削除し、後半の環境に「CO<sub>2</sub>による温暖化は本当か？」を加えて興味を高めるとともに新聞、テレビ報道の受け止め方、判断についての議論を加えた。
- ・各学部から受講生が来るため関係が希薄になりがちなので、電子メールを有効に使うことで講義の質問などの対応を図っている。
- ・出欠の取り方を工夫した（講義時間の確保）。着席の位置を指導した（視力の考慮）。
- ・講義内容及び例題を Web にて公開した。
- ・参考資料をプリントで配布。毎回質問票を提出させ次回に解説。
- ・毎回授業を行っている小試験の解答を Web で公開した。
- ・授業内容の具体的な流れを把握させるため、講義資料をプロジェクタで投影し、視覚的に把握できるようにした。

## 第6部会

- ・工場見学をして、企業側から提示された課題をグループを作って検討し、発表するなど課題解決型の授業を目指した。
- ・数名のグループを作り、企業から提示いただいた課題を検討検証し、その解決策をビジネスプランとしてまとめ、ビジネスプランコンテストを実施した。課題解決型授業。
- ・企業に、インターンシップとして派遣した。
- ・授業を面白く、分かりやすくするように心掛けています。
- ・Moodle を用いて講義 HP を運営し、各種のコンテンツ提供、レポートの回収、評価結果のフィードバック等を行った。
- ・e-Learning(LMS)講習会で学んだ方法を活用し、学生が LMS で自主学習できるサイトを開き、学生の理解度が向上した。
- ・FD 研修から自分の授業に役立つ点を探し、学生の理解を深めることに役立てた。
- ・学生が討論・発表しやすい環境を作り、また、プレゼンテーションの方法について指導した。
- ・携帯機やそのコンポーネントなど、現物・実物を示すと共にプロジェクターを用いて理解度を高めた。
- ・HP に配布資料を pdf として置き、授業前あるいは授業後でも欠席者が入手できるようにした。
- ・講義内で説明する熱機器を、身の回りにある装置を例に出して説明することで、より親しみやすくした。
- ・学生の関心を高めるために、IT 実務家、ベンチャー起業家等を招いて授業の中で講演会を開催した。
- ・e-learning を利用して学習資料を提供し、毎週テストを課して予習復習を強制した。
- ・動画などを用いて、できるだけ理解を促すようにした。
- ・シラバス中に家庭学習内容を記載する事により学習のポイントを周知した。

## 第7部会

年3回の教員会議を開催し、各種アンケート結果に基づき議論を重ねるとともに、後述する授業点検・評価報告書の作成過程を紹介する等、授業の改善に取り組んだ。その結果、平成18年度には3.19だった満足感が、平成19年度には3.56へと改善された（根拠資料：佐賀大学共通アンケート調査（卒業・修了予定者対象）報告書）。

- ・高等教育開発センターのHP「リレー・インタビュー」の内容を参考にしながら、学外での簡便な調査を実施し、学修相談に随時応じながら具体的で身近な問題を受講生に各自設定してもらうよう、働きかけを強化した。

## 第8部会

- ・学生の基礎学力を增强するため、細かい説明を心がけた。
- ・研究集会のパネルディスカッションにおける事例を参照した。
- ・LM教室を使用し、視聴覚教材を用いて、英語の運用力の訓練に時間をかけた。
- ・e-Learningによる英語授業の企画・開発・制作・実施。
- ・ビジターとして授業に参加している日本人学生に対しても、別途アンケートを実施している。
- ・出席を平常点に入れてほしいという要望が多かったので、今年度から実施。

## 第9部会

- ・メモ用紙による学生の疑問点、質問等の回収と解説による授業の改善。
- ・要介護高齢者や障害者の人権に関する知見を講義のなかに含めた。

## 第 10 部会

- ・ FD におけるアンケート利用情報をもとにした学生とのメールコミュニケーションで授業理解度の把握度が向上した。
- ・ 所属学科では効果的な FD のために JABEE 認定を実現したが、本科目においてもこの基準を満たすように教育内容と方法を継続的に工夫しており、少なからず教育の向上及び改善に結びついていると考えられる。
- ・ 1) 新井の 10 点方式：講義の際、質問等発言した受講者に 10 点を与え、発言を促すことによって受講者の理解の程度を把握する
- 2) 新井のリテール対応方式：各受講者の苦手とする講義細目のミニテストによる把握と当該苦手細目克服のためのレポート課題提示、並びに、そのフォローアップ
- 3) 新井の A4 用紙 1 枚方式：定期試験に A4 用紙 1 枚を持ち込み可として当該用紙作成による試験勉強を促し、提出させて学習習熟度を評価する。暗記力を試験するのではなく、重要と思われる事項は当該用紙に記入させ、それら知識を使って課題を解く能力を試している。
- ・ 講義資料の改訂・配布。
- ・ タイピング、ワープロ、表計算などの基本的なリテラシーに加えて、情報を収集し、これに主体的な加工を施し、発信するまでの一連のプロセスを演習を通して学習させた。
- ・ 都市工学科の技術職員と TA による少人数教育を実施している。
- ・ 担当した自由研究に関して、前年度の内容と方法の問題点等について見直しを図った上で、取り組みやすいように工夫した資料を作成し、配布した。
- ・ 担当部分に関して、前年度の内容と方法の問題点等について見直しを図った上で、演習に取り組みやすいように工夫した授業プリントや教材を作成し、配布した。

観点9-2-②： 教育支援者や教育補助者に対し、教育活動の質の向上を図るための研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

[トップ](#)

## 教養教育運営機構 9-2-2

TAの活用状況 情報処理、実験科目について、「国立大学法人佐賀大学ティーチング・アシスタント実施要領」及び「佐賀大学ティーチング・アシスタント運用要領」に基づき、助手及びティーチングアシスタント（TA）による教育支援及び教育補助を行い、受講生の学習向上を図っている。

### （1）職務概要

主に化学、生物系の実験関連の科目、数学の演習科目、インターネットを利用したeラーニング科目、情報処理科目において、TAの任用により教育補助に当たらせている。また、第9部会では大学院生の指導を担当している教員のほとんどが大学院生をTAとして採用し、TAの指導も併せて行っている。必要がある場合は、機構の予算でTAの費用を手当している。なお、TAの運用にあたっては、教育活動の質の向上を図るための研修等を実施し、「ティーチング・アシスタント（TA）実施報告書」を提出している。教養教育運営機構では、平成19年度は情報処理科目およびeラーニング科目を中心に、前学期は延べ78名、後学期には延べ540名の授業においてTAを起用した。主たる職務として、講義や演習の準備、講義や演習の現場での担当教員の補助、受講生からの質疑応答、提出課題の配布、回収、採点補助などである。

### （2）TAのトレーニングについて

コンピュータアプリケーションや特定システムを使う講義が多かったため、大部分の科目で何らかの研修やミーティングが行われた。平成19年度ティーチング・アシスタント（TA）実施報告書の記載を参照すると、以下のような記述がみられる。任用期間中も、必要に応じてメールなどでTAの相談に対応していた教員がほとんどであった。

- ・授業開講前に事前説明会を開催し、テキストによる準備ならびに演習補助の方法などについて指導を行った。
- ・TA業務参加に際しては展開内容・方法の検討会を毎時間ごとに行ってきた。審判業務や男女別の分担の場合については、指導案を指導教官と相談の上実施し、授業中の再検討や、授業後の検証も行っている。
- ・演習で使うマニュアルを事前に渡し、操作法の予行演習をしてもらった。
- ・TA業務の開始前に、あらかじめ業務内容の確認と実施方法に関してTAへの研修を実施した。

### （3）受講生への教育効果

受講生の習熟度の差の低減、質疑応答への細かい対応、先輩や仲間から教わるという気楽さなどが主たる教育効果である。TAの存在によって、教員だけでは対応しきれない細かいケアができる利点が多い。しかしながら、TAの理解が不十分な場合、受講生にとってはむしろマイナス効果になる危険性もあるため、事前研修のいっそうの充実が必要である。

### （4）TA自身への教育的効果

TA自身も、受講生からの多種多様な質問に答えるうちに、自らの理解も深まっている実感を得ている様子である。また、受講生のプログラムや手順の誤りや問題点の発見作業は、そのままTAのトレーニングとなっている。さらに、安全への注意喚起や事故への対処なども、受講生のみならずTA自身の今後に変役に立つと考えられる。

### （5）事務職員の研修等参加状況

教養教育運営機構の事務系職員は、国立大学教養教育実施組織会議及び事務連絡協議会、12大学教養教育実施組織代表者会議・事務協議会に参加し、教養教育の質の向上を図っている。また、学務部教務課に配置され、eラーニングスタジオのネット授業などICTを活用したコンテンツ制作に携わっている教務補佐員については、各種会議、セミナー、eラーニングに関わる学会等に派

遣し、ICT を活用した教育支援に必要な知識、技能の習得に取り組んでいる（資料9-2-②）。

**資料9-2-② eラーニングスタジオの教務補佐員による会議・セミナー・学会等の参加状況**

開催期日	開催場所	会議・セミナー・学科等
2007年6月29日	キャンパス・イノベーションセンター	NIME eラーニングセミナー「大学におけるオープンソースLMS採用の問題点と大学連携によるコンテンツの共有」
2007年7月28日	KCS 福岡情報専門学校	Webデザイン指導者向けセミナー
2007年8月22日	アップルストア銀座 3Fシアター	最新CG映像&3Dソフトセミナー
2007年8月30日	西南学院大学	日本リメディアル教育学会第3回全国大会
2007年9月12日	信州大学工学部	教育システム情報処理学会
2008年3月23日	佐賀大学	日本リメディアル教育学会九州部会

(出典 平成19年度eラーニングスタジオ実施報告書15-17頁)

## 9 管理運営

観点 11-1-1： 管理運営のための組織及び事務組織が、大学の目的の達成に向けて支援するという任務を果たす上で、適切な規模と機能を持っているか。また、危機管理等に係る体制が整備されているか。

[トップ](#)

本学の教養教育の実施機関として、佐賀大学教養教育運営機構を設置し、運営機構長及び副運営機構長（3名）、学務部教務課から教養教育管理係（2名）、教養教育教務係（3名）を配置している。また、教養教育を円滑に実施するために設置する第1～10の各部会に、部会長及び幹事（3名）を置き、教養教育運営機構による教養教育の実施を支えている。

危機管理については、「国立大学法人佐賀大学危機管理対策要項」に従い、平常時の危機管理、緊急時の危機管理、収束時の危機管理について、それぞれの局面に応じた課題を検討し、実行することになっている。また、「気象警報発表時等における授業等の取扱いに関する申合せ」に基づき、台風等の自然災害の発生時には休講措置をとることにより、学生の事故を防止している。

観点 11-1-2： 大学の目的を達成するために、学長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える組織形態となっているか。

[トップ](#)

運営機構長及び副運営機構長の選考は、佐賀大学教養教育運営機構規則の規定により、教養教育運営機構協議会の議を経て、学長が行うこととなっている。また、学長を議長とする国立大学法人佐賀大学教育研究評議会は、教養教育運営機構長を評議員としており、教養教育の編成等に関する事項について効果的に意思決定できる組織形態となっている。

観点 11-1-3： 大学の構成員（教職員及び学生），その他学外関係者のニーズを把握し，適切な形で管理運営に反映されているか。

[トップ](#)

#### （1）教職員及び学生のニーズ

教養教育運営機構に設置された第 1～10 の各部会に所属する教員を対象とした「教養教育に関する教員アンケート」、在校生を対象に大学教育委員会が実施する「学生対象アンケート」から得られた結果に基づき、教養教育に対するニーズを把握し、自己点検・評価に利活用している。

#### （2）学外関係者のニーズ

学生支援室高大連携推進部門による「佐賀大学入学者の進路選択に関するアンケート」に基づき、入学予定者の一般教養に対するニーズを把握している。また、卒業予定者を対象とした「国立大学法人佐賀大学共通アンケート」を用いて教養教育に対する満足度を把握するとともに、自己点検・評価に利活用している。また、機構長は、佐賀県高等学校長協会が主催する「佐賀大学と佐賀県高等学校長との連絡会」に出席し、県内の高等学校からの要望等に対応している。

観点 11-1-4： 監事が置かれている場合には、監事が適切な役割を果たしているか。

国立大学法人佐賀大学監事監査規程に基づき、教養教育運営機構の業務及び会計について、監事による監査を受けており、業務の効率的な運営、会計経理の適正化を図っている。

観点 11-1-5： 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上のための取組が組織的に行われているか。

[トップ](#)

国立大学教養教育実施組織会議及び事務連絡協議会、12 大学教養教育実施組織代表者会議・事務協議会、九州地区一般教育研究協議会に、運営機構長、副機構長及び事務系職員が参加している。また、運営機構長は国立大学協会主催の「大学改革シンポジウム」等に参加し、職員の資質を向上するための企画立案能力の育成に努めている。

観点 11-2-1： 管理運営に関する方針が明確に定められ、その方針に基づき、学内の諸規程が整備されるとともに、管理運営に関わる委員や役員の選考、採用に関する規程や方針、及び各構成員の責務と権限が文書として明確に示されているか。

## 教養教育運営機構 11-2-1

### (1) 機構長の選出方法

機構長及び副機構長は、教養教育運営機構長及び副運営機構長候補者選考規程及び教養教育運営機構長及び副運営機構長候補者選考細則によって、選考の手続きが実行されている。各種委員会の委員及び補助組織の委員の選出方法については、規程または内規等で規定されている。

### (2) 意思決定の方法

#### (2-1) 機構長その他の役職者の選考方法、役割、権限、機構長の補佐体制

機構長及び副機構長は、教養教育運営機構長及び副運営機構長候補者選考規程及び教養教育運営機構長及び副運営機構長候補者選考細則によって選考の手続きが実行されている。各種委員会の委員及び補助組織の委員の選出方法については、規程または内規等で規定されている。

主要な委員会の委員長は、機構長または副機構長が兼ねている。

機構長は、学部または部会で推薦された者のうちから、前年度の協議会で投票して選定される。その役割は、機構の業務全般を掌理することである。

副機構長は3名であり、そのうち1名は機構長補佐として機構長が指名し、2名は教務委員長及び広報委員長を当てている。機構長補佐は、機構長の職務全般について助言等を行い、また機構長に事故があるときは、機構長を代行する立場である。副機構長のうち1名は、教務委員会で互選によって選ばれた委員長を、もう1名は広報委員会で互選により選ばれた委員長を指名する。機構長及び副機構長は、企画委員会で意思を統一し、一体となって機構の運営に当たることを目指している。

平成20年度からは、副機構長を委員長とする教務委員会、FD委員会、広報委員会に、それぞれ副委員長を置き、委員長の職務を補佐することとしている。

各部会の部会長の選出方法は、部会によって異なる。選挙を行う部会、前任者の推薦に基づき選出する部会、学部毎のローテーションを決めている部会などがある。（資料「部会活動実績等報告書」）

#### (2-2) 教授会及び委員会等の組織、委員等の選出方法、役割、権限、会議の開催実績

教養教育運営機構には、教授会に相当する組織として、協議会を設置している。

協議会では、教養教育運営機構規則第13条により、次に掲げる事項を審議する。

#### 資料 11-2-①-1 教養教育運営機構協議の審議事項

- (1) 教養教育科目に係る教育課程の編成及び実施に関する事。
- (2) 部会の構成及び改編等に関する事。
- (3) 教養教育科目担当非常勤講師の任用に関する事。
- (4) 運営機構の予算及び決算に関する事。
- (5) 運営機構及び協議会に関する大学評価に関する事。
- (6) その他運営機構の管理運営に関する事。

(出典 佐賀大学教養教育運営機構規則)

人事については、機構長その他の役職者の選定、非常勤講師の選考、教員の所属部会の審査などを行っている。また、学生の教育に関する重要事項については、教育課程のうち教養教育に関する事項の審議、単位の審査などを行っているが、決定は学生の所属する学部教授会が行っている。

協議会は、佐賀大学教養教育運営機構規則第 17 条第 2 項によって、審議事項の一部を運営委員会に委任し、審議の効率化を図っている。

教養教育運営機構には、第 1 部会から第 10 部会まで、10 の部会が置かれ、本学の専任教員（教授、准教授、講師）は原則としていずれかの部会に所属することになっている。部会は、教養教育運営機構規則第 9 条により、次に掲げる任務を行う。

#### 資料 11-2-①-2 教養教育運営機構協議の審議事項

- (1) 授業計画（授業科目の設定、時間割の編成、教室配当及び授業クラスの編成等を含む。）の策定に関する事。
- (2) 教養教育科目を担当する教員に関する事。
- (3) 教養教育科目を担当する非常勤講師の任用計画の策定に関する事。
- (4) 教養教育の実施のための経費に関する事。
- (5) 教養教育カリキュラムの調整に関する事。
- (6) 教養教育科目に係る試験等に関する事。
- (7) 部会の大学評価に関する事。
- (8) その他教養教育の実施に関し必要な事。

(出典 佐賀大学教養教育運営機構規則)

また、各種委員会には各部会から 1 名の委員を選出することが通例となっており、各部会は委員会を通じて、機構の運営にも関わっている。

部会長は、部会運営の責任者である。部会長の推薦方法は、部会によって異なる。（ローテーションを決めている部会、投票を行う部会、前任者が推薦する部会などがある。）

(2-3) 学生、教職員その他の関係者の意見の反映

学生からは、授業評価及びアンケートによって意見を聴いている。

教職員については、部会教員会議及び協議会で意見を聴いている。

(3) 他の組織との関係

(3-1) 学長、役員会、教育研究評議会等の上部組織との関係

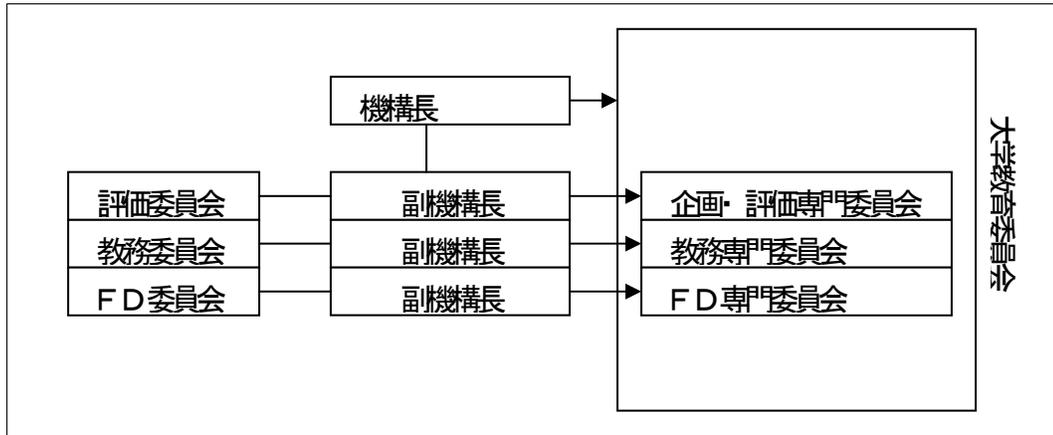
機構長は、教育研究評議会に評議員として出席しており、教育研究評議会の定めた基本方針に従って機構を運営している。

また、大学運営連絡会において、学長及びその他の役員並びに学部長と大学運営全般について協議している。教育担当理事を補佐する組織として設置された「教育室」に機構長が入り、教育に関する事項について理事を補佐している。

(3-2) 全学委員会等との関係

平成 18 年度から、機構長と副機構長 3 名は、大学教育委員会に委員として出席しており、大学教育委員会の定めた方針に従って、教養教育を実施している。(図 1) 平成 17 年度までは、教務委員が出席していた。(なお、平成 20 年度からは、副機構長 3 名が機構長の指名となり、広報担当が企画・評価専門委員会に、教務担当が教務専門委員会に、FD 担当が FD 専門委員会に入ることになった。)

資料 11-2-①-3 平成 18 年度以降の大学教育委員会と機構の関係



(2) 意思決定過程

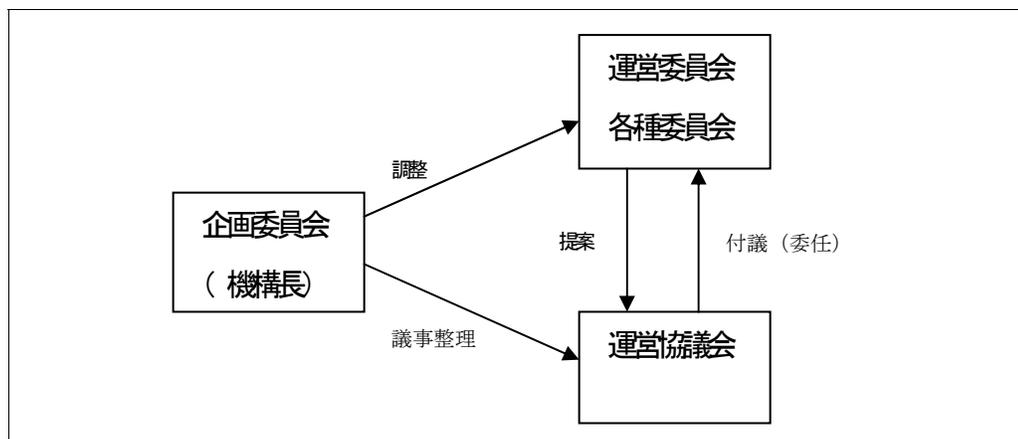
教務関係については、教務委員会で審議した内容を教務委員長（教務担当の副機構長）が協議会（一部は運営委員会）に報告し、それに基づいて機構としての判断を行っている。それ以外の重要な事項についても、各種委員会で審議し、その報告に基づいて運営委員会及び協議会で審議決定している。

軽微な事項、機構長の裁量に委ねられている事項、委員会や部会間で調整が必要な事項については、企画委員会で議論している。

(現在では、協議会が設置する常設の委員会は、機構長または副機構長が委員長となっているので、企画委員会の議論に基づいて定めた機構の方針に沿って、委員会での審議を行うことが慣例となっている。) 審議機関相互の関係は図3に示す。

教養教育は、全学に関係するので、特に学生の履修に直接関係する事項については、大学教育委員会(特に教務専門委員会)を通じて、各学部と密に情報交換を行い、円滑な意思決定を行うことができるようにつとめている。特に卒業要件に関わる事項は、学部の了解を得て、機構としての意思決定を行っている。

**資料 11-2-①-4 審議機関相互の関係**



(4) 規程整備等

(4-1) 管理運営に関する方針

機構の主要な業務は教育であるが、教育には教員の主体的な取り組みが不可欠であることから、全体の整合性やバランスを考慮しながら、教員の合意を形成することを機構の管理運営の基本的な姿勢としてきた。また、ルールが明確になっているものについては、できるだけ審議を簡素化するようにしている。特に協議会が委任した事項については、運営委員会の決議を以て協議会の決定としている。

(4-2) 規程等

諸規程の体系は以下の通りである。原則として、下位規程は、上位規程に根拠を持つ。

**資料 11-2-①-5 教養教育運営機構の規則体系**

- ・ 教養教育運営機構規則
- ・ 教養教育運営機構長及び副運営機構長候補者選考規程
- ・ 教養教育運営機構長及び副運営機構長候補者選考細則
- ・ 教養教育運営機構運営規程
- ・ 教養教育運営機構運営委員会内規
- ・ 教養教育運営機構企画委員会内規
- ・ 教養教育運営機構教務委員会内規

- ・ 教養教育運営機構主題科目開設要項
- ・ 九州地区国立大学間合宿共同授業実施要項
- ・ 佐賀大学科目等履修生規程
- ・ 学内開放科目開設要項
- ・ 教養教育運営機構広報委員会内規改正案
- ・ 教養教育運営機構ファカルティ・デイベロップメント委員会内規
- ・ 教養教育運営機構評価委員会内規
- ・ 教養教育運営機構部会所属に関する内規
- ・ 教養教育運営機構管理運営補助組織に関する内規
- ・ 実験室運営要項
- ・ LM教室運営要項
- ・ CALLシステム運営要項
- ・ リメディアル英語教育実施要項
- ・ リメディアル物理教育実施要項
- ・ 教養教育科目履修規程
- ・ 教養教育科目履修細則

#### (4-3) 役員及び委員等の選考

機構長及び副機構長は、教養教育運営機構長及び副運営機構長候補者選考規程及び教養教育運営機構長及び副運営機構長候補者選考細則により、選考している。機構長については、学部または部会で推薦された者のうちから、前年度の協議会で投票して選定している。

なお、各種委員会の委員及び補助組織の委員については、規程または内規等に則って選出している。

観点 11-2-2： 大学の活動状況に関するデータや情報が適切に収集、蓄積されているとともに、教職員が必要に応じて活用出来る状況にあるか。

[トップ](#)

## 教養教育運営機構 11-2-2

### 情報の収集

#### (1) 意思決定に必要な情報の収集状況

教務課が必要な情報を収集して、役職者及び各種委員会等に提供している。

#### (2) 教職員に対する公開の状況

委員会報告などを通じて情報を共有するようにしている。また、ホームページを通じて内外に情報を提供している。重要な規程や内規も大学のホームページに掲載している。

観点 11-3-1： 大学の活動の総合的な状況について、根拠となる資料やデータ等に基づいて、自己点検・評価が行われており、その結果が大学内及び社会に対して広く公開されているか。

[トップ](#)

## 教養教育運営機構 11-3-1

### 評価体制

平成 18 年度に評価委員会を設置し、評価担当組織となっている。

#### (1) 個人評価

佐賀大学においては、平成 16 年度から教員個人の自己点検・評価を実施している（平成 16 年度は試行）。教養教育運営機構としては、専任教員がいないので、個人評価は行っていないが、各部局等で教養教育を含む教育活動について評価が行われている。

#### (2) 自己点検・評価の体制

### 評価委員会

機構に評価委員会を設置し、機構の自己点検・評価を実施する体制を整えている。評価委員会には、機構長、副機構長、部会長が入っている。

### 自己点検・評価の実施状況

平成 19 年度に自己点検・評価と学外者による検証（外部評価）を実施している。

（別紙資料：2007 年 自己点検・評価報告書）

### 自己点検・評価結果の公開

平成 14 年に全学教育センター（現在の教養教育運営機構に相当）が大学評価・学位授与機構の評価を受審している。その際に、自己評価書を提出している。

平成 18、19 年度に自己点検・評価を実施し、その結果を佐賀大学ホームページの「大学評価について」から、公開している。  
(<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/hyouka.htm>)

観点 11-3-2： 自己点検・評価の結果について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による検証が実施されているか。

## 教養教育運営機構 11-3-2

### 外部評価の体制

平成 15 年度に、運営委員会を中心に外部評価を計画し、学外の有識者を評価委員に委嘱して、実施した。（現在は、機構に評価委員会を設置したので、評価委員会が実施を担当している。）

平成 15 年度に外部評価を実施した。（平成 16 年 3 月『全学教育・教養教育外部評価報告書』）

平成 18 年度に学外者による自己点検・評価の検証を行った。（平成 18 年 12 月「教養教育運営機構の自己点検評価に関する学外者検証報告書」）

平成 19 年度に学外者による自己点検・評価の検証を行った。（平成 19 年 12 月「教養教育運営機構の自己点検評価に関する学外者検証報告書」）

観点 11-3-3 : 評価結果がフィードバックされ、管理運営の改善のための取組が行われているか。

## 教養教育運営機構 11-3-3

### 評価結果に基づく改善体制

教養教育運営機構運営委員会、教養教育運営機構評価委員会で評価結果の活用について議論し、各部会に対応することになっている。観点 9-1-③で述べたように、平成19年度は、「国立大学法人佐賀大学大学評価の実施に関する規則」に基づき、学外者による検証を受け、「19年度教養教育運営機構の自己点検・評価に対する意見ならびに要望事項」への対応として、「学生による授業評価」の結果に基づく「授業点検・評価報告書」の作成及び公表、部会教員会議における全学教育体制のあり方をめぐる協議など、管理運営の改善に取り組んでいる。

観点 11-3-4： 大学における教育研究活動の状況や、その活動の成果に関する情報をわかりやすく社会に発信しているか。

[トップ](#)

#### 教養教育運営機構 11-3-4

佐賀大学における学術研究・教育活動の成果を収集し、学内外に無償で公開するシステムである「佐賀大学機関リポジトリ」に、教養教育科目のシラバス等のコンテンツを掲載し、活動の成果に関する情報を社会に発信している。また、教養教育運営機構のホームページに、協議会や特別講演会、公開授業などのFD活動に関する情報を掲載し、社会に発信している。

資料編:平成 19 年度計画の進捗状況

中期計画 番号	年度計画 (部局)	進捗状況
001-01	①高等教育開発センターの企画開発部門を企画部門と e-learning 教育開発部門に分割し、本学の培ってきた e-learning 教育のコンテンツを充実する。	①ネット授業推進委員会の廃止を受けて、機構長の下に e ラーニング実施委員会を設置し、従来のネット授業 (専門教育科目を含む) の業務を継続する体制を作った。また、デジタル表現技術教育準備委員会を設置し、来年度から新しい教育プログラムを実施するための準備を行った。e ラーニング実施委員会と高等教育開発センターとの連携体制を確保した。
001-02	②高等教育開発センターは GP 推進委員会と連携して、学内の GP シーズを育成し、GP 申請を支援する。	1) デジタル表現技術教育プログラムを開発し概算要求を行ったが、採択されなかったため、主題科目を中心に実施することになった。
002-01	①英語教育や大学入門科目を中心にして、少人数教育の授業科目の充実を図る。	1) 企画委員会及び運営委員会で、専門教育の一部を含む全学教育の実施体制として、全学教育機構に改組する案を作成した。また、先行大学の状況を調べるため信州大学の全学教育機構について訪問調査した。(協議会で報告) 中長期ビジョンで提案された全学教育機構案を検討課題とし、見解を学長に提出した。
002-02	①英語教育や大学入門科目を中心にして、少人数教育の授業科目の充実を図る。	1) 「佐賀大学英語教育の基本指針」に基づき、教養教育における英語教育について第 8 部会で検討した。平成 20 年度より補習授業を行う予定である。 2) 大学入門科目は、少人数教育を行った。
003-01	①教養教育運営機構は豊かな教養と実践力を養うための主題科目の量的・質的改善を図るため、新しいカリキュラムを創設する。加えて、医文理融合型あるいは相互乗入れ方式の新しい分野及び新設を含めたカリキュラムの創設と整備を継続する。	①学部間共通専門教育科目を開設するための規程整備等の準備を行った。
003-02	① 2 キャンパス化にかかる問題、課題を継続して検討し、教養教育実施体制の整備を図る。	1) 機構運営委員会へ医学部教務委員の参加を得て、鍋島キャンパスにおける主題科目の開講などについて検討した。さらに、2 キャンパスを結んで遠隔授業ができる体制を整備した。
004-01	①学生参加型授業など、課題探求力と問題解決力を養う授業形態を工夫するとともに、実施する科目数を確保する。	1) 「身近な環境」(第 7 分野) など学生参加型授業を開講した。引き続き、実施科目の確保について検討した。
005-01	①「地域と文明」に関する分野の授業科目等が、課題探求力と問題解決能力の涵養、佐賀という地域への理解に資するよう、授業の充実を図るための活動を積極的に実施する。	1) 「地域と風土」、「進学・就職の地域間移動に見る佐賀」など開講した。引き続き、佐賀地域の理解に資する複合型授業を検討した。平成 20 年度に追加開講の予定である。
006-01	① TOEIC・TOEFL 等の外部資格試験等を引き続き利用するとともに、実用的な英語運用能力を全学的に高めるため、英語担当教員を軸として、語学教育協力体制案を策定する。また、学生へのアジア系語学等の履修機会を増加させるための指針を策定する。	2) TOEIC・TOEFL 等の外部資格試験等の受験を促進するため、留学生センターの当該開講科目を履修できるように配慮した。なお、英語教育について第 8 部会において、「佐賀大学英語教育の基本方針」に基づいて検討した。平成 20 年度より補習授業を行う予定である。
007-01	①これまで実施してきた教養教	1) FD 委員会と教務委員会とが協力し、高等教育開発センター等関係機関と連

	育と、入学者の履修歴との対応関係、教養教育の内容が入学者のニーズを満たしているかを調査し、満たすべきニーズがあれば、そのニーズを満たすための方針を定める。	携して、教養教育科目の学生による授業評価アンケートの結果等を基にした入学者の満足度、新たなニーズの把握のためのシステム作りの検討を開始したが、整備には至っていない。
021-01	①在校生、卒業生、就職機関などに対する調査を継続して実施するとともに、これまでに実施してきた調査から得られた各種データを活用し、教育目標に照らして妥当な達成水準にあるかを分析する。	①高等教育開発センター等関係機関と連携して、各種の調査から得られたデータの分析を引き続き進めている。
034-01	①本学の教育理念・目的に応じた教養教育の在り方を検証しながら、全学年を通じた教養教育カリキュラムを継続して実施する。	1) 教養教育カリキュラムについては、全学年を通じて履修できるよう実施した。
036-01	①学部、大学院の教育課程を通して、医文理融合型の学際的な教育コース、プログラム等の創設を図り、可能なところから実施する。	1) 学部間共通専門教育及び特別教育プログラムを開設するための規程整備などの準備を行った。
038-01	①PBL(問題立脚型)学習、インターネット利用による教育方法等の見直し、又は拡充を引き続き図る。	2) eラーニングのようなODV形式の講義でも現在の授業評価アンケート等が実施可能になるよう、多様な環境に適応可能な授業評価改善プロセス支援システムの開発の検討を開始し、プロトタイプシステムの作成に着手した。
039-01	①eラーニングの内容の拡充や利用の普及を引き続き進める。	①eラーニングの内容の拡充や利用の普及を引き続き進める。
041-01	①外国人留学生をティーチングアシスタントとして引き続き採用し、少人数グループ・チュートリアル形式の語学学習等に活用する。	1) 機構ではほとんどの外国語授業でネイティブスピーカーによるグループ・チュートリアル形式の学習が行われており、外国人留学生のTA採用については、引き続き検討中である。
043-01	①成績評価について、学生自身による自己点検評価を促すため、授業科目の特性に応じ、試験問題、模範解答例等の公開を進める。	1) 各教員に、試験問題、模範解答例の保存を義務づけた。しかしながら、レポート形式の場合への対応や公開方法に関しては、引き続き検討を行っている。
047-01	①教職員が所属する部局の枠を越えて、横断的に教育に貢献できるような柔軟な教育研究組織の在り方について、本学の目的に沿った全学的な検討のもとに、具体的構想を策定する。	①佐賀大学中長期ビジョンの全学教育機構(案)とをもとに検討し、全学教育機構(案)の組織体制、責任部局化などの教育システムを一部承認するとともに、そのカリキュラムについてはその実現性を含め慎重に行う必要性を提言した。
049-01	①ティーチングアシスタント(TA)を教育支援者として活用するとともに、大学院学生自身の教育効果を上げるようなTA養成指導を行う。	1) 実験、実習、実技、eラーニングを中心に、TAを採用している多くの教養科目において、設備やソフトウェアの利用方法、学生への対応の仕方などに関する教育効果を高めるための事前研修を行った。
051-01	①情報機器の利用に必要な施設・設備等の整備計画を引き続き実行する。	①講義室やLL・ML教室における情報機器の更新・整備、さらに遠隔授業が可能な教室の整備など、引き続き整備・充実を図っている。

052-01	①情報処理システム及びネットワークシステムを利用できる演習室及びネットワーク環境を整備する。	3) 教養教育運営機構で管理している講義室や実験室のほとんどで、有線または無線のネットワークが利用可能である。
064-01	①ネット授業のコンテンツを教養教育から学部教育まで全学的立場で充実し、実質的な展開を行うための環境整備を行う。	1) 機構と高等教育開発センターが連携協力して、e ラーニングの実施、拡大を図っている。LMSの普及については、引き続き検討を行う。
073-01	①ティーチングアシスタント(TA)を教育支援者として活用するとともに、大学院学生自身の教育効果を上げるようなTA養成指導を行う。	1) 実験、実習、実技、e ラーニングを中心に、TAを採用している多くの教養科目において、設備やソフトウェアの利用方法、学生への対応の仕方などに関する教育効果を高めるための事前研修を行った。
135-01	①地域創成教育プログラムによる地域と大学との地域連携教育・研究を推進し、「地域学」に関する成果を報告する。	1) 引き続き、第7部会の授業科目の一部を地域創成教育プログラムとして開講するとともに、「地域学」に関する成果をまとめた教科書「大学教育と地域創成(仮)」の刊行に協力した。
135-02	①地域学歴史文化研究センターにおける「地域学」創出の基本方針を明らかにし、地域(佐賀)の歴史文化に関する研究を推進する。	1) 佐賀市教育委員会との協議を進め、地域住民・市民への開放を念頭に置いた、「佐賀の地勢」、「佐賀の経済」、「佐賀の医療」、「佐賀の教育」の4テーマから構成する「『佐賀』入門一本当の『佐賀』を探る」を、平成20年度から開講することを決めた。